

令和4年度【県北版】学校教育指導の重点

幸せを紡ぐ県北の教育



福島県教育庁県北教育事務所

目 次

◇ すべては愛情と情熱から	1
---------------------	---

戦略Ⅰ 学校教育指導の重点全体構想



(1) 令和3年度を振り返って	2
(2) 令和4年度の重点	
○ 確かな学力	8
○ 豊かな心	12
○ 健やかな体	14
○ つながる幼児教育	16
○ 特別支援教育の充実	18

戦略Ⅱ 各教科等の指導の重点



(1) 令和3年度の要請訪問等を振り返って	20
(2) 各教科等の指導の重点の見方	24
○ 国語	26
○ 社会	28
○ 算数、数学	30
○ 理科	32
○ 幼児教育、生活科	34
○ 音楽	36
○ 図画工作、美術	38
○ 体育、保健体育	40
○ 家庭、技術・家庭	42
○ 外国語(英語)	44
○ 特別の教科 道徳	46
○ 外国語活動	48
○ 総合的な学習の時間	50
○ 特別活動	52
(3) 特別支援教育	54

戦略Ⅲ 各種教育の指導の重点



◎ 生徒指導	59
○ キャリア教育	62
○ 図書館教育	63
○ 情報教育	64
○ 環境教育	65
○ へき地・小規模学校教育	66
○ 国際理解教育	67
○ 健康教育	68
○ 防災教育	69
○ 放射線教育	70
○ 人権教育	71
○ 主権者教育	72

〈資 料〉



○ 私の授業レシビシート	73
○ 幼児教育と小学校教育の「育ち」と「学び」をつなぐために	74
○ 特別支援教育の充実のために ～Webコンテンツ等～	75
○ 特別な支援を必要とする子どもに関する進学時の引継について(例) ..	76
〈付録1〉 これが今の私	
〈付録2〉 私の授業プラス日記	

すべては愛情と情熱から

今年度、2年ぶりに全国学力・学習状況調査及びふくしま学力調査が実施されました。

全国学力・学習状況調査の小学校算数科では、思うような結果につながらず、肩を落とされた先生も多いのではないのでしょうか。それ以上に、子どもたちの悔しい思いを自分事として受け止め、「何とかしなくては」と危機感を募らせている先生がほとんどなのではないかと思います。改めて子どもたちの夢の実現には、子ども一人一人の自己肯定感を高め、学力を含めた「生きる力」の育成が不可欠であることを再認識したところです。

コロナ禍において教育活動は様々な制約を受けました。しかし、そのような状況でも、市町村教育委員会や校長先生のリーダーシップの下、先生方の愛情と情熱ある指導により、子どもたちが力強くひたむきに学習や諸活動に励む様子を目にし、胸が熱くなりました。皆様の御尽力に敬意を表します。

県北教育事務所としましても、これまで要請訪問の機会や、県北版の各種参考資料を通して、日々の授業の改善及び充実、校内研修の活性化に向けた取組を推進してきました。また、今年度、コロナ禍により参集開催ができなかった「学級・授業づくりセミナー」については、講師14名の実践内容を、ぜひ県北の先生方に紹介したいという思いから、14名全員の動画を作成・配信しました。それぞれの講師の持ち味や専門性、授業改善のヒントがぎっしり詰まった動画を多くの先生方にご覧いただいたことと思います。

さて、第7次福島県総合教育計画（2022～2030年度）が策定されました。その中に、本県の教育の柱として「学びの変革」が挙げられています。「学びの変革」とは、画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの変革をしていくことです。このことを踏まえ、県北教育事務所では、次年度の指導の重点スローガンを「幸せを紡ぐ県北の教育」としました。子ども一人一人の幸せと社会全体の幸せを実現すべく、学校と家庭、地域と一体になって、子どもたちの学びの糸を紡ぎ、太く、強くしていきたいと考えています。

本資料では、まとめと振り返りの在り方について具体例を示しました。要請訪問等で先生方から多く出された悩みを受け、その解決のヒントになればという思いから作成しました。特にお伝えしたいことは、単元のゴールでの「子どもに期待する学びの姿」を教師が明確に捉え、そこから毎時間の授業を考えていくこと、そして、ゴールという着地点にたどり着くために、毎時間の授業のまとめと振り返りを確実に行うことが大切であるということです。

急激な社会の変化の中でも、子どもたちにたくましく自分の人生を切り拓いていくために必要な力を育成するために、ぜひ、本資料を活用して、日々の授業の改善・充実に御尽力いただければ幸いです。

子どもたちの夢を紡ぐ応援団として、共に取り組んでいきましょう。

すべては子どもへの愛情と情熱からはじまります。

令和4年2月
福島県教育庁県北教育事務所長

戦略 Ⅰ

学校教育指導の重点全体構想

お母さんとお父さんがぼくのことをそこまで思ってくれたことに泣きそうになりました。

家に帰ったらすぐに、
「ありがとう。お母さんとお父さんのおかげでこんなに大きくなったよ。」
と言いました。

(家族の思いを受け取った子ども)



〔伝えることで伝わる保護者の思い〕

つながる

ー 学校発
子ども、家庭、地域へと ー

子どもの成長している姿を見るだけで、とても嬉しく、とても幸せで、「親も楽しんでいるよ」とちゃんと伝えられるようにしていきたいと思いました。

(授業に参加し、子どもの成長を感じた家族)

子どもたちはもちろん、おうちの人、地域の人たちの温かさをたくさん感じました。

目には見えないけれど、だんだんつながっていくもの、みんなに広がっていくものが、温かく確かにありました。

(家庭、地域と共に子どもを育む教師)

〔令和3年度 道徳教育推進校の授業より〕





幸せを紡ぐ県北の教育



授業づくりの5つのポイント

- ① 単元をつくる・授業をつくる
- ② 教材との出会い・学習課題の把握
- ③ 追究・解決 <計画・方向付け・見通し>
<個での追究・解決>
- ④ 追究・解決
<ペアやグループ・学級全体での話し合い>
- ⑤ まとめ
振り返り・新たな学び
 - 子どもの思いを生かした「まとめ」
 - 学びの自覚を促す確かな「振り返り」



確かな学力

- 資質・能力を確実に育成する授業づくり
 - ・「授業スタンダード」の活用
 - ・個別最適できめ細かな指導
- 学習規律・学習習慣の確立
 - ・「家庭学習スタンダード」の自校化
 - ・読書活動の推進
- 組織的な学力向上策の推進
 - ・「学力向上グランドデザイン」の実効的推進
 - ・機能的なR-PDCAサイクルの構築
 - ・校内研修の充実、「互見授業」の推進

家庭学習を支える4つの取組

- ① 共通理解を図った指導
 - 家庭学習の手引きの自校化
- ② 授業と家庭学習の関連付け
 - 復習と予習の関連を図る宿題
- ③ 学習内容・方法の指導
 - 「調べ・考え書く」活用型の宿題
- ④ 協力・連携体制の構築
 - 小学校間、小中学校間での共通理解

質を高める取組

- ① ロングスパン、ショートのR-PDCAサイクルの確立
- ② 全国学調、ふくしま学調の分析・活用
- ③ 活用力育成シート、定着確認シートの活用

豊かな心

- 心に響く道徳教育の推進
 - ・指導内容の重点化
 - ・「自己を見つめる」授業づくり
 - ・保護者や地域と連携した道徳教育
- ひとと関わる豊かな体験活動の充実
 - ・地域の人や異年齢集団等との交流活動
 - ・勤労観・職業観を育むキャリア教育
- 子ども理解に基づく生徒指導の充実
 - ・いじめ、不登校の未然防止・早期発見
 - ・教育相談の充実(SC、SSW等との連携)
 - ・情報モラルに関する指導

温かな学級 学習集団

目標に向かって協力し、
粘り強く取り組む学級・学習集団

互いのよさや成長を認め合い、
違いを理解し合える学級・学習集団

教師と子どもが信頼し合い、
何でも言い合える学級・学習集団

健やかな体

- 進んで運動に取り組む態度の育成
 - ・共生の視点を踏まえた運動の楽しみ方の工夫
 - ・子ども一人一人の運動量の確保
- 体力向上のための組織的な取組
 - ・体力向上推進計画の改善
 - ・体育的活動の充実と環境整備
- 健康・安全な生活への指導の充実
 - ・保健・安全指導(感染症への対応)
 - ・望ましい食習慣を育成する食育
 - ・自ら考え行動できる放射線・防災教育

つながる幼児教育

- 発達の時期に適した指導計画の作成
 - ・家庭・地域・小学校との連携
- 主体的・対話的で深い学びを実現する
保育の展開
 - ・試行錯誤や考える過程の重視
- よさや可能性を見取る評価の工夫・活用
 - ・幼児理解に基づく子どもの実態把握
 - ・見取りに基づく情報交換・意見交換
- スタートカリキュラムのマネジメント
 - ・子どもの姿・指導の在り方を幼小で共有



特別支援教育の充実

- 全教職員による支援体制の充実
 - ・コーディネーターを中心とする支援体制
 - ・校内研修の活性化
 - ・ユニバーサルデザインの視点を生かす指導
 - ・交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムの推進
 - ・合意形成に基づく「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用
 - ・入学・進級時の引継体制の確立
 - ・本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供
 - ・関係機関との連携

家庭や地域社会、関係機関との連携

- ・家庭の教育力向上を図るPTA活動の充実
- ・地域全体で子どもを育てる地域学校協働活動事業の推進
- ・地域人材、NPO、企業、公民館、図書館等を活用した活動の推進



戦略Ⅰ

学校教育指導の重点全体構想

(1) 令和3年度を振り返って




「令和3年度 県北教育事務所学校教育指導の重点事項」の中に示した「学級・学習集団づくり」と「豊かなところ」「健やかな体」「幼児教育の充実」「特別支援教育の充実」について、以下のように成果と課題をまとめました。このことを踏まえ、P8～P19に「令和4年度の重点」について示しました。併せてお読みください。各学校や先生方一人一人の取組のヒントになれば、幸いです。

また、「私の戦略」の欄（下掲）は、これまでの自身の指導を振り返った上で、令和4年度の取組の目標を記す等、自由に御活用ください。



私の「強み」って何だろう。
これまでの自分の指導を、振り返りながら考えてみようかな。

学級・学習集団づくり 「認め合い・励まし合い・磨き合い」

安心して学べる集団	
<input type="checkbox"/> 強み <input type="checkbox"/> チェック! 	<p>「間違っても大丈夫」「みんなに聞いてもらえた」と感じるような温かい雰囲気のある授業が多く見られ、みんなで学ぶ楽しさを実感していた。さらに安心して学べるように、友達の方に体を向けて意見を最後までしっかり聴いたり、相手を意識して自分の考えを話したりすることができるよう指導していきたい。</p>
学級活動の充実・自己有用感	
<input type="checkbox"/> 強み <input type="checkbox"/> チェック! 	<p>学級活動(1)の「合意形成」を通して、互いのよさや違いを理解させ、集団活動の意義について気付かせていこうとする学校が増えてきた。子どもが互いに協力し認め合う中で、自他のよさや可能性に気付き、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し、自信をもてるように、振り返りを重視した一連の活動の工夫が大切である。</p>
目標に向けての取組・自己肯定感	
<input type="checkbox"/> 強み <input type="checkbox"/> チェック! 	<p>教育目標を踏まえて学級目標を掲げ、よりよい集団を一人一人の手でつくろうとしている学級が多い。機会を捉えて生活面や学習面の具体的な場面で目標を振り返らせたい。教師が、結果ばかりではなく努力の過程も含め、よいところを積極的に称賛することで、子どもに学級の一員としてさらに高め合っていこうとする意識をもたせることが大切である。</p>



令和4年度 私の戦略（自分の思い・願い）



豊かな心

「自己を見つめる」道徳の授業づくり

☐ 強み

☐ チェック!



アンケート結果や共通体験を生かした導入で、子どもの問題意識を高めたり、少人数による意見交流や書く活動を取り入れたりする等、子どもが主体的・対話的に考えることにつなげようとする授業が多く見られる。

道徳的価値の理解を目指し、正しいことを言わせて終わる授業が見られる。自己を見つめ、具体的な体験を想起する等、子ども自身が実感を伴いながら考えを深めることができるような手立てを一層工夫する必要がある。

1人1台端末等を活用した様々な試みが見られる。効果的な「見える化」ではあるが、自分の思いや考え、経験等を個人が特定される形で学級全体に知られることに抵抗感をもつ子どもも存在する。道徳科の特質と目の前の子どもの実態に応じた効果的な活用を目指したい。

担任以外の教師や家庭・地域の人材等との連携による心に響く道徳科の授業づくりもさらに推進していきたい。

生徒指導の充実

☐ 強み

☐ チェック!



不登校の未然防止、いじめ見逃しゼロに向けて、Q-Uや生活アンケートを実施したり、教育相談を充実させたりしている学校が多い。また、ケース会議を開催し、学校の組織力を生かすとともに、家庭やSC、SSWなどとの連携を図ることで効果を上げている。しかし、不登校児童生徒数（特に新規数）は増加が続いており、歯止めがかからない状況である。いじめへの対応については、積極的・正確な認知（いじめ見逃しゼロ）のもと、一人一人に寄り添って早期に、組織的に進めていくことが必要である。

「不登校・いじめ等対策域別シンポジウム」では、スペシャルサポートルーム担当教師を講師として招聘し、不登校の子どもへの対応や学習機会の確保、教育相談体制の強化や組織的対応の確立について講話をいただいた。その取組のよさを生かそうとしている学校が増えてきている。

コロナ禍における感染者や濃厚接触者への差別や偏見によるいじめ、家庭の経済状況等の変化に起因する不登校についても、複数の目で捉え、共通理解のもと、組織的に対応していきたい。

他者と関わる学習

☐ 強み

☐ チェック!



コロナ禍において、異年齢活動や地域人材を活用した学習などを取り入れ、他者とよりよく生きる子どもを育成する必要性について、改めて考える学校が多く見られた。どのようにすると実現できるのかについて、学校の実態に応じて工夫を凝らし、学習の充実につなげていることは、今後も継続していきたい。



令和4年度 私の戦略（自分の思い・願い）



健やかな体

共生の立場に立った指導方法の工夫

☐ 強み

☐ チェック！



体育・保健体育の授業では、共生の立場、子どもの発達段階を考慮し、各運動の特性や魅力に応じ、基本的な動きや知識・技能が身に付くよう、子どもが見方・考え方を働かせることができる指導方法を工夫していた。今後、子どもが実践を通して運動に対する考えをさらに深め、より質の高い運動にすることが必要である。

運動量の確保

☐ 強み

☐ チェック！



子ども一人一人が十分に運動できる時間を確保しつつ、グループや学級全体での言語活動の場面を意図的にバランスよく設定している授業が多く見られた。高めたい体力要素が効果的に高まるよう、準備運動に工夫を加えて指導する場面が見られた。なお、主運動に対する補強運動については質の向上が一層求められる。

専門性を生かした指導

☐ 強み

☐ チェック！



養護教諭や栄養教諭、医師等との連携を図り、子どもの健康課題（「肥満」「う歯」「食」等）の解決やがん教育の啓発を図る授業が見られた。今後も、養護教諭や栄養教諭等の専門性を生かした授業づくりを継続していく必要がある。

感染症予防

☐ 強み

☐ チェック！



各学校において、共通理解のもとに基本的な感染症対策（感染源を絶つ、感染経路を絶つ、抵抗力を高める）を講じて教育活動を実施していた。子どもたちは、身体的距離の確保、マスク着用、手洗い、手指消毒等を自主的に行い、習慣化が図られてきた。

令和4年度 私の戦略（自分の思い・願い）



つながる幼児教育

〔幼稚園等〕

発達の時期にふさわしい連続性のある活動

☐ 強み

☐ チェック！



長期的、短期的に見通しをもった指導計画を作成し、目の前の子どもの姿と照らしながらPDCAサイクルを働かせ、期案、週案等で具体的な手立てを記して保育に当たっている。また、活動ごとに、短期間での「振り返り活動」を実践し、子どもの思いや気づきを共有し、次の活動への意欲を高めている園が見られた。

多様な体験・試行錯誤の重視

☐ 強み

☐ チェック！



子どもの実態や季節等に合った環境が整えられ、子どもがそれらに主体的に関わり、考えたり、試行錯誤したりする姿が見られる。

幼児理解と見取り

☐ 強み

☐ チェック！



園ごとの日々の記録取りに工夫を凝らし、互いの園について情報交換したことを、自園の取組に取り入れていく様子が見られた。

〔小学校〕

幼児教育との接続

☐ 強み

☐ チェック！



「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手がかりに、それぞれの校種間で無理なく、スムーズな接続ができるよう、アプローチカリキュラムを理解し、幼小がつながるスタートカリキュラムの作成と実施が今後さらに求められる。

個別に支援が必要な子どもについての「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」について、幼小の引継を確実にし、切れ目のない指導・支援につなげる必要がある。



令和4年度 私の戦略（自分の思い・願い）



特別支援教育の充実

ユニバーサルデザインの視点

☐ 強み

☐ チェック！



支援学級においては、ユニバーサルデザインの視点で学級経営、授業づくりを行い、その上で個別の支援が提供され、安心感をもって授業に取り組む子どもの姿が多く見られた。通常学級でも、同様の取組を行う学校が増えている。

本人・保護者との合意形成

☐ 強み

☐ チェック！



子どもの障がいからくる困難さを的確に見取り、「個別の指導計画」が作成され、「学習指導要領 自立活動編」に基づいて、具体的な指導内容が設定されている授業を多く見ることができた。

「個別の教育支援計画」の合意形成が、本人、保護者と図られておらず、引継に活用されていないケースが見られる。子どもの実態の記述については、困難な部分についての直接的な表現、文言等に配慮する必要がある。保護者との合意形成を図り、活用につなげていくことが大切である。

教材の工夫

☐ 強み

☐ チェック！



個に応じた教材や手順表が準備され、それが課題解決に向けての手掛かりとなり、主体的に学習に取り組む子どもたちの姿を多く見ることができた。

交流及び協働学習の充実

☐ 強み

☐ チェック！



通常の学級との交流及び共同学習のさらなる推進に向けて「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を積極的に活用したい。関係する教職員間でねらいを明確にし、授業における配慮事項等を検討し、共通理解・共通実践することが一層求められる。

令和4年度 私の戦略（自分の思い・願い）



(2) 令和4年度の重点

確かな学力

【目指す子どもの姿】

自分の学習を振り返り、「こうやったらできた」(達成感)、「もっとやってみよう」(次時の期待)という思いをもって学びを自己マネジメントできる子ども

【県北域内の子どもの実態】

- 友達との協働学習を通して互いに学び合う姿勢が育っている。
- 家庭においても自分の計画に基づいて学習を進めることができる。
- 学習習慣は身に付いてきているが、学習内容や学習時間の設定については与えられたものをこなす消極的な姿が見られる。



【令和4年度の指導の重点】

学びの「振り返り」の徹底

～全校で、継続的に、子どもも教師も～



1 資質・能力を確実に育成する授業づくり

学習指導要領の改訂では、変化の激しい社会において、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会にいかそうとする「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる子どもたちに確実に育むことが求められている。

様々な教育活動の中で、対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせるなど、画一的な一方通行の授業等から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していくことが必要である。また、探究的な学びと、各教科の中での主体的・対話的で深い学びを往還することで、「学び」や「学力」等について、学校、家庭、地域が共通の認識のもと、誰一人取り残さない「福島ならではの」教育を進めていくことが大切である。

○ 「授業スタンダード」の活用

- ・ 単元の目標の把握、子どもの実態の把握、教材の価値の把握を進め、単元全体を見通した指導計画、評価計画を立てる。
- ・ 授業における教材との出会いを大切に、「問い」や「思い・願い」を引き出す工夫を行う。
- ・ 解決の見通しや活動の計画を立てる段階を重視し、子どもが主体的に自力解決に取り組むことができるようにする。特に、目指す子どもの姿に照らして個の学びを適切に見取り、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導を重視する。
- ・ 対話的な学びを重視する。特に、ペアやグループによる活動では、思考を可視化する工夫、考えが深まる教師のコーディネート充実を図る。
- ・ 「何を学んだのか」「どのように学んだのか」の視点で子ども自身が自覚的に学びを振り返る場面とともに、家庭学習や次の授業への課題意識や学習意欲をもたせる。また、児童生徒の振り返りを通して、教師自身も本時の授業を振り返ることができるようにする。

○ 個別最適できめ細かな指導

- ・ 一人一人の学習状況を的確に見取るとともに、見方・考え方を働かせた姿を明確にし、「深い学び」へ導くためのコーディネートを行う。
- ・ 課題の見られる単元において習熟度別指導やTTなどを効果的に取り入れるなど、少人数教育のよさを生かした指導方法を工夫・改善する。



2 学習規律・学習習慣の確立

○ 「家庭学習スタンダード」の自校化

- ・ 学習習慣や生活習慣の確立に向け、保護者の理解を促しながら、学校及び家庭における学びの連続性をもたせる。
- ・ 家庭学習の目標の設定や実施、振り返りなどの R-PDCA サイクルを通して、子どもに「自己マネジメント力」を身に付けさせる。

○ 読書活動の推進

- ・ 司書教諭等を中心に、学校全体で協力体制をとりながら、子どもや教員のニーズに応じた図書の充実を図り、読書活動が充実する魅力ある図書環境をつくる。また、発達の段階や学校の実態に応じた子どもによる読み聞かせや図書紹介などの読書活動を積極的に推進する。



3 組織的な学力向上策の推進

○ 「学力向上グランドデザイン」の実効的推進

- ・ 課題解決に向けた具体的な手立てやそれを具現化する場面や時期、評価の指標や方法を位置付けるなど、グランドデザインを実効的なものとし、学校全体として組織的に推進する。

○ 学力調査等の結果を受けた、機能的なR-PDCAサイクルの構築

- ・ 各評価用テスト、「ふくしま活用力育成シート」等を活用したショートスパンの R-PDCA サイクルと、「全国学力・学習状況調査」及び「ふくしま学力調査」の結果を活用したロングスパンの R-PDCA サイクルを機能させ、全校体制での取組を進める。

○ 校内研修の充実、「互見授業」の推進

- ・ 学校課題を明確にし、全教員が共通の目指す子どもの姿をもちながら指導実践することで、主体的な研修が進められるように工夫する。
- ・ 深めたい指導の工夫を焦点化して授業を参観し、授業改善への取組が日常的、継続的に行われるように授業研究会の在り方などを工夫する。

※ 校内研修改善に向けた4つの提案（平成28年3月 福島県教育センター）

県北力（県北域内の輝く姿）

○ 自分の考えを表現する活動「書く」

4年生算数科。授業ではそれぞれが自分の考えを書く場がしっかりと位置付けられています。

交流の中で友達の発表を聞くことで新たな気付きが生まれ、自分の考えに付け足して書く姿も見られます。



○ 一緒に解決する話し合い

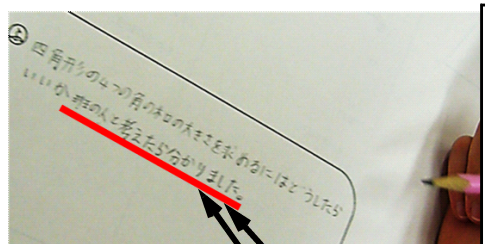


6年生算数科。児童同士がグループで交流している場面。自分の考えを友達に伝えようと説明する姿が見られます。互いに分からないことを言い合える学級の雰囲気があり、子ども達は一緒に分かろうと熱心に話し合いを進めます。

この後、自分の考えに自信をもてなかった児童が友達の考えから自分の考えをもち、全体交流で進んで発表することにもつながりました。

○ 自己の学びを見つめる「振り返り」

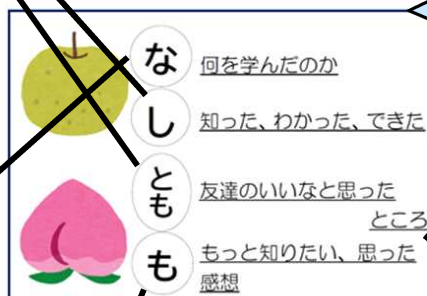
◇◇キラリ校(本宮小学校)◇◇



4年生算数科授業。
教師の課題設定や課題提示の工夫により、児童が興味・関心をもって生き生きと学習に取り組んでいます。
友達と積極的に関わり、よりよい考えにするため話し合う場面も多く見られました。

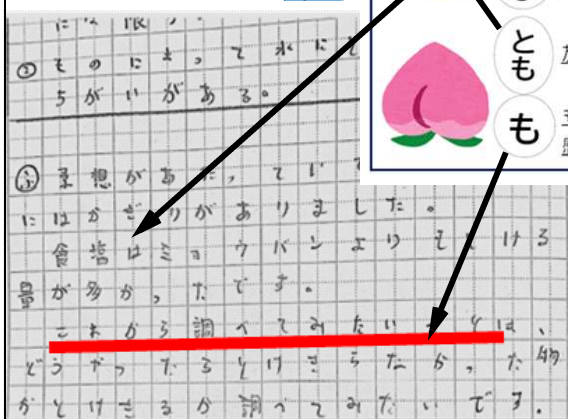
「振り返り」では、明確な視点をもとに、学習前後での自分の変容や友達との関わりなどについて、児童自身が自己の学びを振り返り、学びがいを感ずることにつながりました。

「班の人と考えたら分かりました」という感想から、みんなで学ぶよさを感じていることがわかります。

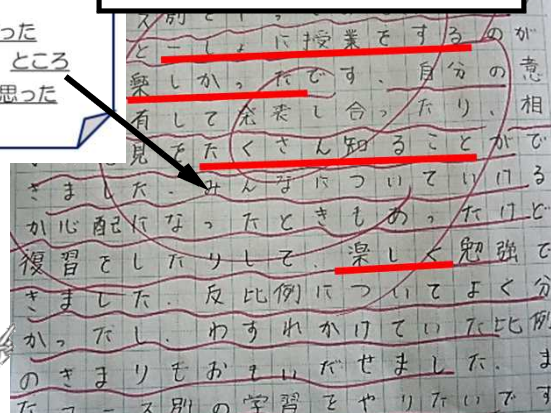


振り返りの視点(例)

子どもたちと一緒に振り返りの合言葉を作って継続して取り組んでいます。低学年においても、必ず振り返りのできる子どもたちになっていきます。



6年生理科。本時の学習で分かったことだけではなく、「これから調べてみたい」という次の学びにつながる感想が書かれています。

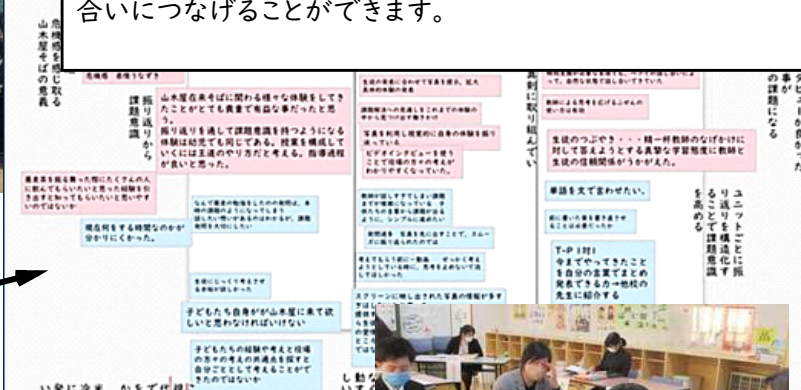


たくさんの「楽しい」の文字が躍る。
振り返りの視点をもとに、友達との関わり、「知る」喜びについて、本時の学びを振り返ることができています。教師の温かなコメントも、学びに向かう主体性を育てています。

○ 教師も「振り返り」

◇互見授業後の事後研究会

それぞれが授業で見取った子どもの様子や手立ての有効性をICT機器(電子付箋の活用)で共有し、交流する場面。
教師同士の振り返りを見える化することで、個々の見取りを容易に共有することができ、短時間でより焦点化を図った話し合いにつなげることができます。



参観した教師の見取りをICT機器の画面上で可視化、共有し、本時の成果と課題をもとに次の指導に生かす方を練っていきます。



<ふくしま学力調査において伸びの大きかった学校への聞き取りから(県北)>

自分の考えを表現する活動

「書く」「話す」

- 自分の考えを書かせることで、考えがまとまったり、整理したりできる。
→ 「書く」ことは考えること
- 全教育活動を通して、行っている。目的意識・相手意識を必ずもたせる。→必要感
- 式と言葉で説明を書かせる。(算)
- 「どうしてそう考えたの?」「説明できる?」と問うことで、自分の言葉でもう一度説明させる。
- ふさわしい言葉、文のねじれや誤字脱字は根気よく徹底して指導してきた。
→ ありきたりの言葉ではなく、言葉を吟味して使えるように。
- 全国学調や定着確認シート、活用力育成シートを使って文章を「書く」時間を取る。→必ず添削

一緒に解決する「話し合い」

- 子ども同士で解決させる時間を取る。
- 最初から、相手を批判しないで耳を傾けることを大事にしている。特活の学級活動の経験が生かされている。
- 友達の考えは自分の考えを深めてくれるもの。(進んで意見を求める姿)
- 分からないことが言える、友達に説明する。
→ 一緒に分かるようになろうという思いの高まり
→ 自分の考えを再構築

授業とつなげる「家庭学習」

- 自主学習を全校で取り組む。(自己マネジメント力)
→中学校の取組例や友達のよい取組を紹介
- 授業と関連させる。(まとめ直す、もっと知りたいことを調べる、予習に取り組む)
- 一人一人に合わせて、分かるまで。

自己の学びを見つめる「振り返り」

子どもも、先生も

- (まとめと振り返りは分けて)自分の言葉で振り返りを書かせる。
→ 自分がどのように学んだのか自覚させる。
- 振り返りには新たな「気付き」が書かれていることがある。それを拾って他の子どもたちに広げる。
→ はじめは「分からなかった…」くらいしか書けなかったが、どんな視点で書けばよいか分かり、進んで書けるようになった。
→ 次の学習、他教科につなげる。
- 振り返りの時間は、子どもたちが分かっているかどうかを知るために、絶対に必要なもの。絶対に書かせたいので、ここから授業を考えている。

全校で！ 取り組む
分析、課題

必ず ほめる！
がんばった、できるよう
になった姿を価値付け

続ける！
大事なことをしっかり

つなげる！
子ども同士、学習



児童質問紙から

Q：学級は落ち着いて学習する様子でしたか。

- * だれもひとりぼっちにしない。
- * みんなで高め合おう。

Q：先生(友達)はよいところを認めてくれましたか。

Q：学級での生活は楽しかったですか。
* 失敗をおそれずやってみよう。

Q：理解していないところや間違えたところについて分かるまで教えてくれましたか。

子どもたちはすごい。私の考えを超えた考えも出てくるんです。

どうしてできなかったんだろう。
くやしい！(自分の指導を反省)

子どもへの愛情と情熱をもち、共に学び合う教師集団(先生方の声より)

私たちが学校が楽しくないと、
子どもたちも楽しくない。

こんなことやってみただけで、
どうかな？

子どもたち、学校にとって今何が必要なの
か全職員で考えを出し合いました。

「自ら考え行動する、共に考える子ども」
を育てるためには、先生自身から。

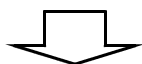
豊かな心

〔目指す子どもの姿〕

自分の強みを自覚した上で、自他のよさや違いを認め、共によりよい生活をつくろうとする子ども

〔県北域内の子どもの実態〕

- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる子どもが多い。
- 道徳科では、「自己を見つめる」発問を設定しない授業が多く見られる。
- 「自分にはよいところがある」と思っている子どもが、県、全国に比べて少ない傾向にある。
- 不登校の子どもが増加している。



〔令和4年度の指導の重点〕

「自己を見つめる」機会の積み重ね

～一人一人のよさを、適時称賛する教師集団へ～



1 心に響く道徳教育の推進

○ 指導内容の重点化

- ・ 校長の明確な方針の下、道徳教育推進教師を中心としながら、全教職員が共通理解を図り、協力して道徳教育を推進する。
- ・ 子どもや学校、地域の実態を踏まえ、「どのような子どもを育てたいか」を明確にする。その上で、学校における重点目標を設定するとともに、指導内容の重点化（重点内容項目の設定）を図る。
- ・ 「別葉」の作成にあたっては、各学校において設定した重点内容項目を中心に作成する。また、各教科等における道徳教育の指導の「内容と時期」が明確になるよう、そして、年間を通して効果的に活用できるよう工夫する。
- ・ 主題の設定と教材の配列を工夫し、「自校ならでは」の指導計画の具現化を図る。作成にあたっては、「ふくしま道徳教育資料集」等の地域素材及び「コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた教材」（義務教育課 HP）を積極的に位置付け、活用する。

○ 「自己を見つめる」授業づくり

- ・ 道徳科の授業においては、道徳的価値の理解にとどまることなく、自己を見つめ、具体的な体験を想起する等、子ども自身が実感を伴いながら考えを深めることができるような手立てを工夫する。
- ・ 評価の視点や方法、評価のために収集する資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通理解し、子どもの成長を受け止めて認め、励ます評価について共通実践を図る。また、評価について保護者に説明する機会を設けることで、家庭と連携した道徳教育の効果的な推進が図れるように努める。

○ 保護者や地域と連携した道徳教育

- ・ 保護者や地域の人たちが授業を参観する機会を設けるとともに、参加したり協力したりするような指導体制を工夫することで、各校の道徳教育の目標の具現化を図る。

2 ひとと関わる豊かな体験活動の充実

○ 地域の人や異年齢集団等との交流活動

- ・ 集団宿泊活動、文化芸術体験活動や地域と連携した奉仕体験活動、自然体験活動等の充実を図るとともに、活動の成果を各教科の指導等に生かすことで、自己の生き方についての考えを広げたり深めたりする機会とする。

- ・ 地域の大人や子ども、高齢者、障がいのある人たち等と触れ合う機会の充実を図ること
で、心を耕し、思いやりや郷土愛、規範意識等を育む。
- **勤労観・職業観を育むキャリア教育**
 - ・ 地域と連携しながら社会体験活動、職場体験活動等の充実を図ることで、子どもたち一人一人のキャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を効果的に支援する。

3 子ども理解に基づく生徒指導の充実

- **いじめ、不登校の未然防止・早期発見**
 - ・ いじめは人権に関わる重大な問題であり、人間として絶対に許されないという認識を全教職員で共有し、「学校いじめ防止基本方針」を基に組織的、実効的な取組を推進する。
 - ・ 子どもの立場に立ち、法に基づき、積極的・正確にいじめを認知するとともに、保護者に対し積極的に情報提供するなどして理解と協力を得ながら、早期対応、早期解決に努める。
 - ・ 「新たな不登校を出さない」という意識を全教職員で共有し、日常の観察や対話による実態把握に努め、不登校の未然防止や早期発見、早期対応、早期解決に努める。
 - ・ 不登校の状態にある子どもへの支援について、長期的・短期的な視点を持ち、チームでの対応の充実を図る。
- **教育相談の充実（SC、SSW等との連携）**
 - ・ 子どもとの信頼関係の醸成に努め、教員一人一人がカウンセリングマインドをもって相談支援にあたるとともに、教員間の連携を深めるなど校内支援体制の確立に努める。
 - ・ SCやSSW、外部関係機関と連携しながら、チームとして個に応じた支援ができるように、校内のコーディネート力の向上を図る。
- **情報モラルに関する指導**
 - ・ 子どもの発達の段階に応じて「5つの内容」（P 38 参照）をもれなく扱えるよう教育課程を編成するとともに、情報社会における行動に伴う責任と危険性についての理解を促す。
 - ・ SNSの適切な利用方法について、外部講師などを効果的に活用したり、家庭との連携を図ったりするなどして、具体的で実効的な指導を行えるよう工夫する。

県北力（県北域内の輝く姿）

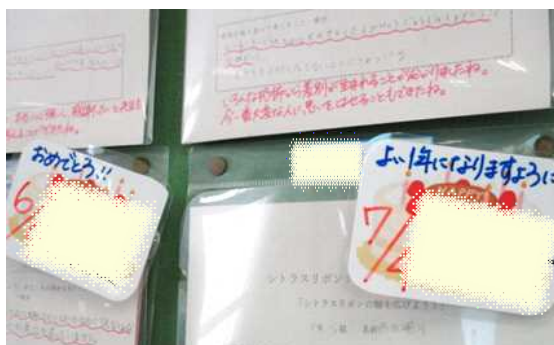
○ 家庭・地域と紡ぐ温かな心



二本松市立石井小学校では、家庭・地域とつくる道徳教育を推進しています。道徳科に限らず、機会を捉えて保護者や地域の方が授業に参加しています。

道徳科では、「自己を見つめた振り返りの文章」を、友達や先生だけでなく、友達のお母さんやおばあちゃんにも見せるようになりました。「すごいね。〇〇ちゃんならできるよ。」と、ほめられたり励まされたりして、笑顔になる子どもの姿が見られます。参加した保護者は、「回を重ねるうちに、クラスの子どもたちみんなのことを、我が子のように思えるようになった。」と話しています。

○ 子どもの思いを受け止める教師の温かなコメント（中学1年生の教室より）



中学1年生の教室の掲示物に、教師の温かな思いが伝わるコメントを見つけました。子どもの掲示ホルダーには、誕生日を祝うメッセージカードも添えられていました。

この教室では、学級活動(2)「自分のよさや友達のよさを見つけよう」の授業が行われていました。教師は、受容的な表情・態度で、子どもの考えを引き出していました。そのような中で、子どもたちは自分の思いを素直に語り合っていました。

「子どもの安心感を生み出す学級づくり」が基盤となることを、改めて感じる瞬間でした。

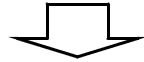
健やかな体

〔目指す子どもの姿〕

自己の生活習慣を見つめ、健康課題に気付き、進んで運動したり、望ましい食習慣を身に付けたりする子ども

〔県北域内の子どもの実態〕

- 令和3年度の体力テストの結果は全体的に元年度よりも下回っている。
- 朝食摂取率は年々高くなっており、習慣化が図られてきている。
- 肥満出現率は県・他管内と比較すると下回っているが全国と比較すると高くなっている。



〔令和4年度の指導の重点〕

体力向上と肥満傾向児出現率低下

～楽しく運動し、バランスのよい食事を～

1 進んで運動に取り組む態度の育成

○ 共生の視点を踏まえた運動の楽しみ方の工夫

- ・ 共生の視点を踏まえ、体力や技能の程度、性別や障がいの有無に関わらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるようにする。
- ・ 運動技能の習得や向上など、子どもが自分の変容などに気付き、自己の成長を実感できる振り返りの時間を設定する。
- ・ 各種の運動（種目）を通し、その運動（種目）自体がもつ楽しさを十分に味わわせる指導を実践する。
- ・ 身に付けた知識と技能を関連付けた運動ができるようにする。
- ・ グループ等での話し合いなどを通して「思考力、判断力、表現力等」を育て、それらに基づいた運動実践を通して新たな考えをもたせたり、理解を深めさせたりする場面を多く設定する。
- ・ 子どもが身に付けたり向上させたりした「動き」などが、実生活にも役立つことを気付かせることで実践意欲を高める。

○ 子ども一人一人の運動量の確保

- ・ 言語活動の場面を設定しながらも、実際に運動する時間を十分に確保する。
- ・ 「順番待ちの時間をできるだけ少なくする」など、授業1単位時間（小学校45分、中学校50分）の限られた中で、子ども一人一人が一定の運動量を確保できるようにするための工夫をする。また、「移動の際は走るようにする」など、同じ場面でも、より運動負荷が増す工夫にも留意する。ただし、発達の段階を考慮し、過重な負荷にならないよう注意する。

2 体力向上のための組織的な取組

○ 体力向上推進計画の改善

- ・ 「体力向上推進計画書」の作成にあたっては、子どもが主体的に体力向上に取り組む態度が育成されるよう内容を吟味し、自校の課題等を明確にした具体的で実効性のある計画書にする。
- ・ 自分手帳を活用し、体力テストに向けた意欲付けを行う。（例 体力テストの目標設定

と過去の記録の確認等)

○ 体育的活動の充実と環境整備

- ・ 「授業以外の体育的活動」を充実させるため、体育主任を核として、全教職員の役割分担を明確にし、協力して取り組む。
- ・ 子どもが意欲的・主体的に運動に取り組めるよう自分手帳を活用し、目標のめたせ方や自己の変容が自覚できる振り返る活動に工夫を加える。
- ・ 子どもが進んで運動に取り組み、体力の向上を図ることができる運動場(屋外・屋内)の場の設定を工夫する。

3 健康・安全な生活への指導の充実

○ 保健・安全指導(感染症への対応)

- ・ 子どもを取り巻く身近な健康課題に着目し、課題を解決したり、その解決方法を身に付けさせたりする。
- ・ 基本的な感染症対策(感染源を絶つ、感染経路を絶つ、抵抗力を高める)を習慣付ける。
- ・ 身近に起こった出来事から、その発生要因や防止策について理解させ、安全な生活を営む資質や能力を育てる。

○ 望ましい食習慣を育成する食育

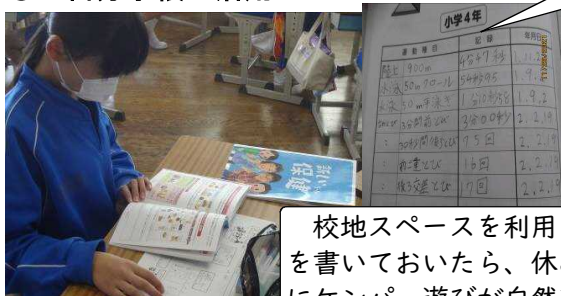
- ・ 食育推進コーディネーターを中心に家庭や地域と連携を図り、学校給食(給食指導)を活用し、食に関する指導を効果的に推進する。
- ・ 子どもの健康課題(「肥満」、「う歯」等)の解決に向け、規則正しい食事と栄養のバランスのとれた食事、年齢・発達段階や身体活動に適した食事の大切さを理解させる。
- ・ 地域の行事や地域の人々との関わりを通し、身近な食材や地域の食文化に関心をもち、郷土食や行事食を味わい、地域の気候や風土に根ざした食文化を理解させる。
- ・ 自分手帳を活用し食習慣を見直す。(例 記入日を設けた食生活の振り返り・家庭との連携等)

○ 自ら考え行動できる放射線・防災教育

- ・ 自他の生命を守り、安全を確保できる力を育成するため、子どもが主体的に学び、知識や技術を身に付けるだけにとどまらず、その知識や技術を生かすことができるようにする。
- ・ 地域や関係機関と連携し、防災訓練などの体験や実習を通し、実践力を高める指導を工夫する。

県北力(県北域内の輝く姿)

○ 自分手帳の活用



校地スペースを利用して○を書いておいたら、休み時間にケンパー遊びが自然発生しました。

自分手帳に記録・蓄積し、ポートフォリオとして活用したり、授業の教材として活用したりしている姿が見られました。



地域企業と連携したアプリを活用した授業です。心拍数がリアルタイムに1人1台端末に反映します。科学的根拠を基に心地よい走りのペースを見つけました。

○ 運動の日常化



○ 授業の充実



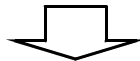
つながる幼児教育

〔目指す子どもの姿〕

幼児期に身に付けた力を、小学校でも安心して十分に発揮する子ども

〔県北域内の実態〕

- 接続期カリキュラム（小：スタートカリキュラム、幼：アプローチカリキュラム）が整備されている。
- 幼稚園等では、「幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿」を基にした各年齢における目指す子どもの姿を設定し、計画に基づく子どもの姿を視点として日々の指導改善を図っている。
- 毎年変わる子どもの実態に応じた、実効性のある接続期カリキュラムにしていく必要がある。



〔令和4年度の指導の重点〕

幼児期からの「育ち」と「学び」をつなぐ
～幼小で共につくる接続期カリキュラムへ～

1 発達の時期に適した指導計画の作成

- **生活や発達の連続性**
 - ・ 子どもの実態及び子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を工夫する。特に、短期的な指導計画においては、子どもの意識や興味の連続性のある活動を設定する。
- **家庭・地域・小学校との連携**
 - ・ 家庭や地域など、集団生活の中で、子ども同士や身近な人との関わりが深まる活動を充実させる。小学校教師との意見交換や合同の研修の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共有し、小学校教育への円滑な接続を図る。

2 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開

- **教材の工夫と環境の構成**
 - ・ 子どもの発達の実情や興味・関心等を踏まえながら、多様な体験ができる教材を工夫したり、環境を構成したりする。
- **試行錯誤や考える過程の重視**
 - ・ 遊びを通して試行錯誤したり、考えたりする過程を十分に受け止め、子どもが身近な環境に主体的に関われるようにする。また、遊びが連続・発展する教師の関わりを工夫する。

3 よさや可能性を見取る評価の工夫・活用

- **幼児理解に基づく子どもの実態把握**
 - ・ 指導の過程を振り返りながら幼児理解を進め、子ども一人一人のよさや可能性を把握し、指導の改善に生かす。
- **見取りに基づく情報交換・意見交換**
 - ・ 保育を通して見取った子ども一人一人の状況を、「目指す子どもの姿」に照らして教師相互に情報交換・意見交換し、次の指導の改善を図る。

4 スタートカリキュラムのマネジメント

子どもの姿が出発点

PLAN

3月末
までに

校内組織を
立ち上げて準備しよう



- 意義、考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解し、保護者へ説明する。
- 幼稚園・保育所等への訪問や教職員との意見交換、要録等から子どもの実態をつかみ、指導や支援、子どものよさを小学校につなぐ。
- スタートカリキュラムを編成する。

子どもを知ろう！～園に行ってみよう～

園では、子どもの主体性を大切にしています。生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、4月からの授業につながるポイントをたくさん知ることができます。



Do

4月
から

全校で協力体制を組み
スタートカリキュラムに
取り組もう

- 学級担任だけでなく、全教職員で協力体制を組み、見守り、育てる。
- 発達の特性を生かし、具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫する。
- 環境構成を工夫し、安心感がもてるようにする。

【協力体制の例】

- 入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう、学校全体で時間割を調整する。そうすることで、他学年の担任も間接的にスタートカリキュラムに協力することができる。

保護者に伝えよう！～学級便り・懇談会～

子どもが興味・関心をもって学習に取り組む様子を保護者にエピソードで語りましょう。活動を通して、主体的に学ぶ姿を保護者にも理解してもらうことは、保護者の意識の変容につながります。

ACTION

時期を捉えて、
反省・検証・改善しよう

- 長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの子どもへの指導に改善点を生かす。
- スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料をデータベース化し、共有する。
- 1月から3月にかけて、次年度のスタートカリキュラムの改善を図る。

【改善の例】

- 次年度のカリキュラム編成に向けて、幼稚園・保育所等の教職員との合同研修を改革する。



CHECK

子どもの姿・指導の在り方を
語り合おう

- 取組がねらいに沿っているか、子どもの姿で日々評価する。
- 学年会などで、子どもの成長する指導方法について情報交換する。
- スタートカリキュラム作成委員会や職員会議などで、実施状況を共有する。

園の先生に 参観してもらおう！

参観後、子どもの姿や指導の在り方について気が付いたことを話し合しましょう。園での様子と比較することで、子どもの成長を実感することができます。

県北力（県北域内の輝く姿）



短時間での活動ごとの「振り返り」を積み重ねることで、友達のよさや自分の頑張りに気付くようになりました。

○ 振り返りの積み重ねによる気付きの質の高まり

＜4歳児7月の姿：友達のよさに気付いている姿＞

A: ○○ちゃんに教えてもらったから、これ（メガネ）できたんだ!!
B: 私、「サメのひれ」初めてなんだ。C君教えてくれない?
C: こんな形（指で描く）だよ。
B: よくわからないから、描いてくれない?
C: それなら、D君が上手だよ。
D: こんな形（ホワイトボードに描く）だよ。
B: じゃあ、箱で作りたいんだけど、どうやったらできるかなあ?（……続く）

このような学びは、「生活科」や「道徳科」につながります。



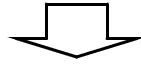
特別支援教育の充実

〔目指す学校の姿〕

「個別の教育支援計画」等を活用することで、障がいのある子どもたちに切れ目のない支援ができる学校。

〔県北域内の学校の実態〕

特別支援学級における「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成率は100%である。通常学級での作成率も上がってきている。子どもの実態に応じて絶えず計画を見直し、子どもを支え、関係機関等とつながるツールとしての活用が求められる。



〔令和4年度の重点〕

「個別の教育支援計画」の作成と活用の推進

～全ての子どもに安心した学びを～

1 全教職員による支援体制の充実

○ コーディネーターを中心とする支援体制

管理職のリーダーシップのもと、特別支援教育コーディネーターを中心に、校（園）内委員会やケース会議等を実施して具体的な支援策を検討する。さらに、特別支援教育支援員を含めた教職員の間で役割分担を明確にして支援策を実践するとともに、定期的な評価や見直しを行う。

○ 校内研修の活性化

特別支援教育に関する研修受講者による伝達講習や演習の実施、インターネットによる研修、外部講師を活用するなどして、障がい特性や必要な支援等を理解し、全教職員の特別支援教育に関する基礎的な資質・能力の向上を図る。

○ ユニバーサルデザインの視点を生かす指導

「支援を必要とする子どもにとって分かりやすい授業は、全ての子どもにとっても分かりやすい授業である」ことを意識し、通常の学級においても落ち着いた教室環境の整備、学習目標・学習課題の設定、発問や板書の仕方など、具体的な指導の工夫を行う。

支援を必要とする子どもの特性の理解と個別の支援、全ての子どもが互いの特性を理解し合い、助け合ってともに成長しようとする集団づくりをバランスよく行う。

○ 交流及び共同学習の推進

障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に活動する機会を意図的に設定することで、社会性や豊かな人間性を育てる。その際、担任間の共通理解、校内の学習支援体制を整え、一人一人に必要な合理的配慮を提供し、双方の子どもにどのような教育効果があるのかを明確にした上で実施する。

2 インクルーシブ教育システムの推進

○ 合意形成に基づく「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用

・ 「個別の教育支援計画」の作成・活用

本人、保護者の参画や意見等を丁寧に聴いたり、複数の教職員、関係機関（医療、保健、福祉等）と連携したりすることにより、子どもの教育的ニーズを把握し、「個別の教育支援計画」を作成し、活用する。

- ・ 「個別の指導計画」の作成・活用

各教科等の年間指導計画や「個別の教育支援計画」の内容を踏まえ、子どもの「よいところ、できるところ」や特性を的確に把握し、自立活動や各教科等の指導目標や内容、支援方法を明確にした「個別の指導計画」を作成する。さらに実践・評価・改善を繰り返して行い、加筆、修正をして活用する。

○ 入学・進級時の引継体制の確立

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、資料P76～P77「特別な支援を必要とする子どもに関する進学時の引継について（例）」を参考に、入学・進級時に担任間、学校間等で確実に引継ぎ、活用する。

○ 本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供

本人、保護者から必要な配慮の意思を積極的に聴いたり、教師、学校から必要な配慮を提案したりして、建設的に話し合う。どのような場面で、どのような配慮ができるのか、受けるのかについて、両者が合意した上で提供する。

○ 関係機関との連携

家庭との信頼関係を大切に、学習や生活上の課題について共通理解を図る。また、「個別の教育支援計画」などを活用して、医療、保健、福祉等の関係機関との連携や通級指導教室の教職員と子どもの在籍する学校・学級の教職員との定期的な情報交換を行い、一貫性のある具体的な支援に努める。

切れ目のない支援体制整備事業において、地域支援センターを活用するなどして、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室の授業や支援の充実に生かす。

<参考文献等>

- ※ 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン（平成29年3月 文部科学省）
- ※ 【参考資料】主体的・対話的で深い学びの実現に向けて（令和2年 県北教育事務所）
- ※ 障がいのある子供の教育支援の手引き～子供たちの一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に～（令和3年6月 文部科学省）

県北力（県北域内の輝く姿）

地域で共に学び、共に生きる教育の推進

「個別の教育支援計画」をツールとして「支える・つなぐ」



子どもたちを支え、学校や関係機関等とつなぐツールとして本人や保護者と相談し、合意形成を図りながら作成することが大切です。



引継だけではなく、教員間の共通理解やケース会議など日常的に活用することが大切です。



「個別の教育支援計画」の活用例

- 学校間引継（就学前「個別の支援計画」・相談支援ファイル⇒小学校）
- 進級時引継（担任⇒担任）
- 校内生徒指導委員会・職員会議
- 合理的配慮申請の根拠資料として（受験時）
- 専門家との情報共有（SC、医師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等）
- 関係機関との連携（療育機関、放課後等デイサービスなどの事業所、学童クラブ等）

等

作成プロセス例

- アンケート・面談
- 家庭訪問・教育相談
- 校内委員会での検討
- 本人・保護者との合意形成**
- 校内での共通理解
- 関係機関との情報共有
- 年度途中の見直し
- 年度末の見直し・引継

各教科等の指導の重点

— 子どもたちって、本当にすごいんですよ。
私の考えを、超えていくのです。—
子どもを敬い、成長を称賛する教師

— 私たちが学校が楽しくないと、
子どもたちも楽しくないと思うのです。—
子どもと共にあろうとする教師

— 本当に考えさせたい答えは、
言わないのです。—
子どもを信じて待つ教師

[令和3年度 県北地区の先生方の言葉より]



戦略2

各教科等の指導の重点

(1) 令和3年度の要請訪問等を振り返って

県北教育事務所では、先生方と事務所をつなぐ架け橋として、「【県北版】学校教育指導の重点」を作成し、『授業スタンダード』に基づく授業づくりの5つのポイントを示しています。また、その実現のために参考としていただく具体的資料として、「【参考資料】主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて」や「教材研究のとびら」を作成しています。「県北授業レシピ」では、実際に見られた「深い学びにつながる授業のポイント」について具体的に紹介しています（県北教育事務所HP参照）。

令和3年度の要請訪問等の際には、授業の追究・解決、まとめ・振り返りにあたるポイント4、5に力を入れて指導・助言を行いました。ここでは、共通の指標である5つのポイントに照らして振り返り、成果と課題について以下のようにまとめました。授業づくりのポイントごとの成果と課題を読んで、授業改善のヒントをつかんでいただき、日々の指導にさらに磨きをかけていただければ幸いです。



〔主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して〕

自身の授業を見つめた時、どのポイントが気になりますか？




授業前	ポイント1 単元をつくる・授業をつくる	
導入	ポイント2 教材との出会い・学習課題の把握	
展開	ポイント3 追究・解決 〔計画・方向付け・見通し〕 ポイント4 追究・解決 〔ペアやグループ・学級全体での話し合い〕	
終末	ポイント5 まとめ 振り返り・新たな学び	
授業後		

ポイント1 単元をつくる・授業をつくる

子どもの思いや願いを生かした授業づくり

- | | |
|-----|--|
| □強み | 子どもの実態を把握したり、子どもの思いや願いを取り入れたりしながら、子ども主体の授業をつくらうとする意識が高まってきた。 |
|-----|--|

ゴールからの単元づくり

- | | |
|---|--|
| □強み | 課題とまとめの整合性が図られた指導案が多く見られた。さらに、子どもの振り返りの言葉を具体的にしておくことが必要である。 |
| □チェック!
 | 教材解釈・教材研究力をさらに高め、育てたい資質・能力を身に付けた子どもの姿を具体的にイメージする。どのような力を身に付けるのか、ゴールから単元を構想していく必要がある。 |



単元も授業もゴールから。
目的地を明確にしよう。



ポイント2 教材との出会い・学習課題の把握


教材・教具との出合わせ方

- | | |
|-----|---|
| □強み | 既習事項の想起、具体物や1人1台端末等による提示（映像、写真、絵図、アンケート結果等）により、子どもの気づきや問いを引き出すための工夫が見られた。 |
|-----|---|

学ぶ必要感

- | | |
|-----|---|
| □強み | 課題とまとめの整合性が図られた指導案が多く見られた。さらに、子どもの振り返りの言葉を具体的にしておくことが必要である。 |
|-----|---|

「学ばせたいこと」と「学びたいこと」の擦り合わせ


- | | |
|---|---|
| □チェック!
 | 「学ばせたいこと」と「学びたいこと」の擦り合わせを意識した授業が増えてきた。さらに、子どもの問いをつなぎ、広げ、焦点化しながら、学習課題をつくることが一層求められる。 |
|---|---|

子ども自身の問いにすることが、
大切なんだね！



ポイント3
追究・解決

〔計画・方向付け・見通し〕
〔個での追究・解決〕



解決への見通しの工夫	
□強み	既習事項の想起、具体物や1人1台端末等による提示（映像、写真、絵図、アンケート結果等）により、子どもの気付きや問いを引き出すための工夫が見られた。
個の考えのもたせ方	
□強み	ノートやワークシートなどに自分の考えを書き、思考を整理する時間を確保している。そのため、子どもたち自身が、「何を考えるのか」「どのように考えればよいのか」を捉えて授業に主体的に臨んでいる姿が見られてきた。
視点を明確にした見取り	
□チェック！ 	机間指導の際は、見取りの視点（「見方・考え方」を働かせているか、予想される反応をしているか、等）や、つまづいている子どもへの具体的な支援策（既習事項の活用、キーワードの確認等）を明確にもって個別に対応することが大切である。



つまづいている子ども以外への支援も含め、「だれ一人取り残さない」教育の実現が求められているんだね！

ポイント4





追究・解決 〔ペアやグループ・学級全体での話し合い〕

ICTを活用した思考の可視化と共有	
□強み	1人1台端末等を効果的に活用する授業が増えている。考えの可視化や共有を図ることができ、友達の発表をよく聞き、自分の考えを伝える等、学びに対する主体性が高まってきた。
ゴールに向かう教師のコーディネート	
□チェック！ 	どの教科においても、発言力のある子どもと教師の一問一答にとどまらず、他の子どもに問い返ししながら意見をつなぎ、課題解決の気付きを促したり、考えを整理・再確認したりする教師のコーディネートが必要である。
深まりのある話し合い	
□チェック！ 	「何を話し合うのか」「何のための話し合いなのか」ねらいを明確にした話し合いを行う必要がある。また、多様な考えを出し合った後には、子どもたちの気付きや学びを深める教師の意図的な発問が必要である。

授業は、いろいろな考えを出し合ってからが勝負なんだね！



ポイント5 まとめ 振り返り・新たな学び

【まとめ】 子どもの言葉によるまとめ	
<input type="checkbox"/> 強み	学習内容のまとめをノートやワークシートに書かせたり、1人1台端末を生かしたりしながら、全体で学びを共有する授業が増えている。
<input type="checkbox"/> チェック！ 	「まとめ」と「振り返り」が混同しないように、区別して授業を構想する必要がある。
【振り返り】 学びの自覚を促す確かな「振り返り」	
<input type="checkbox"/> 強み	小学校低学年から、振り返りの視点（例：下図参照）を明確にもたせ、着実に取り組んでいる学校が見られた。継続することで、振り返りの質や子どもの追究意欲が高まり、学力向上につながっている。
<input type="checkbox"/> チェック！ 	子ども主体の学びとするために、「こうやったらできた」「もっとやってみたい」等、自身の学びを自覚する「振り返り」のある授業を積み重ねたい。子ども自身の言葉で書くことができるように、子どもを信じて任せ、粘り強く指導していく必要がある。
<input type="checkbox"/> チェック！ 	教師自身が、本時ならではの見方・考え方を働かせた振り返りを具体的に想定し、書き出してみることが大切である。
【新たな学び】 学びの連続を自覚した自己マネジメント力の育成	
<input type="checkbox"/> 強み	子ども一人一人の振り返りの言葉にコメントを入れ、思いや願いを次時の指導に生かしていこうとしている。
<input type="checkbox"/> チェック！ 	振り返りでの子どもの思いや新たな問いを、その後の追究活動につなげていくような教師の働きかけや、家庭学習との関連付けについて工夫する必要がある。

【図：振り返りの視点例】



【A校：低学年で活用】

- ① わかったこと、できるようになったこと
- ② 自分でがんばったこと
- ③ 友達ががんばったこと
- ④ これからの学習や生活に生かしたいこと

【B校：全校で活用】

「まとめ」と「振り返り」を、分けて考えることが大切なんだね！

学習内容の精選、発問の吟味、タイムマネジメントについて、もっと意識したいな。



自身の学びを見つめる「振り返り」は、子どもにとっても教師にとっても、欠かせないものなんだね！

(2) 各教科等の指導の重点の見方

令和3年度の要請訪問等の反省から見えてきた主な課題は以下のものです。

- ◆ 「まとめ」「振り返り」の時間を確保できない。
- ◆ 「何を学習したか」をまとめ、自己の学び・変容を振り返る時間を確保し、学びの手応えを味わわせたい。

そこで、本章では、「まとめ 振り返り・新たな学び」(ポイント5)に焦点を当てました。県の「指導の重点事項」「努力事項」も参照され、御活用いただきたいと思います。

【「授業スタンダード」に基づく授業づくりの5つのポイント】※□は令和4年度の重点ポイント

ポイント1	単元をつくる・授業をつくる
ポイント2	教材との出会い・学習課題の把握
ポイント3	追究・解決〈計画・方向付け・見通し〉〈個での追究・解決〉
ポイント4	追究・解決〈ペアやグループ・学級全体での話し合い〉
ポイント5	まとめ 振り返り・新たな学び

ポイント5の「まとめ」「振り返り」は、教師の腕の見せ所となる部分です。子どもたちに「学びがい」を感じさせられるように日々の授業づくり、授業実践を進めていきたいですね。



<左ページ：県の各教科の重点と努力事項>

教科	社会 (小)
指導の重点	努力事項
1 資質・能力の育成に向けて、適切な指導計画を作成する。	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 (2) 各学年の目標や内容を踏まえて、事例の取り上げ方を工夫して、内容の配列や授業時間の配分などに留意して効果的な年間指導計画を作成する。 (3) 47都道府県、世界の大陸と主な海洋の名称と位置について、地図帳や地球儀を使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導する。
2 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動や、具体的な体験を伴う学習を推進する。	(1) 地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。 (2) 観察や見学、聞き取りなどの調査活動に基づく表現活動の一層の充実を図る。 (3) 多角的に考えたことや選択・判断した言語活動の一層の充実を図る。 (4) 学校図書館や公立図書館、コンピュータを有効に活用する。
3 児童の性を伸ばす。	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 (2) 小学校社会科の内容との関連を図るとともに、各分野相互の関連を図り、第1学年から第3学年までを見通した指導計画を作成し、全体として教科の目標が達成できるようにする。
教科	社会 (中)
指導の重点	努力事項
1 資質・能力の育成に向けて、各分野間の関連を図り、適切な指導計画を作成する。	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 (2) 小学校社会科の内容との関連を図るとともに、各分野相互の関連を図り、第1学年から第3学年までを見通した指導計画を作成し、全体として教科の目標が達成できるようにする。
2 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動や、作業的で具体的な体験を伴う学習を推進する。	(1) 社会的現象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視する。 (2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用する。 (3) 調査や諸資料から、社会的現象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図る。 (4) 多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導する。
3 生徒のよさや可能性を積極的に見だし、それらを伸ばす評価を充実する。	(1) 単元や単元時間の評価規準を明確にし、目標・指導・評価の一体化を図った授業づくりに努め、目標に準拠した評価の趣旨が生かされるようにする。 (2) 生徒の学習状況を的確に把握するために、適切な評価場面を設定するとともに思考力等を問うペーパーテストなどの評価方法を工夫、改善する。

福島県教育委員会発行「令和4年度 学校教育指導の重点」から小・中学校の各教科の「指導の重点事項」と「努力事項」を掲載しています。

幼・小・中学校のつながり、指導の系統性が見えるように、上下に併記しました。

私の授業レシピシート

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 単元のねらい

② 学習目標・見直し

③ 達成・確認

④ まとめ

⑤ 振り返り

⑥ 新たな学び・問い

「私の授業レシピシート」

1時間の授業を構想するシートです。
様々な場面で活用することができます。
QRコードからお入りください。

〈活用例〉

- ・授業づくり
- ・授業の振り返り
- ・授業参観の記録 等

必要に応じて御活用ください。



<右ページ：学びの自覚を促す「振り返り」のある授業づくりの例>

ゴールからの授業づくりを意識できるよう、流れに沿った授業づくりの例を示しました。

- ① 本時のねらい
- ② ゴールにおける子どもの姿
- ③ 学習課題・見通し
- ④ 追究・解決

特に②にポイント
を当てて作成してい
ます。



本時で「何を学ばせるのか」は学習指導要領で必ず確認します。

POINT

「まとめ」と「振り返り」

「まとめ」と「振り返り」には、それぞれねらいがあります。

各教科等、本時の「まとめ」と「振り返り」がどのようなになるか、具体的な言葉・姿として提示しました。

【まとめ】

◇何を学んだか
→ めあてとの整合

【振り返り】

◇どのように学んだか
→ 学びの過程



本時で目指すゴールの姿を想定しています。

「ゴールからの授業構想」

子どもの実態を受け、教師が本時1時間をかけて、どのような姿を目指していくのかを明確にもつことが大切です。

教師の「子ども観」「教材観」「指導観」が凝縮した形で書かれる重要な部分となります。



主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

【社会科 小学校 第3学年「火事からくらしを守る」 1/6】

① 本時のねらい
資料をもとに、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる活動を通して、火災から人々の安全を守る関係機関の協力体制について追究する意欲をもたせる。

③ 学習課題・見通し
火事が起きた時、どんな人が働いているのかな？
消防士や警察官じゃないかな？
では、この周りにはどんな人がいるのだろう？
交通整理をする人がいるんじゃないかな？
テレビ局や新聞社の人もいるかもしれないな。
火事が起きるとどのような人がどのようなことをするのだろう？
水道局の人もかかってくるんだね。
テレビ局のヘリコプターも飛んでいるよ。
火事の時にはみんな集まらないといけないのかな？
火事の時にはどうやって役割分担しているのかな？
ずいぶんたくさんの方がかかわっているんだね。
【まとめ】火事の時には、消防士や警察などの多くの人が、人々の命を守るために協力している。

振り返り
火事の現場では消防士とか警察しかいないと思っていたけれど、多くの人が来て関わっていると知ってびっくりしました。
〇〇君が言っていた「みんなで協力している」ということに納得しました。
みんながかかわっているからこそ、安心して過ごすことができるんですね。
みんなが協力して早く火を消すことができそうだな。火事の通報があったから、早く消すまでどのくらいの時間がかかると思いますか？
教師の思い・願
火事発生時に現場に駆けつけるのは消防士と考えている児童が多いだろう。実際は、救急車や水道局といった関係機関の協力によって、火災から人々の命や安全が守られていく。関係機関の協力体制」に目を向けさせ、単元を通して追究する学習意欲を育てていきたい。

前時（前単元）、次時（次単元）とのつながりを含め、本時の位置付けをとり、構想を練ることが大切です。

めあてとまとめの整合性を図ります。

子どもにとって「学びがい」を感じる振り返りにしていくことが大切です。

本時で振り返らせたい言葉をイメージします。

【振り返りの視点】(例)

- ・わかったこと、できるようになったこと
- ・自分でがんばったこと
- ・友達ががんばったこと
- ・これからの学習や生活で生かしたいこと

教 科	国 語 (小)	
指導の重点事項		努 力 事 項
1 育成すべき 資質・能力 を明確にした指導計画を作成する。	2 資質・能力を育成するための 言語活動 や 指導方法 を工夫・改善する。	(1) 単元などを通して育成する資質・能力は、学習指導要領で定められた 指導事項と一致 していることを確認する。
		(2) 「教科書の作品」を教える授業ではなく、「教科書の作品」で育成すべき 資質・能力を明確にした授業 の展開、指導計画を構想する。
		(1) 言語活動を授業に取り入れることを目的とするのではなく、資質・能力を育成するための 手段としての言語活動 を設定する。
3 ねらいに沿った適切な 評価 を行い、指導に生かす。		(2) 言葉による見方・考え方 を働かせるために、言葉を投げどころにする言語活動を設定する。
		(1) 指導と評価の一体化を図るために、授業で育成する資質・能力と 評価規準を一致 させる。
		(2) 評価場面と評価方法 の検討を図り、ねらいに沿った適切な評価を行う。

教 科	国 語 (中)	
指導の重点事項		努 力 事 項
1 育成すべき 資質・能力 を明確にした指導計画を作成する。	2 資質・能力を育成するための 言語活動 や 指導方法 を工夫・改善する。	(1) 単元などを通して育成する資質・能力は、学習指導要領で定められた 指導事項と一致 していることを確認する。
		(2) 「教科書の作品」を教える授業ではなく、「教科書の作品」で育成すべき 資質・能力を明確にした授業 の展開、指導計画を構想する。
		(1) 言語活動を授業に取り入れることを目的とするのではなく、資質・能力を育成するための 手段としての言語活動 を設定する。
3 ねらいに沿った適切な 評価 を行い、指導に生かす。		(2) 言葉による見方・考え方 を働かせるために、言葉を投げどころにする言語活動を設定する。
		(1) 指導と評価の一体化を図るために、授業で育成する資質・能力と 評価規準を一致 させる。
		(2) 評価場面と評価方法 の検討を図り、ねらいに沿った適切な評価を行う。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【国語科 中学校 第3学年「状況の中で『挨拶一原爆の写真に寄せて』」
2/3】

最後の「油断していた」という表現について、作者の表現の意図や言葉のもたらす効果について自分の考えを深めることができる。

③ 学習課題・見通し

「油断していた」という言葉がなんか違和感があるんだよね。

自分ならどんな言葉が合うと思いますか。

私だったら、『生きていた』という言葉を使います。なぜかというと…

たしかに、違う言葉の方がしっくりくるかもしれないな。

でも、作者は、あえて「油断していた」と使っているんだよね。どうして、あえてこの言葉を使ったのでしょうか。

一九四五年八月六日の朝
一瞬にして死んだ二五万人の人すべて
いま在る
あなたの如く 私の如く
やすらかに 美しく 油断していた

【学習課題】 作者はなぜ、「油断していた」と表現しているのだろう。

④ 追究・解決

他の行や連の表現と結び付けながら、考えを書きましょう。

広島の人たちは、本当に油断していたのかな。

「油断」ってマイナスなイメージ。普通は一緒に使わないような「やすらかに」「美しく」みたいなプラスな言葉と並べると、意味がぐっと強まってくる気がするな。

広島の人たちは、油断というより、意識もしていなかったんじゃないかな。「あなたの如く」って、むしろ僕たちにそれでいいのかって警告してる…

(その後、グループ、全体で交流)

まとめ

【まとめ】(子どもがそれぞれに自分の言葉でまとめる。)

「油断していた」という言葉をあえて使うことで、あの日広島で日常生活を送っていた人々を表現し、今を生きる私たちに対して、核兵器の脅威がすぐそこにあることを感じさせるため。

振り返り

一つの言葉にも、作者の思いが込められているんだな。使う言葉、使う場所によって効果が変わることが分かりました。

一つの言葉をじっくり考えたり、友達と話し合ったりすることで、より自分の考えが、まとまっていきました。

現在の世界では、核兵器を保有している国が多くなってって社会科で学習したな。この詩のメッセージをもっと考えてみたい。

それぞれの考えを出し合う中で、一つの言葉の中に作者の意図が見えてきましたね。この詩に対する自分の考えをさらにまとめていきましょう。

教師の思い・願い

詩の表現が、作者の考えを伝えたり印象付けたりする上で、どのような効果を上げているか、言葉を基にしながら判断し、評価する力を付けたい。子どもの感想から違和感があると感じた最後の1行「やすらかに 美しく 油断していた」を取り上げて、言葉に目を向け、作者の表現の意図を考えさせたいな。

ールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科	社 会 (小)
指 導 の 重 点	努 力 事 項
1 資質・能力の育成に向けて、適切な指導計画を作成する。	(1) 単元 など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む 資質・能力 の育成に向けて、 児童の主体的・対話的で深い学び の実現に向けた授業改善を進める。 (2) 各学年の目標や内容を踏まえて、事例の取り上げ方を工夫して、 内容の配列や授業時数の配分 などに留意して効果的な年間指導計画を作成する。 (3) 47都道府県、世界の大陸と主な海洋 の名称と位置について、地図帳や地球儀を使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導する。
2 社会的な 見方・考え方 を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動や、具体的な体験を伴う学習を推進する。	(1) 地域の実態 を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。 (2) 観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む 具体的な体験を伴う学習 やそれに基づく表現活動の一層の充実を図る。 (3) 多角的に考えたことや選択・判断したことを説明したり議論したりするなど 言語活動 の一層の充実を図る。 (4) 学校図書館や公立図書館、コンピュータ、地図帳、地球儀 などの学習環境や教材・教具を活用するように配慮する。 (5) 多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、 有益適切な教材 に基づいて指導する。
3 児童のよさや可能性を伸ばす評価を充実する。	(1) 単元ごとに単元構成や学習過程に沿った 具体的な評価規準 を作成する。 (2) 指導と評価の計画においては、 評価場面を精選 するとともに、評価したことを「 指導に生かす 」場面と「 記録に残す 」場面を明確にする。 (3) 児童の学習状況を把握して指導に生かすために、評価規準に照らして「どのような評価資料から、どのような具体的な姿を捉えるか」という 評価方法を明確 にする。

教 科	社 会 (中)
指 導 の 重 点	努 力 事 項
1 資質・能力の育成に向けて、各分野間の関連を図り、適切な指導計画を作成する。	(1) 単元 など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む 資質・能力 の育成に向けて、生徒の 主体的・対話的で深い学び の実現に向けた授業改善を進める。 (2) 小学校社会科の内容との関連 を図るとともに、 各分野相互の関連 を図り、第1学年から第3学年までを見通した指導計画を作成し、全体として教科の目標が達成できるようにする。
2 社会的な 見方・考え方 を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動や、作業的で具体的な体験を伴う学習を推進する。	(1) 社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの 言語活動 に関わる学習を一層重視する。 (2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、 学校図書館や地域の公共施設 などを活用するとともに、 コンピュータや情報通信ネットワーク などの情報手段を積極的に活用する。 (3) 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、 作業的で具体的な体験を伴う学習 の充実を図る。 (4) 多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、 有益適切な教材 に基づいて指導する。
3 生徒のよさや可能性を積極的に見だし、それらを伸ばす評価を充実する。	(1) 単元や単位時間の評価規準 を明確にし、目標・指導・評価の一体化を図った授業づくりに努め、 目標に準拠した評価の趣旨 が生かされるようにする。 (2) 生徒の学習状況を的確に把握するために、適切な 評価場面を設定 するとともに思考力等を問うペーパーテストなどの 評価方法を工夫、改善 する。

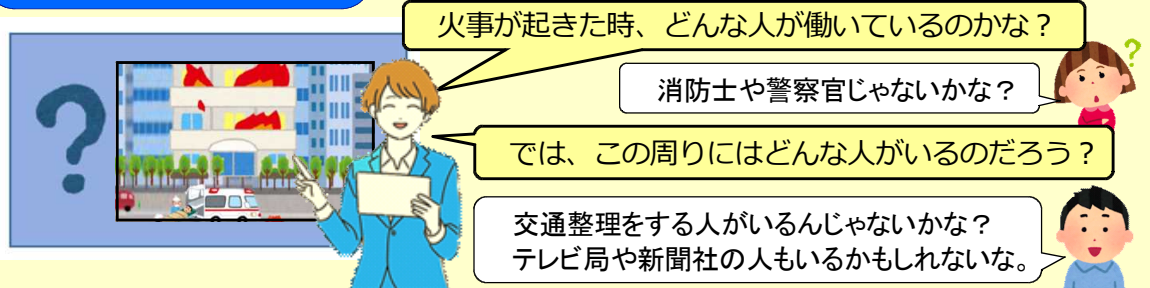
主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

【社会科 小学校 第3学年「火事からくらしを守る」 1／6】

① 本時のねらい

資料をもとに、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる活動を通して、火災から人々の安全を守る関係機関の協力体制について追究する意欲をもたせる。

③ 学習課題・見通し



火事が起きた時、どんな人が働いているのかな？

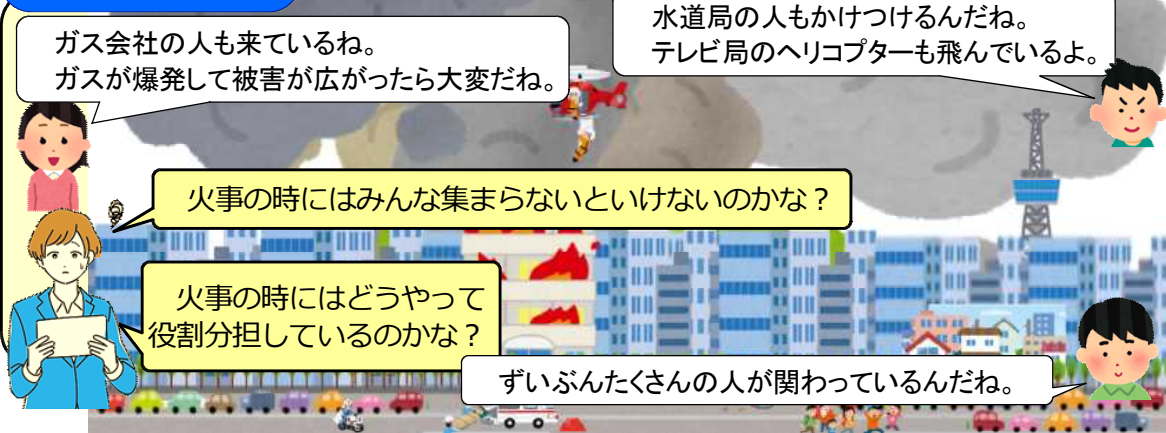
消防士や警察官じゃないかな？

では、この周りにはどんな人がいるのだろう？

交通整理をする人がいるんじゃないかな？
テレビ局や新聞社の人もいるかもしれないな。

〔学習課題〕火事が起きるとどのような人がどのようなことをするのだろう？

④ 追究・解決



ガス会社の人も来ているね。
ガスが爆発して被害が広がったら大変だね。

水道局の人もかけつけるんだね。
テレビ局のヘリコプターも飛んでいるよ。

火事の時にはみんな集まらないといけないのかな？

火事の時にはどうやって
役割分担しているのかな？

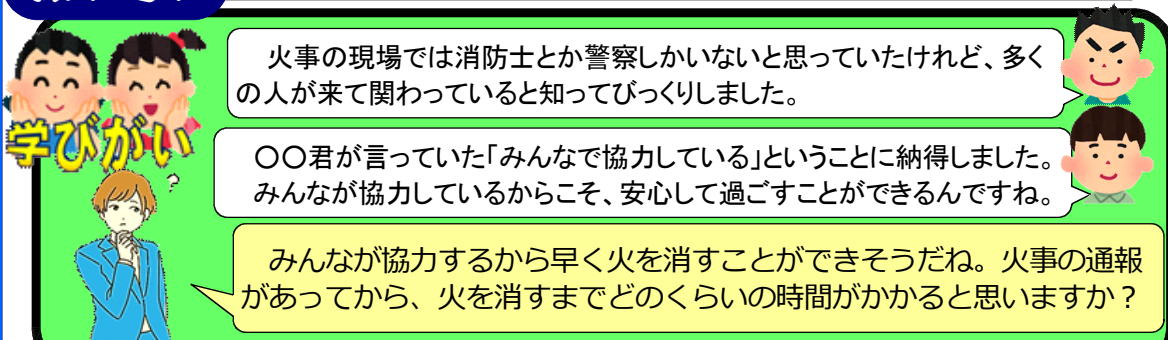
ずいぶんたくさんの人が関わっているんだね。

②

まとめ

〔まとめ〕 火事の時には、消防士や警察などの多くの人々が、人々の命を守るために協力している。

振り返り



火事の現場では消防士とか警察しかいないと思っていたけれど、多くの人々が来て関わっていると知ってびっくりしました。

〇〇君が言っていた「みんなで協力している」ということに納得しました。
みんなが協力しているからこそ、安心して過ごすことができるんですね。

みんなが協力するから早く火を消すことができそうだね。火事の通報があってから、火を消すまでどのくらいの時間がかかると思いますか？

教師の思い・願い

火事発生時に現場にかけつけるのは消防士と考えている子どもが多いだろう。実際は、救急車や水道、ガスといった関係機関の協力によって、火災から人々の命や安全が守られている。「関係機関の協力体制」に目を向けさせ、単元を通して追究する学習意欲につなげていきたい。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科	算 数 (小)
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 数学的な見方・考え方を明確にして、指導計画や授業展開を考える。</p> <p>2 問題発見・解決の過程で育成する資質・能力を明確にして、指導計画や授業展開を考える。</p> <p>3 よさや可能性を見だし、伸ばす学習評価を工夫する。</p>	<p>(1) 単元の学習を通して、どのような数学的な見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、それらを活用したりするのかを明確に3する。</p> <p>(2) 児童の実態と教材の価値を踏まえ、確かな児童理解・教材理解を基に、数学的な見方・考え方を働かせる方法を工夫する。</p> <p>(1) 「数学的な問題を見いだす力」「問題解決のための構想・見通しを立て実践する力」「統合的・発展的に考察する力」「論理的に考察する力」「数学的に表現する力」「情報を活用する力」など、育成する資質・能力を明確にして指導計画を作成する。</p> <p>(2) 資質・能力の育成のため、より効果的な場合に I C T を活用する。</p> <p>(3) 数学的に表現し伝え合う活動においては、言葉、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を関連付け、より簡潔・明瞭・的確な表現に洗練する対話的な学びの充実を図る。また、発達段階に応じて説明を記述させ、資質・能力の育成を図る。</p> <p>(4) 問題解決の過程の振り返りや統合的・発展的考察を重視する。</p> <p>(1) 育成したい資質・能力を児童の具体的な姿として明確にするなどして、ねらいに沿った評価方法を工夫する。</p> <p>(2) 記録に残す評価の場面を精選するとともに、指導に生かす評価の場面を設定し、指導と評価の計画を工夫する。</p>

教 科	数 学 (中)
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 数学的な見方・考え方を明確にして、指導計画や授業展開を考える。</p> <p>2 問題発見・解決の過程で育成する資質・能力を明確にして、指導計画や授業展開を考える。</p> <p>3 よさや可能性を見だし、伸ばす学習評価を工夫する。</p>	<p>(1) 単元全体を通して、どのような数学的な見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、それらを活用したりするのかを明確にして指導計画を作成する。</p> <p>(2) 生徒の実態と教材の価値を踏まえ、確かな生徒理解・教材理解を基に、数学的な見方・考え方を働かせる方法を工夫する。</p> <p>(1) 「数学的な問題を見いだす力」「問題解決のための構想・見通しを立て実践する力」「統合的・発展的に考察する力」「論理的に考察する力」「数学的に表現する力」「情報を活用する力」など、育成する資質・能力を明確にして指導計画を作成する。</p> <p>(2) 資質・能力の育成のため、より効果的な場合に I C T を活用する。</p> <p>(3) 現実の世界と数学の世界における問題発見・解決の過程を学習過程に位置付ける。また、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする。</p> <p>(4) 数学的に表現し伝え合う活動においては、言葉、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を関連付け、より簡潔・明瞭・的確な表現に洗練する対話的な学びの充実を図る。また、説明を記述させる時間を確保し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。</p> <p>(5) 学習の効果を高めるために、必要に応じ、電卓やコンピュータ、情報ネットワークなどを適切に活用する。特に、「D データの活用」領域において積極的な活用を図る。</p> <p>(1) 育成したい資質・能力を生徒の具体的な姿として明確にするなどしてねらいに沿った評価を行う。</p> <p>(2) 記録に残す評価の場面を精選するとともに、指導に生かす評価の場面を設定し、指導と評価の計画を工夫する。</p>

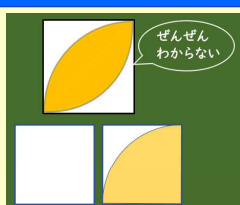
主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【算数科 小学校 第6学年「円の面積」 5／5】

円を含む複合図形の面積の求め方について、既習の求積可能な図形を基に考え、説明することができる。

③ 学習課題・見通し



この色をぬった部分の面積は何cm²かな？

ぜんぜん分からないな。

レモンの形？公式ないよね。

今日のめあては何になるでしょう？

【学習課題】色をぬった部分の面積は、どのようにすると求められるかな？

円じゃないじゃん。どうしたらいいの。

4分の1の円を使えば解けそうじゃない。

④ 追究・解決

※どう考えたか自力解決の後、共有する。

※3つの考えを端末に配信

全体で確認します。説明したい人？

A: まず、4分の1の円から三角形を引いて…。

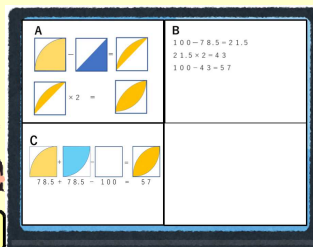
B: 正方形から4分の1の円を引いて、残りの…。

C: 4分の1の円を2つ合わせ、正方形の部分…。

本当に分かったかどうか、隣の人と説明し合しましょう。【再生】

3つの考えで、共通していることはどんなことでしょうか。

※ 確認後、本当にそうなるか適応問題を解く。



まとめ

【まとめ】 面積が求められる図形の組み合わせ方を考えれば、複雑な図形の面積を求めることができる。

振り返り



はじめはぜんぜん分からなかったけど、友達の考えを聞いて、面積を求められる図形に着目していけばよいことが分かった。4、5年生で習ったL字型の図形での考え方と同じだと思った。

もっと別な図形の組み合わせだったらどうなるか、自主学习で問題を作りたい。



ぜんぜん分からないと思ったときでも、求められる図形に着目すれば、どんな組み合わせか見えてくるのですね。自主学习で新しい問題ができれば紹介してくださいね。

教師の思い・願い



子どものモヤモヤ感を大切にしたい。その疑問や驚きを共有し、めあてを焦点化させ、自分事とさせたい。

多様な考えは出ると思うが、全員で共有する内容を精選していきたい。全員で共有した後、タブレットの図を利用し、説明し合う時間を確保していこう。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教科	理 科（小）
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 科学的に解決する学習活動を重視した指導計画を工夫する。</p> <p>2 理科の資質・能力を育成する指導法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 児童一人一人の状況を見取り、積極的に支援していくための評価を工夫する。</p>	<p>(1) 日常生活や他教科等との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させたり理科への関心を高めたりすることができるよう地域の実態に応じて単元を構想するなど工夫を行う。</p> <p>(2) 地域の実情に応じた自然の事物・現象を教材化するなど体験的な学習活動の充実を図り、児童が主体的に問題解決できるよう指導計画を工夫する。</p> <p>(3) 基礎的な観察、実験の技能を習得するための時間を確保する。</p> <p>(4) 気象、大地、自然と人間などに関する指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解と判断力の育成が図られるよう留意する。</p> <p>(1) 単元の内容や時間のまとまりの中で育む資質・能力を明らかにして、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。その際、児童がどのような「見方・考え方」を働かせているかを見取り、価値付けることにより、児童の「見方・考え方」が豊かになるよう努める。</p> <p>(2) 児童一人一人が問題を見いだし、自分事として捉え、根拠のある予想を基に、解決するための方法を発想し、見通しをもちながら観察、実験を行う。観察、実験の結果を分析・解釈する時間を十分に確保し、合意形成を行いながら結論を導き出すことを通して、問題解決の過程が充実するよう努める。</p> <p>(1) 問題解決の過程において、特徴的な児童を対象に学習状況を確認し、その状況に応じた支援や手立てを行い、指導の改善を図る。</p> <p>(2) 児童全員の観点別の学習状況を記録に残す場面を選定し、児童一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価する。</p>

教科	理 科（中）
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 科学的に探究する学習活動を重視した指導計画を工夫する。</p> <p>2 理科で目指す資質・能力を育成する指導法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 よさや可能性を積極的に見いだし、伸ばす評価を工夫する。</p>	<p>(1) 日常生活や他教科等との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させたり理科への関心を高めたりすることができるよう工夫する。</p> <p>(2) 生徒や地域の実態を踏まえ、観察、実験などの直接体験の時間や、科学的に探究する学習活動が充実するよう指導計画を工夫する。</p> <p>(3) 基礎的な観察、実験の技能の習得を図るための時間を確保する。</p> <p>(4) 小・中・高等学校の学習内容の系統性を踏まえるとともに、各学年で扱う内容に関して十分な検討を行い、3年間を見通した綿密な指導計画を工夫する。</p> <p>(5) 放射線教育や防災教育との関連を指導計画等に明記し、放射線やエネルギー資源、自然災害について科学的に理解できるようにする。</p> <p>(1) 単元の内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るようにする。その際、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動が充実するようにする。</p> <p>(2) 生徒一人一人が問題を見いだし、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する学習活動が充実するようにする。</p> <p>(3) 学習の見通しを立てる活動や学習したことを振り返る活動は、探究の過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程でも行えるように工夫する。</p> <p>(1) 科学的に探究する学習過程において、生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める。</p> <p>(2) 観点の趣旨を踏まえ、学習状況を的確に把握するための評価方法を明確にし、適切な評価を行い指導の改善を図る。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【理科 中学校 第3学年「遺伝の規則性と遺伝子」 7/9】

メンデルの遺伝子の組み合わせ実験をモデルで検証する方法を立案し、疑似体験することで規則性をもたらす仕組みを確かめることができる。

③ 学習課題・見通し

遺伝子の組み合わせ

	A	a
A	AA	Aa
a	Aa	aa



メンデルは、7000個もの種子を育て数えて自分の仮説を確かめましたね。

何年もかけて種子を集めて数えるのは大変だね。

モデル化して確かめることはできないかな。



Aとaをカードに書いて遺伝子として見立てれば、このモデルでくり返し組み合わせを数多くつくることができるんじゃない。【見方・考え方】【方法の見通し】



【学習課題】 植物を育てずに、遺伝子の組み合わせを数多く調べるには、どのようにすればよいか。

④ 追究・解決

Aとaのカードを、トランプのように引いてペアをつくれればいいかな。



Aとa書いた割り箸を2本ずつ両手に持ち、ペアに同時に引いてもらうのはどうだろう。



組み合わせをできるだけ多く作る工夫をしたいですね。

100回ずつ引けば、2人で200回だね。クラス20人では2000回できるね。



では、みんなの結果をどのように集計しましょうか。

タブレットに入力して、全員のデータを集計してみよう。【ICT活用】



みんなの結果を合わせたら、AA:Aa:aaが1:2:1に近付いたね。

まとめ

【まとめ】 モデルを使えば、遺伝子の組み合わせを数多くつくれた。つくる回数を増やすほど、組み合わせの割合が3:1に近付いた。

振り返り



学びがい

はじめは、遺伝子の組み合わせの割合は3:1にならなかった。数学の確率で学習した通り、回数を増やすほど、3:1に近付くことが分かった。



〇〇君の方法が、たくさん回数が出てよかったと思う。実物がなくても、モデルを使って調べることは理科で大切だなと改めて思った。



僕たちはコンピュータで集計して計算したけど、メンデルは毎年種子を実らせて7000個以上数えて確かめたんだね。本当にすごいことだね。



メンデルも最初のうちは仮説が実証できなかったのでしょうね。だから何年もかけて種子を集める必要があったんですね。

教師の思い・願い



メンデルが検証のために費やした膨大な労力や時間を想起させるために、交配のモデル実験を子どもたち自身に考えさせ、見通しをもって行わせたいな。さらに振り返りでは、試行回数と得られた結果の関係に気付かせたり、操作や結果が何を意味するか等を考えさせたりして、互いに考えを共有させながら学びを深めたいな。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科	幼 児 教 育
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 幼児が環境に主体的に関わり、発達の時期にふさわしい生活が展開できるような指導計画の作成と改善</p> <p>2 幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びの実現と幼児理解に基づく援助と環境の再構成</p> <p>3 幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の実施</p>	<p>(1) 園の実態や幼児一人一人の発達の実情を踏まえ、長期的・短期的に見通しをもった特色ある指導計画を作成する。</p> <p>(2) 幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図る。</p> <p>(1) 幼児の発達の実情や興味・関心等を踏まえながら、幼児が人やものとの関わりを通して、多様な体験ができるように教材を工夫するとともに、幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成する。</p> <p>(2) 幼児が身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤したり、考えたりする過程を受け止め、幼児同士の関わりが深まるよう援助する。</p> <p>(3) 特別な配慮を必要とする幼児への指導に当たっては、教職員の共通理解の下に、関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画等を作成し、活用することに努める。</p> <p>(1) 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性を把握し、指導の改善に生かすようにする。</p> <p>(2) 評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫し、組織的・計画的に行うようにする。</p>

教 科	生 活 (小)
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 児童の思いや願いの実現に向け、意欲や主体性を高めることができるような2年間を見通した指導計画を作成・改善する。</p> <p>2 児童が対象とのやりとりを通して、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などを感じ取ることができるような学習の展開を工夫する。</p> <p>3 児童一人一人の思いや願いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。</p>	<p>(1) 幼児期の教育との接続の観点から、幼児との交流や他教科等との関連について、カリキュラム・マネジメントの視点から検討し、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を行う。</p> <p>(2) 学校や地域の実態を生かし、児童が主体的に継続して活動を繰り返すことができるような指導計画を作成する。</p> <p>(3) 時間の保障・空間的な視点・心理的な余裕を大切にし、一人一人がじっくりと活動できるような指導計画を工夫する。</p> <p>(1) 学習の対象との情緒的な関わりを重視するとともに、気付きの質を高め、次の活動へつなげる学習指導を工夫する。</p> <p>(2) 児童の思いや願いを実現し、充実感、達成感、自己有能感、一体感などを感じ取ることができる学習活動を工夫する。</p> <p>(3) 活動を通して獲得した情報を交換し交流する場面、自ら判断し、自己決定する場面を位置付けていく。</p> <p>(1) 児童の活動の様子などから、一人一人の内面、活動や体験の広がりや深まり及びその中での気付きなどの進歩の状況を把握し、次の指導に生かせるように工夫する。</p> <p>(2) 児童を多様な方法で多面的、総合的に見取り、一人一人のよさや可能性を把握することに努める。</p> <p>(3) 児童の発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して児童の「思考」を捉える評価に努める。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【生活科 小学校 第1学年「みずであそぼう」 6／7】

シャボン玉をつくる道具を工夫して作ったり、それを使って試したりする活動を通して、自分が作りたいシャボン玉を作り、友達と一緒に楽しむことができる。

③ 学習課題・見通し

今日はみんなでシャボン玉作りをするよ。
先生は、こんなシャボン玉を考えたよ。

ぼくもあんなシャボン玉作りたいな！

わあ、すごい！！
大きいシャボン玉！

どうやったらあんなに大きく作れるのかな？

【学習課題】〇〇なシャボン玉を作って楽しもう。

④ 追究・解決

ぼくは全然シャボン玉ができない。
何が悪いのかな？

わたしは大きなシャボン玉を作れるようになったよ。

〇〇さんと〇〇君はどこが違っているのかな？

〇〇君のハンガーは曲がってデコボコしているからじゃない？
〇〇さんみたいにまっすぐ平らにすればいいんじゃない？

〇〇さんはハンガーに巻いた毛糸にたっぶり液を付けているよ。

ほんとだ！みんなに教えてもらったら大きなシャボン玉ができたよ！

まとめ

ハンガーを2つつなげてゆっくり振ったら雪だるまみたいな合体したシャボン玉ができました。

指で輪っかを作ったら風が当たって自動で次々にたくさんのシャボン玉が作れました。

振り返り

学びがい

はじめは全然できなかったけど、〇〇君に「ハンガーに液をぎゅっと押しつけてゆっくり振るといいよ」って教えてもらって、やってみたら大きなものができてとてもうれしかったです。

〇〇さんがゆきだるまみたいなシャボン玉を作っていてすごかったです。今度、ぼくは3つつながった団子みたいなシャボン玉を作りたいです。

もっともっと面白そうなシャボン玉が作れそうだね。次の時間はみんなでもっと楽しいシャボン玉作りをしよう。

教師の思い・願い

子どもたちはこれまで水遊びをしてきたが、自分たちで遊び方を工夫したり、考えたりするまでには至っていない。様々な発想や発見が生まれるシャボン玉遊びを取り上げ、「もっとやってみたい」「工夫したい」という意欲を高めていきたい。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科 音 楽 (小)	
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 音楽活動の基礎的な能力を培えるよう、指導計画を改善する。</p> <p>2 児童が音楽活動を楽しみ、自ら進んで学習に取り組むような指導方法を工夫する。</p> <p>3 児童と音楽との関わりを深め、児童一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。</p>	<p>(1) 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、各領域及び各分野がバランスよく配置された年間指導計画を作成する。</p> <p>(2) 題材で育みたい資質・能力を明確にし、表現活動（歌唱・器楽・音楽づくり）と鑑賞活動の関連を図る。</p> <p>(1) 題材の目標に照らし、学習内容を厳選するとともに、楽曲分析を通して魅力ある教材を提示し、指導の充実を図る。</p> <p>(2) 児童の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、児童の協働的な学習を促し、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させる。</p> <p>(3) 我が国や郷土の音楽に対して、児童の興味・関心を高めるために、和楽器に親しむなどの体験を含めた学習活動を充実させる。</p> <p>(4) ICTについては、音楽をつくったり、可視化したりするなど場面に応じて効果的に使用するとともに、自分で演奏したり本物の演奏を聴いたりすることと組み合わせながら活用する。</p> <p>(5) 鑑賞は、楽曲全体を味わって聴くことができるように工夫する。</p> <p>(1) 学校や児童の実態等に応じて、評価の観点をもとに題材の評価規準及び指導と評価の計画を作成し、多面的に学習状況を把握する。</p> <p>(2) 音楽表現や鑑賞の学習過程において児童一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導改善に生かす。</p>

教 科 音 楽 (中)	
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 音楽活動の基礎的な能力の育成を図るために、指導計画を改善する。</p> <p>2 生徒が音楽活動の喜びを味わい、主体的・創造的に学習に取り組むような指導方法を工夫する。</p> <p>3 生徒と音楽との関わりを深め、生徒一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。</p>	<p>(1) 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、各領域及び各分野がバランスよく配置された年間指導計画を作成する。</p> <p>(2) 題材で育みたい資質・能力を明確にし、表現活動（歌唱、器楽、創作）と鑑賞活動との関連を図る。</p> <p>(1) 題材の目標に照らし、学習内容を厳選するとともに、楽曲分析を通して魅力ある教材を提示し、指導の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、生徒の協働的な学習を促し、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させる。</p> <p>(3) 生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、音楽の多様性を理解することができるような指導を工夫する。</p> <p>(4) ICTについては、演奏や創作、鑑賞など効果的な場面を考えて使用するとともに、実際に演奏する活動や本物の演奏を聴くなど、組み合わせながら活用する。</p> <p>(1) 各題材の目標に対応させて、観点ごとにその実現を確認できる評価規準及び指導と評価の計画を作成し、生徒の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用する。</p> <p>(2) 生徒が思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、その過程において生徒一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導改善に生かす。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【音楽科 中学校 第1学年「曲想と音楽の構造との関わりを理解して
その魅力を味わおう～『魔王』～」 1/2】

詩の内容に沿って曲の雰囲気や伴奏等が、様々に変化していくことに気付き、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。

③ 学習課題・見通し

今日はある曲を鑑賞します。ポイントは一つの物語になっているということ。どんな内容なのか想像しながら聴いてみましょう。



(音楽を聴いて内容を想像できるように、ドイツ語による歌唱を歌詞の意味や題名を伏せて鑑賞。)

声が高くなったり低くなったりしていたね。何人か出てくるのかな。

歌詞の意味は分からないけれど、なんだか怖い感じ…どんな物語なのかな。



【学習課題】 曲の雰囲気や伴奏は、どのように変化しているのかな。

④ 追究・解決

(自分なりのストーリーを考え、想像したことをグループで共有。その後、曲名「魔王」や日本語の歌詞を紹介。)



「魔王」は、一人で語り手と3人の登場人物(魔王、父、子)を歌い分けているんですよ。



絵本の読み聞かせの時みたいに、一人で物語を語って聞かせているみたいだね。

一人で歌い分けていることで、登場人物の掛け合いの面白さが強調される気がするね。

まとめ

ドイツ語の歌詞は分からなくても、たたみかけるようになっていく伴奏から、何か怖いものが襲ってくる物語になっているなと感じました。



声の音色の変化によって、3人の登場人物の違いがよく出ていました。だんだん恐怖心が強くなっていく様子や最後に静かな悲しい感じに変化していききました。



② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

振り返り



はじめは歌詞の意味も知らないまま聴いたけれど、音の強弱や高さの変化がよく分かって、どのような物語なのか想像してわくわくしました。

友達との話合いの中で、声の音色が変化することについて、想像することがそれぞれ違って面白かったです。

詩の内容に合わせて、声の音色が変化していくように感じました。登場人物の様子がより想像できました。これを一人で歌い分けているなんてすごい。



みんな、歌唱表現の工夫による物語の世界をよく感じ取ることができましたね。さらに、別の作曲家による「魔王」と聴き比べて表現の違いを感じ取っていきましょう。



教師の思い・願い

はじめに、曲名・歌詞を隠したまま鑑賞させることで、語り手と3人の登場人物を歌い分けているという歌唱表現の魅力に気付かせたいな。そして、「詩と音楽との関わり」を子ども自身が探っていけるようにしたい。



教 科		図 画 工 作
指導の重点事項		努 力 事 項
1 表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が感性を働かせながらつくりだす喜びを味わうことができる指導計画を作成する。	2 児童が感性を働かせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を培うことができる授業展開を工夫する。	(1) 学校の実態や児童の発達に応じ、 幼稚園、中学校との連続性や2学年間の見通し をもち、表現及び鑑賞の活動を通して児童の資質・能力を高めることができるように指導計画を作成する。
		(2) 表現及び鑑賞相互の活動に関連性 をもたせるとともに、各内容を関連付けたり一体的に扱ったりできる幅のある題材を設定し、指導計画に位置付ける。
		(3) 日々の学習から生まれた作品や親しみのある美術作品等の展示を工夫し、校内における 造形的な創造活動の日常化 を図る。
3 自分らしさを自覚し豊かな創造活動ができるように評価を工夫する。		(1) 育成したい資質や能力を明確にし 、個々の児童の思いや願いの具現に向け、自らテーマや材料、方法、手順等を選択、決定できる場や機会を適切に位置付けた題材を計画する。
		(2) 表現と鑑賞の活動の関連を図るとともに、諸感覚を働かせた能動的な鑑賞となるように活動を工夫し、 発達に応じた適切な言語活動 を位置付けた題材を設定する。
		(3) 児童の主眼的な学習の中で、 対象や事象を造形的な視点で捉え、イメージをもちながら、造形的な見方・考え方を働かせ 、資質・能力が育まれる授業展開を工夫する。
		(4) 形や色、材料などに関わりながら、 共に学び高め合う学習や互いのよさを認め尊重し合う学習 としての指導の充実を図る。
		(1) 題材設定時や授業前に、育成する資質・能力が発揮された 姿を具体的に思い描き 、授業場面での 児童の多面的な見取りや価値付け の充実を図る。
		(2) 目標や内容を具現化する題材に沿って設定されたねらいをもとに、 評価場面と評価方法 を工夫する。

教 科		美 術
指導の重点事項		努 力 事 項
1 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒一人一人に美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てることができる指導計画を作成する。	2 生徒が感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることができる授業展開を工夫する。	(1) 学校や生徒の実態に応じ、 小学校や高校との連続性や3年間の学習の見通し を大切にし、育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした指導計画を作成する。
		(2) A表現の内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理したことを踏まえるとともに、 表現及び鑑賞相互の活動に関連性をもたせた指導計画 を作成する。
		(3) 道具や薬品の誤用等による事故防止に向け、 学習環境の整備 に努めるとともに、 安全指導 を適切に位置付ける。
3 生徒一人一人が自分のよさに自信をもち、意欲的・意図的に創造活動に取り組めるように評価を工夫する。		(1) 育成したい資質・能力を明確にし、造形的な視点を実感をもって理解しながら造形的な見方・考え方を働かせ 、資質・能力が育まれる題材を設定したり、授業を展開したりする。
		(2) 【共通事項】に示す事項を視点に 、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることを通して、言語活動の充実を図る。
		(3) 伝統的な側面と創造的な側面から、 生活の中の美術の働きや美術文化 について理解を深められるようにする。
		(1) 題材設定時や授業前に、育成する資質・能力が発揮された 姿を具体的に思い描き 、授業場面での 生徒の多面的な見取りや価値付け に役立てる。
		(2) 生徒が、自己の感性をもとに自信をもって表現や鑑賞の活動に取り組み、 互いの表現のよさや個性などを認め合いながら活動 できるよう、 評価場面と評価方法 を工夫する。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【美術科 中学校 第3学年「仏像に宿る心」 1／2】

2体の仏像彫刻の表情や体の動きがもたらす効果、形や材料、質感などの造形的なよさや美しさについて比較鑑賞することで、作者の意図を感じ取ることができる。

③ 学習課題・見通し

平安 A

B 鎌倉

仏像がどうして作られたのか、社会科で学習したかな？

その時代の人々の思いや願いが込められている。

この2体の仏像を比べて、気付いたことはあるかな？

どちらも笛を吹いているけど、雰囲気が違う。
込められている願いが、違っているのかな？

【学習課題】 仏像には、作者のどんな思いや願いが込められているのだろう？

④ 追究・解決

A「雲中供養菩薩像 南八号」は、
どんな音楽を奏でているのかな。

柔らかくて優しい音楽を奏でている。

どこからそう思ったの？【見方・考え方】

穏やかな表情です。姿勢から
は、母のような優しさを感じます。

B「迦楼羅王立像」は、Aと比べてどうかな。根拠
を明確にしながら、グループで話し合しましょう。

Bの動きから、力
強さや気迫、壮大さ
を感じる。するどい
表情で、みんなを守
っているのかな。

それぞれの仏像には、作者のどんな思いや願いが
込められているのかな？

まとめ

振り返り

平安時代に作られたAには、
平穏な世の中が続くようにという
願いが込められている。

仏像の表情や動きを実際に
真似してみたら、Bから力強く生
きたいという思いを感じた。

学びがい

同じ笛を吹く仏像でも、込められている思いには違いがあることが分か
った。表情や体の動き、材質や色と結び付けて考えるのが、面白かった。

〇〇君が仏像の表情や動きを真似していて、ぼくもやってみたら、作者の
思いが伝わってくる感じがした。違う仏像も、真似しながら考えてみたい。

仏像の細部の表現と全体から受けるイメージなどを感じ取することで、込めら
れた思いや願いを探ることができましたね。他には、どんな仏像があるかな。

教師の思い・願い

社会科で学習した「仏像彫刻」に込められている思いや願いについて、考え
させたいな。一人一人が主体的に鑑賞できるように、教科書を拡大した写真を
黒板に位置付けよう。2体の笛を吹く仏像の「表情、動き、手、姿勢、着衣や
持ち物」等を根拠にしながら比較することで、違いについて考え易くしよう。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科 体 育 (小)	
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 運動領域と保健領域の関連を踏まえること、体育・健康に関する指導につながる健康安全・体育的行事との関連について見通した指導計画を作成する。</p> <p>2 体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視した学習評価を行う。</p>	<p>(1) 児童の実態等を踏まえた指導内容の明確化・体系化を図るとともに、「何を教えるのか」「どのように教えるのか」を整理し、二つの学年を一つの単位として、その中で各種運動種目の単元構成や年間配当、時間配当を工夫して指導計画を作成する。</p> <p>(2) 新体力テスト等の結果を踏まえ、自校における体力・運動能力の課題を解決するとともに、体力を高めるための具体的な解決策(運動身体づくりプログラムの自校化と継続的な実践等)を盛り込んだ体力向上推進計画書を作成し、適切な実施と改善に努める。</p> <p>(3) 活用の機会を工夫し、自分手帳の活用を通した児童の健康マネジメント能力の育成に努める。</p> <p>【運動領域】</p> <p>(1) 児童の発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基本的な動きや技能が身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。</p> <p>(2) 運動を苦手と感じている児童や、意欲的に取り組まない児童への指導を工夫するとともに、障がい等のある児童への指導の際に、周りの児童が様々な特性を尊重するように指導する。</p> <p>【保健領域】</p> <p>(1) 健康に関心をもてるように、知識を活用する学習活動を積極的に行い、デジタル教材の活用、実習、実験、課題学習等を取り入れるとともに、養護教諭や栄養教諭等の専門性を有する教職員の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解し、自己の健康の保持増進や回復等のために主体的、協働的に活動していく学習を工夫する。</p> <p>(3) 保健領域と運動領域を関係付けて学習することによって、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるようにする。</p> <p>(1) 「いつ何を教え、いつどの観点で、何を使って評価するか」を明確にし、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2) 評価の観点や課題解決のポイントを明示し、自己評価や相互評価を効果的に行う。</p> <p>(3) 「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取る部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分(感性・思いやりなど)があることに留意する。</p>

教 科 保健体育 (中)	
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるように配慮した指導計画を作成する。</p> <p>2 体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的に解決するための指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを重視した学習評価を行う。</p>	<p>(1) 生徒の実態等を踏まえた指導内容の明確化・体系化を図るとともに、発達の段階のまとまりに応じ、運動の取り上げ方を一層弾力化した指導計画を作成する。</p> <p>(2) 新体力テスト等の結果を踏まえ、自校における体力・運動能力の課題を解決するとともに、体力を高めるための具体的な解決策を盛り込んだ 体力向上推進計画を作成し、学校の教育活動全体や実生活に生かすことができるよう改善を図る。</p> <p>(3) 活用の機会を工夫し、自分手帳の活用を通した児童の健康マネジメント能力の育成に努める。</p> <p>【体育分野】</p> <p>(1) 生徒の発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基本的な技能や知識が身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。</p> <p>(2) 個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法について、学校や地域の実態に応じて適切に設定する。</p> <p>【保健分野】</p> <p>(1) 知識を活用する学習活動を積極的に行い、デジタル教材の活用や実習、実験、課題学習等を取り入れるとともに、養護教諭や栄養教諭等の専門性を有する教職員の参加・協力を推進するなど多様な指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解し、主体的に自他の健康課題を解決していく学習活動を工夫する。</p> <p>(3) 体育分野と保健分野の関連を図り、指導内容の充実に努める。</p> <p>(1) 「いつ何を教え、いつどの観点で、何を使って評価するか」を明確にし、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2) 評価の観点や課題解決のポイントを明示し、自己評価や相互評価を効果的に行う。</p> <p>(3) 「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取る部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分(感性・思いやりなど)があることに留意する。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【体育科 小学校 第5学年「ゴール型 バasketボール」 2／6】

友達と教え合いながら、練習や簡易化されたゲームに取り組むことでシュートの技能を高める。

③ 学習課題・見通し

1回目の簡易化されたゲーム後



〇〇さんが「シュートが入らない」と悩んでいます。同じ気持ちの人はいますか？

どうしてシュートが入らないんだろう？

ぼくもシュートがうまく入りません。

【学習課題】何を意識したらシュートが入るのかな？



④ 追究・解決

何となくでいいから、「こうすればいいかな」と思っている人はいますか？



ポートボールの時のように、フワッと投げたら、するっと入りました。

小さな四角に優しく当てたら、はね返って入りました。

早く練習で試してみたいです。



この後、練習と2回目の簡易化されたゲームを実施

まとめ

【まとめ】 シュートを入れるにはフワッと投げることに、優しく小さな四角に当てることを意識する。

振り返り



友達の上質なシュートを見て、シュートのポイントを意識できました。2回目のゲームではたくさんシュートを入れることができました。

ぼくがアドバイスをしたら、友達のシュートがとても上手になり、そしてチームが勝つことができたのでうれしかったです。

ゴール正面よりも、斜めからシュートをした方が入りやすいのかなと思いました。

負けてくやしだけれど、チームのみんなと一緒に励まし合いながらゲームができたので楽しかったです。



みんなのシュートがとても上手になりました。今度はパスで悩んでる人が何人かいるようですよ。



教師の思い・願い



子どもたちはゲーム中に「シュートを入れたい」という思いを強くもっている。そこで、シュートを入れるためには「シュート軌道を山なりにすること」、「バックボードを利用すること」の2点に着目させる。そして互いの動きを見て、アドバイスをし合うことで、シュートの技能を高められるようにしたい。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教科	家 庭 (小)
指導の重点事項	努 力 事 項
1 資質・能力の育成に向けて、2年間を見通した指導計画を作成する。 2 生活や社会との関わりを重視した題材を設定し、見方・考え方を働かせた課題の追究・解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。 3 児童のよさや進歩の状況を積極的に捉えた学習評価を工夫する。	(1) 題材など 内容や時間のまとまりを見通して 、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の 主体的・対話的で深い学びの実現 を図るようにする。 (2) 題材の構成に当たっては、児童や学校、地域の実態を的確に捉えるとともに、 内容相互の関連を図り 、指導の効果を高めるようにする。その際、 他教科等との関連を明確にするとともに、中学校の学習を見据え、系統的に指導 ができるようにする。 (1) 衣食住など生活の中の様々な言葉を 実感を伴って理解 する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を 考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 を図る。 (2) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用 して、実習等における作業工程の拡大や動画等の機能の活用、情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫する。 (3) 生活の自立の基礎を培う基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために、調理や製作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりするなどの 実践的・体験的な活動を充実 する。 (4) 家庭や地域との連携 を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを 日常生活に活用 できるよう配慮する。 (1) 題材ごとに評価場面や方法等を入れた「 指導と評価の計画 」を作成し、資質・能力が育成されるよう 指導改善 に生かす。 (2) 指導の前後や学習過程に評価を適宜位置付け、児童のよい点や進歩の状況などを評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

教科	技術・家庭 (家庭分野)
指導の重点事項	努 力 事 項
1 資質・能力の育成に向けて、3年間を見通した指導計画を作成する。 2 生活や社会との関わりを重視した題材を設定し、見方・考え方を働かせた課題の追究・解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。 3 生徒のよさや進歩の状況を積極的に捉えた、学習評価を工夫する。	(1) 題材など 内容や時間のまとまりを見通して 、その中で育む資質・能力の育成に向けて、 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現 を図るようにする。 (2) 小学校家庭科及び高等学校家庭科との 連続性と系統性 を重視し、3学年間を見通した指導計画を作成する。 (3) 各項目及び各項目に示す事項については、 相互に有機的な関連を図り、総合的に展開できるよう適切な題材 を設定して計画を作成する。 (1) 衣食住などに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて 考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 を図る。 (2) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用 して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫する。 (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し 、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、 実践的・体験的な活動を充実 する。 (4) 生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決 する学習活動を充実するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮する。 (1) 評価の内容や方法を改善し、 具体的な題材ごとの指導計画と評価規準を作成 し、資質・能力が育成されるよう 指導の改善 に生かす。 (2) 指導の前後や学習の過程に適宜評価を位置付け 生徒のよい点や進歩の状況 を積極的に捉え、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

教科	技術・家庭 (技術分野)
指導の重点事項	努力事項
1 資質・能力の育成に向けて、3年間を見通した指導計画を作成する。 2 生活や社会との関わりを重視した題材を設定し、見方・考え方を働かせた課題の追究・解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。 3 生徒のよさや進歩の状況を積極的に捉えた学習評価を工夫する。	(1) 題材など 内容や時間のまとまりを見通して 、その中で育む資質・能力の育成に向けて、 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現 を図るようにする。 (2) 各項目及び各項目に示す事項については、 相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材 を設定して計画を作成する。 (1) ものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて 考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 を図る。 (2) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用 して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫する。 (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し 、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、 実践的・体験的な活動を充実 する。 (4) 生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決 する学習活動を充実するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮する。 (1) 評価の内容や方法を改善し、 具体的な題材ごとの指導計画と評価規準を作成 する。 (2) 指導の前後や指導の過程に適宜評価を位置付け 生徒のよい点や進歩の状況 を積極的に捉え、生徒の主体的な学習活動を促す評価となるようにする。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【技術・家庭科 中学校 第2学年「生活を豊かにするものの製作」1/10】

資源や環境に配慮したり、生活を快適にしたり便利にしたりする等、製作の目的を明確にして、その目的に合わせたバッグのデザインを決めることができる。

③ 学習課題・見通し



小学校の作品

- 活用している
- 活用していない

小学校で布を用いた製作を行いましたね。製作はうまくできましたか。また、作品を今も活用していますか。【振り返り】

エプロンがうまく作れたので、調理実習のときに使っているよ。

細かい物が入らなくて、使いづらかったな。

これから作る布製品はトートバッグです。どんな作品にしたいですか。

おばあちゃんに、喜んでもらえるバッグをあげたいな。

持ち手がすぐ取れてしまわないように、丈夫に作りたいな。

【学習課題】 使う人が喜ぶトートバッグにするために、どうしたらいいか。

④ 追究・解決

用途・デザイン

- 誰のために
- 入れたい物
- どのように活用するか



まずは、用途やデザインを考えましょう。

部活動の道具を持ち運ぶために使いたいな。

大きさや形は決まりましたね。次に、自分の考えや便利にする工夫、環境への配慮についてグループで話し合ってみましょう。

小さくなったジーンズを再利用したいな。切って縫い合わせ、ポケットを作ろうかな。

私もポケットを作りたいな。工夫して細かい物を取り出しやすくしたいな。

お弁当箱が入るようにしたいけど、どんなことに気を付けたらいいかな。

実際に持ち運びしたい弁当箱を入れてみて、マチの広さを決める必要があるね。

②

まとめ



自分で大切にしたいので、底がすぐに破けてしまわないように、丈夫なジーンズ生地を再利用することに決めた。

おばあちゃんのお気に入りの布を使えば、喜んでもらえるかな。デザインも相談してみようかな。

振り返り



便利にする工夫として、細かい物の出し入れについて考えました。みんなの意見を取り入れ、デザインすることができました。【多角的な検討】

持ち手がすぐに取れてしまわないように、丈夫に縫う工夫が必要だな。ミシンを使うのは久しぶりだから、復習しなければいけないな。

作る物が決まりましたね。製作時間は○時間です。教科書の「製作の流れ」を基に、どんな手順で行い、どんな道具を使うのか確認しましょう。

教師の思い・願い



身の回りの生活を快適で便利にしたり資源や環境に配慮したりしながら、自分らしいアイデアや工夫を考えさせ、布を用いた作品を主体的に製作させたい。そして、使う人に喜んでもらえる、満足できる作品にすることで、自分自身が豊かな気持ちになることに気付かせて達成感をもちたいな。

ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科 外 国 語 (小)	
指導の重点事項	努 力 事 項
1 外国語科の目標と趣旨を的確に捉え、児童や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、目標の実現を図るよう系統的な指導計画を作成する。	(1) 小・中の連携や小学校同士の連携により、 中学校への円滑な接続 を図るとともに、設定する単元の位置付けや単元と単元との関連を踏まえ、系統性のある指導計画を作成する。 (2) 児童や地域の実態に応じて、指導内容や活動等を自校化し、外国語科の目標と趣旨に沿ってそれらを位置付けるとともに、他の教科等との 相互の関連を図る 。 (3) 実施上の課題等の把握や指導計画作成は、 全職員の共通理解 のもと学校全体で取り組むとともに 校内研修を充実させる 。 (4) 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定 し、単元等を通して英語を使って「何ができるようになるのか」を明確にする。
2 外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を創造する。	(1) 単元や題材等 内容や時間のまとまりの中で授業を設計 し、単元や授業で育成する資質・能力を明確にして、単元構成・授業構成を工夫する。 (2) 教師自身が英語力の向上に努め、クラスルーム・イングリッシュを計画的に使用し、児童が 英語に触れる時間を増やす 。 (3) 「目的や場面、状況などを理解する」「見通す」「学び合う」「振り返る」学習活動を重視し、 主体的・対話的で深い学びの実現を図る 。 (4) 学習意欲が高まる 「身近で簡単な事柄」について課題を設定する 。
3 指導と評価の一体化を図る。	(1) 5領域で「何ができるようになるのか」という観点から 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定 し、指導と評価、授業の改善に努める。 (2) 外国語科の目標と趣旨を踏まえ、児童や地域の実態に応じて 単元や授業のねらいを明確にし 、指導と評価の計画を作成する。 (3) 単元や授業のねらいに沿って、評価規準とともに児童の状況を適切にとらえる 評価の場面、方法等を設定する 。 (4) 自己評価や相互評価等を活用し、児童の状況を分析するとともに、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど 指導の改善に生かす 。

教 科 外 国 語 (中)	
指導の重点事項	努 力 事 項
1 外国語科の目標と趣旨を的確に捉え、生徒や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、目標の実現を図るよう系統的な指導計画を作成する。	(1) 小学校や高等学校における指導との接続 を図るとともに、小学校外国語活動及び小学校外国語科の内容や成果等を踏まえ、系統性のある指導計画を作成する。 (2) 各単元に授業時数を効果的に配当し、領域ごとの活動やそれらを統合的に活用する活動を適切に位置付け、年間を通してバランスのとれた 5領域の総合的な育成を目指す 。 (3) 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定 し、単元を通して英語を使って「何ができるようになるのか」を明確にし、目標や評価規準を設定する。
2 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を創造する。	(1) 単元や題材等 内容や時間のまとまりの中で授業を設計 し、単元や授業で育成する資質・能力を明確にして、単元及び授業構成を工夫する。 (2) 生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保し、授業全体を英語を使った「 実際のコミュニケーションの場面 」とするため、 授業は英語で行うことを基本とする 。 (3) 「目的や場面、状況などを理解する」「見通す」「学び合う」「振り返る」学習活動を重視し、 主体的・対話的で深い学びの実現を図る 。 (4) 学習意欲が高まるような 「日常的な話題」や「社会的な話題」について課題を設定する 。
3 指導と評価の一体化を図る。	(1) 5領域で「何ができるようになるのか」という観点から 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定 し、指導と評価、授業の改善に努める。 (2) 単元（授業）の目標、学習内容・活動、評価規準、評価の場面や方法、評価結果に基づく支援の 整合性 を図る。 (3) 単元目標や内容等に応じて指導と評価の重点化を図る場合でも、年間を通じて、 各観点、評価規準及び言語活動をバランスよく評価する 。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

【外国語科 小学校 第5学年

Unit 5 Where is the post office? 6 / 8】

① 本時のねらい

道案内に関する基本的な表現を用いて、場所を尋ねたり答えたりすることができる。

③ 学習課題・見通し



(既習の町の地図を見ながら)
Excuse me.
Where is the hospital?

I see. Thank you very much.

Mmm... Go straight
for one block.
Turn right. You can
see it on your right.

You're welcome.
できたぞ。



できるようになったね。ではこれはどうかな。(オリジナルタウンの地図を見せる。)



難しそう。これまで習った言い方で
案内できるのかな？

Go straight.やTurn right(left).
を使えば言えそうだよ。



④ 追究・解決

【学習課題】オリジナルタウンでも、道案内できるかな。



友達と一緒に場所を尋ねたり答えたりしてみましょう。Let's start.

Excuse me.

Yes?



Where is the supermarket?

Well...Go straight for two
blocks. Turn right. You can see
it on your left.

尋ねる

Thank you very much.

You're welcome.

答える

② まとめ

【まとめ】 オリジナルタウンでも、学習した表現 (Go straight for one block.Turn right.等) を使うと、道案内することができる。

振り返り



だんだん慣れてきて、上手に言えるようになりました。楽しかったです。

デジタル教科書で練習した歌を思い出して、リズムに乗って言えました。

相手の顔を見ながら、ゆっくり、繰り返し説明すると伝わりました。

Thank you.と言われ、You're welcome.と返したら嬉しくなりました。



オリジナルタウンでも自信をもって説明していましたね。すごいですね。ALTの先生にも、校舎の案内ができそうですね。

教師の思い・願い

友達とのやり取りを通して道案内の表現を学習してきました。既習内容を活用すると、オリジナルタウンでも道案内ができることを実感させたいな。英語でコミュニケーションがとれる喜びを味わわせながら、楽しく学習させたいな。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科	特別の教科 道徳 (小・中)
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 児童生徒や学校、地域の実態を踏まえた実効性のある全体計画及び指導計画を作成し、全教師が協力して学校全体で取り組む推進体制を確立する。</p> <p>2 道徳教育の「要」としての道徳科の役割を踏まえ、多様な指導方法・指導体制等を工夫するとともに、家庭や地域との積極的な連携を図る。</p> <p>3 児童生徒の成長を受け止めて認め、励ます評価を個人内評価として記述式で実施する。</p>	<p>(1) 校長の明確な方針の基、道徳教育推進教師を中心として、全教師が共通理解し協力して、全体計画及び指導計画を作成する。</p> <p>(2) 児童生徒の発達の段階や特性を踏まえ、指導内容を重点化した全体計画を作成する。 ○ 児童生徒や学校、地域の実態を踏まえ、学校における重点目標を設定するとともに、指導内容の重点化を図る。 ○ 全体計画に加える「別葉」を全教師の共通理解の基、作成する。作成にあたっては、学校における重点目標との関連を図るとともに、各教科等における道徳教育の指導の「内容と時期」が分かりやすくなるように工夫して、その活用を図る。 ○ 「学校いじめ防止基本方針」や各種教育の目標及び全体計画と道徳教育の関連性や整合性を明確にする。</p> <p>(3) より活用しやすい指導計画を作成する。 ○ 主題の設定と教材の配列を工夫し、「自校ならではの」指導計画の具現化を図る。作成に当たっては、「ふくしま道徳教育資料集」等の地域教材を効果的に位置付け、積極的な活用を図る。</p> <p>(1) 「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を目安にしながら、児童生徒の心に響く多様な指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 教師同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組み、学年内、学校内で共通認識をもつことを積極的に行う。</p> <p>(3) 保護者や地域の人々が授業を参観する機会を積極的に位置付ける。また、保護者や地域の人々が参加、協力する指導体制を工夫する。</p> <p>(1) 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める。</p> <p>(2) 評価の視点や方法、評価のために集めておく資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもつようにする。</p> <p>(3) 保護者や地域の人々に、道徳科の授業や評価について説明する機会をもつなど、円滑な実施に向けて学校の説明責任を果たす。</p>

教材「お母さんの せい求書」D家族愛、家庭生活の充実（「新・みんなの道徳4」学研）
【あらすじ】

合計	食事代やおやつ代	服や、くつや、おもちゃ代	よごれた服などの洗濯代	病気をしたときのかん病代	たかしへのせい求書 お母さんより
0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	

合計	お留守番代	おそうじ代	お使い代	お母さんへのせい求書 たかしより
五百 円	二百 円	百 円	二百 円	

本教材には、主人公のたかしとそのお母さんが登場する。
お手伝い等の代金500円を請求したたかしに対して、お母さんはお金と共に0円の請求書を渡す。たかしの目は、涙でいっぱいになるという話である。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【道徳科 小学校 第4学年「家族の一員として」教材：お母さんのせい求書】

友達や保護者とともに家族の気持ちについて考えることを通して、家族の支えに気付き、自分も家族の一員として家族を助け、共に温かい家庭をつくらうとする態度を育てる。

③ 学習課題・見通し

みんなは、家族のためにどんなことをどんな気持ちでやっているのかな。

お家の人は家族のためにどんなことをしているのかな。また、どんな気持ちでやってくれているのかな。

【学習課題】家族の気持ちって…

ご飯運びを、楽しい気持ちでやっている。

ご飯を作ってくれたり、勉強を覚えてくれたりする。具合が悪い時は、看病してくれる。

優しい気持ちでやってくれているけれど、仕事で遅くなる時もあるからなあ…。

④ 追 求

多面的・多角的に考える

お母さんの請求書は、どうして0円なのかな？

自分の子どもだから、喜びの方が大きいかもしれない。だから0円？

お母さんは、いつもルンルン気分でやっているのかな？【問い返し】

仕事が遅い時や、妹が熱を出した時は、大変そうだったな。

大変なのに0円でいいの？グループで、お家の人と一緒に話し合ってみましょう。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

振り返り

自己を見つめる

答えは子どもの中に…

みんなのお家の人は、「楽しい・嬉しい」という気持ちと、「大変」という気持ち、どちらが大きいと思う？

「楽しい」気持ちもあるけれど、具合が悪いときは「大変」な方が大きくなって、〇〇君のお母さんが言っていたな。ぼくのお母さんも同じだろうな。

自分は、お家の人のためになることをどのくらいしているかな。心のものさしを使って自分を見つめて、その理由についても考えてみましょう。

洗濯物をたたんだ時、ありがとうと言われて嬉しかった。でも、その後はあんまりやっていなかった。お母さんは大変な時もあるから、言われなくてもお風呂掃除とかをして、もっと役に立ちたいと思った。

実感

家族からの手紙を受け取り、読む。

教師の思い・願い

普段当たり前のように守られ、支えてもらっている家族の愛情や苦労について、改めて考える機会にしたいな。家族の実際の声を聞くことで、実感をもって考えを深めさせたい。①何人かの保護者に来てもらおう！②親の思いが込められた手紙を、一人一人に届けよう！そして、「自分も家族の一員として」という考えを深めるために、「自己を見つめる」時間をしっかり確保したいな。

外国語活動（英語・小）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

指 導 の 重 点	努 力 事 項
1 外国語活動の目標と趣旨を的確に捉え、児童や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、目標の実現を図るよう系統的な指導計画を作成する。	<ol style="list-style-type: none"> (1) 小・中の連携や小学校同士の連携により、小学校高学年や中学校への円滑な接続を図るとともに、設定する単元の位置付けや単元と単元との関連を踏まえ、系統性のある指導計画を作成する。 (2) 児童や地域の実態に応じて、指導内容や活動等を自校化し、外国語活動の目標と趣旨に沿ってそれらを位置付けるとともに、他の教科等との相互の関連を図る。 (3) 実施上の課題等の把握や指導計画作成は、全職員の共通理解のもと学校全体で取り組むとともに校内研修を充実させる。
2 外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を創造する。	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元や題材等内容や時間のまとまりの中で授業を設計し、単元や授業で育成する資質・能力を明確にして、単元構成・授業構成を工夫する。 (2) 教師自身が英語力の向上に努め、クラスルーム・イングリッシュを計画的に使用し、児童が英語に触れる機会を増やす。 (3) 「目的や場面、状況などを理解する」「見通す」「学び合う」「振り返る」学習活動を重視し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 (4) 学習意欲が高まる「身近で簡単な事柄」について課題を設定する。
3 指導と評価の一体化を図る。	<ol style="list-style-type: none"> (1) 外国語活動の目標と趣旨を踏まえ、児童や地域の実態に応じて単元や授業のねらいを明確にし、指導と評価の計画を作成する。 (2) 単元や授業のねらいに沿って、評価規準とともに児童の状況を適切にとらえる評価の場面、方法等を設定する。 (3) 自己評価や相互評価等を活用し、児童の状況を分析するとともに、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど指導の改善に生かす。

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイント

ポイント1 児童の実態と教材の価値を踏まえた指導計画の作成

- 単元の特徴を把握するとともに、各学年における各単元の意義や位置付け、単元と単元とのつながりを意識した上で、児童の発達段階や興味・関心等の状況、学校の実態等に応じて、単元の目標を設定し、教材やALTの活用等を工夫して計画的、系統的にコミュニケーションを体験させる計画を作成する。
- 言語や文化について体験的に理解を深めたり、日本語と外国語の違いに気付いたりすることを通して外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを深められるよう、計画的に活動を位置づける。

ポイント2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- 「目的や場面、状況など」を明確にするとともに、児童が「聞きたい」「話したい」という意欲が高まるように題材や活動等を工夫する。
- 外国語教育の特性に応じて、児童が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるような工夫を行う。
- 単なる繰り返し活動や、いわゆる「ドリル学習」のような単調な学習に終始したり、語句や文を機械的に暗記させたりして、コミュニケーションへの意欲や興味・関心を減じることのないように留意する。
- 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャー等を取り上げ、その役割を理解させるようにする。

ポイント3 言語活動の位置付け

- 授業のねらいにあわせて、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の活動をバランスよく設定する。
- 児童の発達段階や学習段階を踏まえ、「言語の使用場面」や「言語の働き」を意識した活動を組み立て、実際のコミュニケーション活動を行うとともに、ICTを適宜有効に活用して更なる充実を図る。

ポイント4 評価の工夫・改善

- 外国語活動の目標⇒単元のねらい・内容の設定⇒評価規準の設定⇒活動・評価の場面・評価方法の設定⇒評価等の計画を練り、評価の生かし方等と併せて、目標－指導－評価の一体化を図る。
- 単元や授業のねらいについて、「分析」や「点検」等、評価の意図を明確にし、指導の改善に生かす。自己評価を活用する場合は、授業のめあてに対する自分の学びの振り返りとなるよう工夫する。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【外国語活動 小学校 第3学年 Unit 3 How many? 3/4】

数を使うゲームをし、1から20までの数について尋ねたり、答えたりすることができる。

③ 学習課題・見通し



数の言い方に慣れてきましたか。

簡単だよ。One, two, three.....twenty.

でも、英語でその数が出てこないこともあるなあ。

【学習課題】 20までの数を、英語で言えるかな。



④ 追究・解決

※ 2～3人組で、袋に入ったおはじきを相手に見せないようにつかみ、その数を当てるゲームを行う。



How many *ohajiki*?

Mmm...sixteen?

Really? Let's count.

One, two, three.....sixteen.....

Sorry. Seventeen!

Seventeen! Oh, no!

※次の活動へ



②

ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

※ 本時では言語活動によるまとめとし、持ち物等生活に関連付けた内容を扱う。



How many pencils?

One, two, three..... five!

Eight.

How many notebooks?

How many good children in our classroom?

Nineteen! (19人学級の場合)

Yes! Of course, nineteen!



振り返り



学びがい

1から20までの数を、だんだん言えるようになったぞ。

分からないとき、友達に助けてもらいうれしかったです。友達と一緒にだと楽しく言えました。

ALTの先生にもHow many～?を使って質問してみたいな。

How many～?で質問されたら、数を答えられましたね。生活の中にはまだまだ数があふれています。21以上の数も探して言ってみましょう。



教師の思い・願い



1から10までの数は、順番に言うことができるようになったけれど、11から20はまだ難しいな。おはじきゲーム等をしたり、生活に関連付けたりして、楽しめながら数に慣れさせたいな。また、相手と一緒に数えさせ、コミュニケーションを大切にする素地を育てたいな。

総合的な学習の時間（小・中）

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

指 導 の 重 点	努 力 事 項
1 地域や学校、児童生徒の実態等に応じ、特色ある全体計画や指導計画を作成する。	<ol style="list-style-type: none"> (1) 総合的な学習の時間の目標を設定するにあたっては、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校の教育目標を踏まえて設定する。 (2) 総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を、児童生徒の実態に即して設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力等を明確にする。 (3) 地域の素材や学習環境を生かしながら直接体験（自然体験やボランティア活動など）を取り入れ、地域の人々の協力を得るなど指導体制の工夫を図るとともに、効果的にICTの活用を図る。 (4) 年間指導計画の作成においては、全体計画を踏まえた上で、各教科等との関連、発達の段階や学習経験、校種間の接続等に配慮し、弾力的な年間指導計画を作成する。
2 学校の創意工夫を生かした探究的な学習活動を展開する。	<ol style="list-style-type: none"> (1) 探究のプロセスを重視した学習を繰り返し展開できるように学習過程を工夫する。 (2) 問題の解決や探究活動の過程に、体験活動や言語活動を適切に位置付けるとともに、他者と協働して課題を解決する学習活動を設定する。
3 児童生徒の主体的な学習を支える評価に努める。	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学習して学んだこと、感じたこととともに、自分自身の変容や今後の取組等について、児童生徒が自ら振り返ることができるよう学習評価を工夫する。 (2) 活動や学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、一人一人のよさや学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価する。

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイント

ポイント1 児童生徒の実態と教材の価値を踏まえた指導計画の作成

- 児童生徒や学校、地域の実態等に応じて、**探究的な見方・考え方**を働かせ、教科等の枠を超えた**横断的・総合的な学習**や児童生徒の興味・関心に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図る。
- 年間や単元を見通して、その中で育む**資質・能力の育成**に向けて、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにする。
- 体験的な学習に配慮しつつ探究的な学習となるよう充実を図る。
- **各教科等で身に付けた資質や能力を、実社会や実生活で活用**していくことができるような単元や教材を開発したり、精選したりする。

ポイント2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- **探究のプロセス**「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」を単元や授業の中で**繰り返し設定**していく。特に「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組に配慮する。
 - ① **【課題の設定】** 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
 - ② **【情報の収集】** 必要な情報を取り出したり収集したりする
 - ③ **【整理・分析】** 収集した情報を整理したり分析したりして思考する
 - ④ **【まとめ・表現】** 気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する
- **探究的な学習の過程**においては、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動（**比較する、分類する、関連付けるなどの「考えるための技法」**を活用する学習活動）などが行われるようにする。

ポイント3 評価の工夫・改善

- 各学校の目標や内容に沿った評価の観点や評価規準を設定し**指導と評価の一体化**を図る。
- 評価の観点を基に、単元の目標、資質や能力及び態度を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定し、具体的な評価規準を設定する。
- 評価の信頼性を高めるために、活動過程での評価を多面的・多角的な資料と多様な評価方法を用いて行い、指導改善に役立てる。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【総合的な学習 小学校 第6学年「深めよう地域の絆」15／25】

学習発表会にお年寄りを招待した際に、喜んでもらえるように内容を考えることができる。

③ 学習課題・見通し

※ 高齢者施設訪問を終えて



お年寄りの方がうれしそうに話をしてくれました。

学校の話ニコニコして聞いてくれました。

とてもいい施設の訪問でしたね。みんなの感想には「お年寄りの方を学校に招待したらもっと喜んでくれると思う」という感想もありましたよ。

今度の学習発表会に来てもらうといいんじゃない？

いいね！呼びたい！

〔学習課題〕 学校に招待する時に、どうすればお年寄りの方が安心したり、喜んだりしてくれるかな。

④ 追究・解決



来てくれるおじいちゃんおばあちゃん一人一人に招待状を書いてあげればうれしいんじゃないかな？



座席表とか当日のしおりも必要だね。

歓迎する看板とか飾り付けはどう？

車椅子を使うかもしれないからそのことも考えなくちゃいけないね。

メッセージやプレゼントのサプライズはどう？

車椅子は担当を決めて押してあげたらいいんじゃない？

入場する時には拍手で迎えたいね。

音楽を流すのもいいよね。



どんどん素敵なアイデアが出てきたね。

KJ法を使うと、どんどん考えが整理されてまとまってきたね。

※次時以降、準備が進められるようグループ編成まで行う。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

振り返り

〇〇君の拍手のアイデアに、みんなで作ったトンネルをくぐることを加えて、考えを発表できました。

玄関から体育館までシートを敷くと段差が少なくなって安全に移動できると考えました。



おじいちゃんおばあちゃんを迎え入れるためにやることが決まりました。早く準備を進めたいです。たくさん喜んでもらいたいです。

トンネルをつくるというアイデアは思い付きませんでした。自分たちだけでなく、全校生にも協力を呼びかけて学校全体で盛り上げていきたいです。



全校生に呼びかけるというアイデアが出ましたね。どうやってみんなに説明をして協力してもらうかについても、次回みんなで話をしていきたいと思います。

教師の思い・願い



高齢者施設のお年寄りを「学習発表会」に招待する。「どうすれば喜んでもらえるか」「どんな活動が可能か」等、高齢者への安全面にも配慮して活動内容を決めたい。準備から運営まで、相手の立場に立ち、思いやりをもって、自分たちができることを考え、行動できるような子どもを育てていきたい。

特別活動（小・中）

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の【小】（人間としての【中】）生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

指導の重点	努力事項
1 目指す資質・能力を明確にした指導計画の工夫改善に努める。	(1) 各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図り、 全教職員の協力の下、調和のとれた全体計画と年間指導計画の工夫改善 に努める。
2 資質・能力を育成するための指導内容の重点化を図り、指導方法の工夫改善に努める。 〔各内容〕 ○ 学級活動	(1) 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けるようにする。 (2) 指導内容を 精選・重点化し体験的な活動の充実 を図るとともに、特別活動の特質を生かし、 道徳的な実践の指導の充実 を図る。
○ 児童会・生徒会活動	(1) 学級活動(1)の充実 を図る。 (2) 学級活動(3)は、特別活動が キャリア教育の要 であることの趣旨を踏まえ、見通しを立て、振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うようにする。
○ クラブ活動（小学校）	(1) 異年齢集団による交流のよさを一層重視して、自己肯定感・自己有用感が高まるよう適切な指導に努める。 (2) 児童生徒の リーダーシップの育成 に努める。
○ 学校行事	(1) 異年齢集団の中で自発的、自治的な活動 が活発に展開されるよう指導に努める。 (2) 自校の実態に即した内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなどして精選し、教師の指導を中心とした児童生徒による自主的、実践的な活動が助長されるよう工夫する。 (3) 幼児や高齢者、障がいのある人々との触れ合いや 異年齢集団による交流、自然体験、社会体験、ボランティア活動 などの活動を充実させる。
3 よさや可能性を積極的に認め、資質・能力の評価を工夫する。	(1) 特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、 各学校が評価の観点を定める。 (2) 学級担任以外の教師が指導することも多いことから、評価体制を確立し共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を 多面的・総合的に評価 する。 (3) 児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるような 「キャリア・パスポート」 などを活用して、自己評価や相互評価ができるよう工夫する。

学習指導要領の趣旨を踏まえた活動改善のポイント

ポイント1 指導計画作成（カリキュラム・マネジメントの確立に向けて）

- 各活動・学校行事の目標やねらいが十分に達成できるように、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な時数を充てる。
- 低学年では、学級活動(2)の内容が多くなるが、**学年が上がるにつれて、学級活動(1)の時間を十分確保**できるように配慮する。

ポイント2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- 実態や、自己の現状に即して、自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるよう授業改善を図る。
- 課題を見だし、解決するために**合意形成**を図ったり、**意思決定**したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりするように授業改善を図る。
- 課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉え、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくように授業改善を図る。

ポイント3 評価の工夫・改善

- **活動の結果**だけでなく、**活動の過程**における児童生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童生徒のよさを**多面的・総合的に評価**したりする。
- 観察による教師の評価と併せて、**児童生徒による評価を参考**にすることも考えられる。
- 一定期間に実施した活動や学校行事を評価基準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する。一年間の学校行事を見通して重点化を図ることも考えられる。

ポイント4 各種指導資料等の活用（文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター）

- **みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編**（リーフレット、指導資料）
- **学級・学校文化を創る特別活動中学校編**（リーフレット、指導資料）

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【学級活動（1） 小学校 第3学年 議題「クイズ大会をしよう」】

学級生活をより楽しく豊かなものにするために、友達の立場や思いに寄り添いながら、クイズ大会の内容や計画を考えることができる。

③ 議題の確認

第5回学級会の議題と提案理由の確認をします。

【議題】3年〇組クイズ大会をしよう



司会者

提案理由を提案者の〇〇さんお願いします。

…みんなで考え、いつも一緒にいる友達だけでなく、一人一人の友達のひみつか、すごいところを知って、もっと仲の良いクラスにしたいからです。



④ 話し合い

司：次にクイズ大会をさらに盛り上げる工夫について考えます。意見のある人をお願いします。

A：「クイズ大会なのだから、当たり外れはある。」とBさんが言ったけど、外れても友達のことを知ることができるし、外れた時も楽しめるよ。

C：紅白だけど、勝ち負けはつけずに、感想を話して終わるのはどう？

D：対決ではないから、3チームにして、楽しもうよ。

E：賛成！3チームだと話し合いながらできていい！

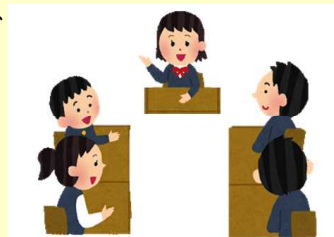
F：外れた問題をつくった人が、みんなの知らない友だちのことを紹介したってことだから、問題を作った人を表彰するのはどう？

司：Cさんどうですか？

C：勝ち負けをつけたいわけではないし、3チームにすると協力ってこともできるから、賛成です。

司：Eさんの考えはどうですか。

みんな：いいアイデア！それだと問題をつくる時から楽しめそう！



決まったこと



決まったことを発表します。話し合うこと①では…。話し合うこと②では、みんなのことをよく知るために、3チームに分かれ協力しながら解きあえるクイズ大会にすることです。

振り返り



学びがい

話し合いのめあてや活動の目標に向かってがんばっていた人はいましたか？

紅白でいいと思ったけど、Dさんの3チームと考えはいいと思った。

クイズを解く人も、作る人も、みんなが楽しくなるように話し合えてよかった。Fさんの問題を作った人を表彰するという意見は思いつかなかった。すごいアイデアだと思った。



いろいろな意見があり決まらないことがありましたが、みんなが活動をよりよくするために話し合うことができたことは素晴らしいですね。友達のことを考えながら話し合いができたのは、提案者、計画委員さんそして一人一人の協力があったからです。

教師の思い・願い



活動意欲を高め、ねらいに向けてぶれずに活動を進めるために、話し合いのよさや友達のよさを子ども自身に気付かせたい。さらに、互いに認め合い高め合う集団の雰囲気醸成するためにも、そのよさががんばる姿を意図的に価値付けていきたい。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

(3) 特別支援教育

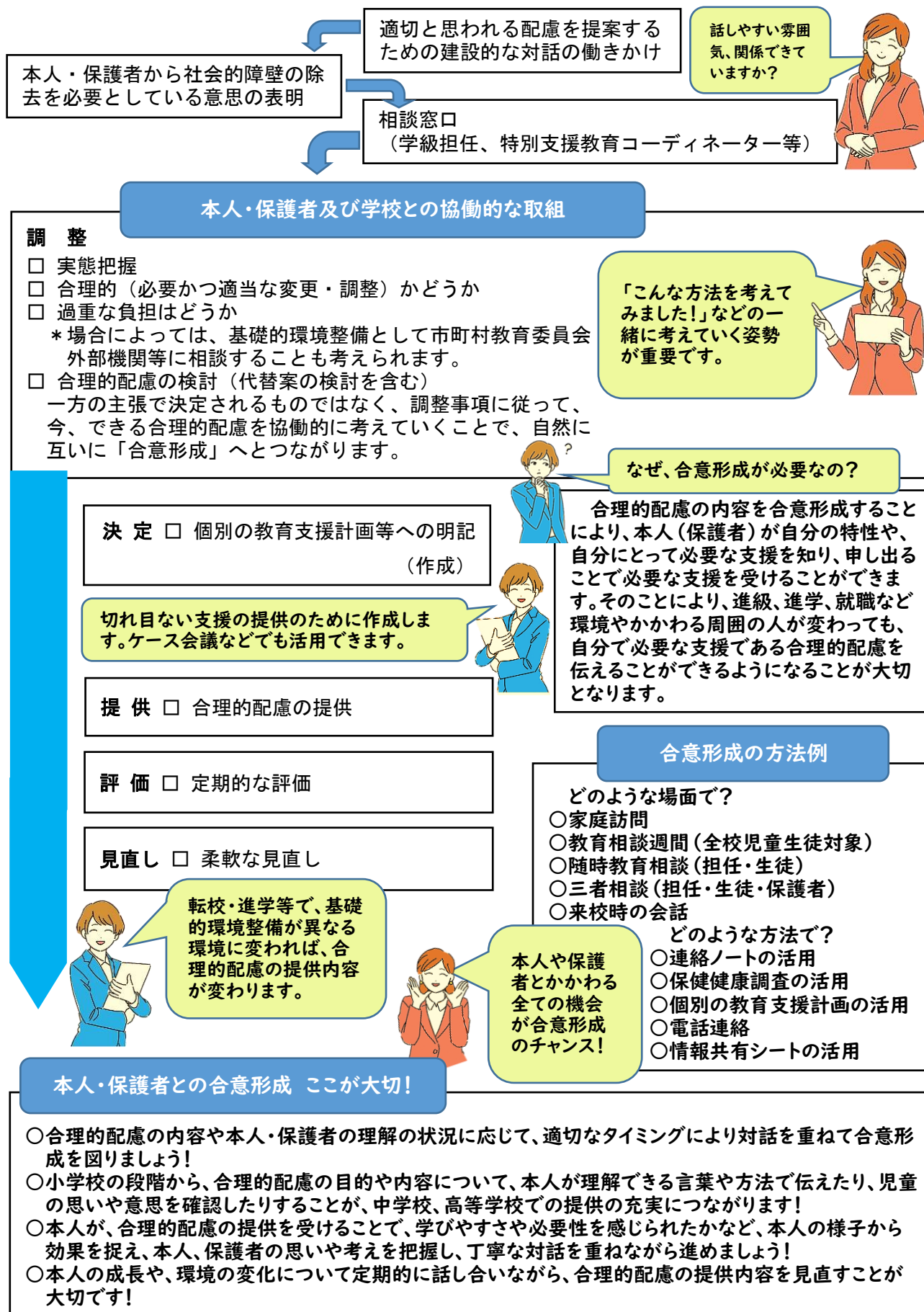
特別支援教育(小・中)

障がいについての基本的な理解のもとに、障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限り共に学ぶことのできる校内体制整備の充実を図る。また、本人・保護者との合意形成のもと合理的配慮を提供し、児童生徒一人一人に対して充実した指導・支援を行う。

指導の重点	努 力 事 項
《学校全体》	
1 校内の支援体制を整備し、全教職員で指導・支援を行う。	(1) 安心な学校づくりと分かる授業づくり等の予防的な支援や特別な支援が必要な児童生徒の早期発見に努める。 (2) 校長のリーダーシップの下、児童生徒の実態を学習面や生活面など多面的に把握し、全教職員の共通理解を図り、適切な指導・支援に当たる。 (3) 校内研修の実施や外部の研修会へ積極的に参加し、全教職員の特別支援教育に関する基本的な知識・技能の向上を図る。 (4) 特別支援教育コーディネーターが中心となり、校内委員会やケース会議を開催し、支援の必要な児童生徒の実態把握、支援内容・方法等の検討、(実践、)評価、改善を行う。 必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援学校の地域支援センターや地域支援アドバイザーの活用を図る。 (5) 障がいのある子どもと障がいのない子どもの交流及び共同学習(特別支援学級と通常学級、特別支援学校と小・中学校、居住地校交流)を学校全体で計画的かつ継続的に取り組み、全教職員が交流及び共同学習の目的や内容等を共有する。 (6) 学校だよりや保護者会等を活用し、継続して家庭や地域に特別支援教育の理解啓発を図る。
2 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援を行う。	(1) 児童生徒の教育的ニーズを3つの観点(①障がいの状態等、②特別な指導内容、③教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容を踏まえて整理し、自立と社会参加を見据え、その時点で最も必要な教育を提供する。 (2) 家庭との共通理解を図るとともに、医療、福祉、保健の関係機関と連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行う。 (3) 一貫した指導・支援を行うために、本人・保護者との合意形成により合理的配慮を提供するとともに、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、活用を図る。 (4) 交流及び共同学習においては、児童生徒の教育的ニーズを十分に把握し、豊かな人間性を育むとともに、教科等の目標が達成できるように努める。 (5) 学びの場の連続性を重視した対応として、知的障がいのある子どものための各教科等の目標や内容を、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理し、就学前機関や学校間とのつながりに留意する。 (6) 長期入院児童生徒や病気療養児の学習の機会を保障するとともに、在籍校は保護者や医療機関等の関係機関と連携を図る。

《通常の学級》	
1 児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、学校、家庭、地域及び医療等関係機関との連携を図る。	(1) 特別支援教育コーディネーターや管理職等の校内資源を十分に活用しながら、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握する。また、支援や配慮の必要な児童生徒については、個別の教育支援計画の作成・活用に努める。 (2) 入学時や進級・進学時には関係機関と連携し、ケース会議等において個別の教育支援計画を活用しながら適切な引継ぎを行う。
2 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を工夫する。	(1) 前述の小・中学校の教育内容を十分に踏まえるとともに、個別の教育支援計画に明記した合理的配慮を提供しながら、支援を必要とする児童生徒一人一人へ具体的で分かりやすい指導方法を工夫する。 (2) 個別の教育支援計画や各教科等の年間指導計画を基に、個別の指導計画を作成・活用し、日々の指導・支援に当たる。 (3) 落ち着いた教室環境の整備や児童生徒がお互いの存在を認め合える学級経営について、学校全体で検討し実践する。

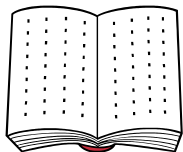
各学校における合理的配慮の提供プロセス(例)



《特別支援学級・通級による指導》

- | | |
|--|---|
| <p>1 児童生徒一人一人の障がいの状態に応じて、適切な教育課程を編成する。</p> | <p>(1) 学校教育法施行規則第138条」の規定に基づき、特に必要がある場合は、児童生徒の障がいの程度や学級の実態等を考慮の上、自立活動を取り入れた特別の教育課程を適切に編成し、児童生徒一人一人の力を最大限に伸長できるように努める。</p> |
| <p>2 児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、目標を立て、課題を明確にして年間指導計画を作成・活用する。</p> | <p>(1) 年間指導計画は、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じ、「小・中学校学習指導要領」の趣旨を踏まえながら、「特別支援学校学習指導要領」及び「同解説」等を参考に適切に作成する。</p> <p>(2) 年間指導計画の作成に当たっては、児童生徒一人一人の障がいの状態、各教科等の既習事項や習得状況等について十分に実態把握をし、各教科等の教育の内容を選択し、授業時数の配当及び指導内容の組織をして作成する。</p> <p>(3) 個別の指導計画のもと、自立活動の時間における指導はもとより、学校の教育活動全体を通して、児童生徒が障がいによる学習上又は生活上の困難さを主体的に改善・克服することができるよう自立活動の充実に努める。</p> |
| <p>3 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、社会的・職業的自立に向けた教育活動を展開し、授業の充実に努める。</p> | <p>(1) 特別支援教育コーディネーターや管理職、学年主任、交流学級担当教員等の複数の教職員により、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成・活用する。</p> <p>(2) 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立を見据え、長期・短期の指導のねらいや方針を明確にして、必要な資質が養われるようにキャリア教育の充実に努める。</p> <p>(3) ① 特別支援学級では、通常の学級との積極的な交流及び共同学習を推進し、集団活動の場を計画的、継続的に確保する。実施に当たっては、交流及び共同学習におけるねらいを明確にして、個別の教育支援計画に明記された合理的配慮を提供するとともに学びの充実に努める。</p> <p>② 通級による指導では、個別の教育支援計画、個別の指導計画等を活用して、児童生徒の在籍学校・学級の教職員と連携し、積極的に情報を共有する。通級による指導での学習内容と関連を図ることにより、在籍学級における指導の効果を一層高めるようにする。</p> <p>(4) 特別支援学校の地域支援センターや地域支援アドバイザーを積極的に活用し、特別支援学級や通級による指導における個に応じた指導・支援の充実に努める。</p> |
| <p>4 指導と評価の一体化を図る。</p> | <p>(1) 児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導内容や児童生徒の特性に応じて、単元や題材等の内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。</p> <p>(2) 各教科等の指導に当たっては、個別の指導計画に基づいて行われた学習状況を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるように努める。</p> |

自立活動の指導のための個別の指導計画



- 自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。(特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より)



自立活動は「個々の幼児児童生徒の実態に応じて」目標を立て、指導していくものです。

自立活動の指導にあたっては、「個別の指導計画」を作成することが重要になります。

「個別の指導計画」の作成にあたって、まずは、実態把握が大切になります。この実態把握に基づいて指導目標を設定し、具体的な指導方法を考えていきます。



○実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ

例：集団の中における感情や行動を自分でコントロールする力を高めるための指導

1 個々の実態を的確に把握する

実
態
把
握

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

- ・学級のルール等について、内容は理解しているものの実際の場面になると、自分がしたいことを優先してしまう場合が多い。
- ・教科学習の理解はよく、習得も速いが、出し抜けに答えたり、友達に伝えたりしてしまう。また、テストでは解答欄を間違えるなどのうっかりミスが多い。
- ・昆虫など小動物が好きで、校庭で見つけると捕まえてくるが、突然、友達の目の前に突き付けて驚かせる。
- ・遊びやゲームなどを面白くする工夫やルールを提案することが得意だが、唐突にルールを変えようとする傾向がある。

まずは、子どもの実態について思いつくことを記入していきます。

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・前向きで活動的であるが、最近少しできない自分を責めるような発言が見られる。	・他者のために役立ちたい、他者と関わりたいという気持ちは強い。	・聞くより見る方が理解しやすい。	・人や物にぶつかる、道具を使用することが苦手など、意識的に身体操作をすることに困難がある。	・相手の立場を意識することが難しく、自分の興味・関心を優先してしまふ。

得た情報を自立活動の内容の6つの区分で整理します。整理に悩む場合はコーディネートハンドブックP.198を参考にしてください。

収集した情報を○○年後の姿の観点から整理

- ・保護者は、衝動的な言動により、高い理解力を生かし切ることができないことや、また、友達との距離が離れてしまうことを心配している。(心、人)
- ・叱責や失敗体験が成功体験を上回ると、学習や生活に対する意欲や自信が低下することが考えられる。(心、人)
- ・本人の特性に応じた配慮が続けられれば、中学校に行っても本来持っている力を発揮することができるだろう。(人、環)

期間を区切り、例えば、卒業までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定しながら整理します。

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

- ・落ち着いた状況であれば、相手の表情や口調等から適切な判断ができることが多く、取組を認められると熱心に取り組むことから、衝動的な言動をコントロールできたときにすぐに褒めることにより、徐々に自分の言動をコントロールできるようになることが期待できる。
- ・視覚的な情報からルールを守ることの大切さを知るとともに、ルールを守ったり衝動的な言動を減らしたりすることで楽しい活動ができる経験を多く積み、自分の身体をコントロールすることで気持ちを安定させる方法を学ぶなどして、衝動的な言動を自分でコントロールする力を高める。

課題同士の関連を考慮することで、課題となる行動背景、原因が予測できます。それが障がいによる困難さであり、改善・克服できる課題であれば、指導すべき課題となります。

3 今、指導すべき目標として

・通級による指導の場において、成功体験を実感することのできる学習環境の中で、衝動的な言動をコントロールしながら、望ましいコミュニケーションや円滑な集団参加ができる。

指導すべき課題から、本人の実態及び自立活動の指導場面によって、今、指導すべき目標を決定していきます。

4 指導目標を達成させるための必要な項目選定（6区分27項目）

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

自立活動の内容の6区分27項目のどの項目が関連しているかチェックしていきます。チェックがつかない項目もあります。

指導内容	場面指導	評価
・小集団において、ルールを守ることや負けた時の対応方法などを身に付けるため、簡単なルールのあるゲーム等に取り組む。	教育活動全体 時間における指導	
・学校の中で起こる様々な場面をビデオや絵で見て、その場面を、登場人物の気持ちを考えながら演じたり、ビデオ撮影等で自分の言動を客観的に見たりしながら、適切な行動を、その理由と共に話し合う中で理解する。	教育活動全体 時間における指導	
・気持ちを安定させるために、身体を自分で適切にコントロールできるようになる。	教育活動全体	

指導内容との関連を図り、線でつなぎます。

指導内容が、一つ、二つの場合もあります。記入欄が不足する場合は追加してください。

授業時間を設定して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても自立活動と密接な関連を図る必要があります。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より一部抜粋

特別支援教育センター発行コーディネートハンドブック〔2020年版〕より一部抜粋



「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」では、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例や事例が示してあります。



さらに、特別支援教育センター発行コーディネートハンドブック〔2020年版〕に記入例等が詳しく掲載されています。特別支援教育センターホームページからもダウンロードできます。



各種教育の指導の重点

令和3年度幼稚園等新規採用教員研修
～「一年間の研修を終えて」より～

指導の中で一貫して言われていたことは、「毎日自分を褒めること」であった。私自身、自己肯定感が高くなく、今までそのようなことはしたことがなかったため、初めは「どうして自分自身を褒めていくのだろうか」と感じていた。しかし、研修を積み重ねていくにつれ、どうして自分自身を褒めていくのかを、自分なりに理解していくことができた。自分のいい所を見付けていくと自然と園児たちのよい所に目が向くようになり、園児たちも保育教諭に褒めてもらったことで、自分のことを受け止めてもらえていると感じることができているのではないか。また、園児たちだけでなく自分の保育に対しても、「できなかった。」から「できなかった。そこから何を学べるか。」と、ネガティブな捉え方からポジティブな捉え方で考えることができた。…（続く）



戦略3 各種教育の指導の重点

生徒指導

※は参考文献等

〔県北域内の実態〕

- 子どもたちの問題行動の要因や背景は複雑化・多様化している。
- 子どもたち一人一人の個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力・態度を育成し、自己実現できるような指導援助に努め、個々の児童生徒の自己指導能力を育成する必要がある。



〔令和4年度の指導の重点〕

多様性やよさを生かした支援

～信頼し希望を与え、そして粘り強い心へと～



1 学級経営がすべての基盤

教師の励まし、称賛ですべての子どもたちに幸せを！

生徒指導の機能（自己存在感、共感的人間関係、自己決定）を常に意識した学級づくりをしましょう。そのためには、先生がまず、子どものよいところを意識して見つけ、伝えていくことが大切です。「よいところノート」を自作し、実践している先生もいます。

また、特別活動の充実も有効です。集団で問題を解決していく力が育まれたり、学び合う学級の雰囲気がつくられたりします。このことが自己肯定感と自己有用感を高め、生徒指導上の問題行動を未然に防止します。統合された学校で、学級活動（1）を積み重ねていく中で、たくさんの笑顔が見られるようになったという話も伺いました。



2 自校の実態に応じた指導計画の作成と機能的な指導体制の確立

- 自校の課題を踏まえて、目指す子ども像、指導理念、共通実践事項などを明確にし、自己肯定感を高めることや社会性の育成等のための具体的な指導計画に改善する。
- 明確な役割分担により一貫した指導ができる指導体制を確立したり、個別に支援計画を作成したりするなどして、日常的に機能するように改善する。

【支援計画例】

※「ふくしまサポードガイド～ふくしまのすべての子どものために～」
アセスメントシート P26～P27参照



3 教育活動全体を通じた積極的な生徒指導の推進

- 教育活動全体の中に、自己決定の場や自己存在感を味わうことができる場を設定するなど、生徒指導の機能を積極的に発揮できるようにし、主体的な生活態度の育成に努める。
- 子ども一人一人の思いや心情を捉えて個に応じた指導に努め、人間的な触れ合いのある温かい学級の雰囲気を醸成する。
- 地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流、集団宿泊活動や職場体験活動、奉仕体験活動、自然体験活動、文化芸術体験活動などの豊かな体験活動を通して、規範意識や思いやりなどを育成するとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力の育成に努める。
- 生徒指導委員会、教育相談部会等の校内組織を生かし、教員間の連携の強化、全教職員の共通理解、同一歩調の指導に努める。

4 問題行動等の未然防止と早期発見

- アンケート等のみに頼ることなく、日常の観察や対話による実態把握に努めるとともに、問題行動の未然防止や児童虐待等の早期発見、早期対応、早期解決に努める。また、問題行動が起きた場合の初期対応や重大事態が生じた場合の緊急体制を確立し、組織で対応する。
- 学校いじめ防止基本方針のもとに、いじめ対策のための組織を機能させ、「いじめはどの子どもにも、どの学校でも起こりうるもの」との視点で、未然防止、早期発見、早期対応に努める。また、法律に定められたいじめの定義に従って、子どもの立場に立った積極的な「いじめの認知」「いじめ見逃し0」に努める。

- 「新たな不登校を出さない」との認識のもと、過去の子どもの欠席や遅刻・早退の状況の把握に努め、以前に不登校傾向を示した子どもが連続して欠席した場合は「不登校」と捉え、初期対応の体制を整える。また、不登校の状態にある子どもへの支援について、短期的・長期的な視点をもってチームで対応する。

- スマートフォン等の取扱いについて、学校における指導方針を明確にするとともに、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪、違法・有害情報の問題を踏まえ、発達段階に応じた情報モラルの指導の充実を図るとともに保護者への啓発に努める。
- 家庭や地域、近隣校、関係機関との連携を図り、地域ぐるみの補導活動などを通して、問題行動の未然防止、早期解決に努める。



※「ふくしまサポートガイド～ふくしまのすべての子どものために～」P 6～P 7・P 9 参照

4 早期発見・早期対応・未然防止

学習の遅れ、生活上の課題、不登校等の課題を抱えた児童生徒への的確な援助をするためには、児童生徒が抱えている課題等を早期発見すること、そして早期対応を図ることが重要です。他にも日頃から未然防止の視点を持ち、児童生徒の変容を見逃さないことも重要となります。

早期発見 日常の児童生徒観察等から

普段と色気が違うような… 授業に集中していないような… 元気がない

目が腫れている。泣いてきたのかな いつもより異常に明るい感じだな “ちょっとした違和感”を見逃さないことが重要です。

「『SOSの出し方に関する教育』を推進しましょう」リーフレット内の「2 日常の児童生徒観察で自殺予防」に掲載のあるチェックリスト等を活用する事も効果的です。

早期対応 個に応じた援助方針の実践

教職員間で情報を共有し、個に応じた援助方針を検討します。学校でできること、家庭に協力を求めること等、「何を、いつまでに、誰が」を明確にした支援計画を策定します。アセスメントシートを活用してみましょう。

未然防止 安心して学べる環境の整備

児童生徒のニーズに応じた特別な教室等を整備することも考えられます。

早期発見・早期対応・未然防止のPoint

- ◆ 「いつもと少し違うような気がする」という“違和感”のようなものを感じた際には、一人で抱えず組織的対応を心がけましょう。
- ◆ 原因追究よりも、取り組める部分から積極的に児童生徒に関わるのが重要です。

5 早期発見・早期対応～援助の進め方～

児童生徒が抱える課題等を全て把握する、ということよりも、まずは捉えた課題等への早期対応が重要です。以下に示す対応のプロセスを参考に、個々に応じた援助を行いましょう。

普段の生活

日常の児童生徒観察

- 学級担任等が気になる児童生徒の状況を記録する。
- 記録した情報は必要に応じて共有できるよう、保管・累積する。

児童生徒の状況確認

欠席当日

- 保護者からの欠席連絡があり、明確な理由が述べられていたとしても、夕方には家庭へ電話連絡をし、可能であれば本人と話し、状況を確認する。

児童生徒の状況再確認

欠席2日目

- 本人の様子を再確認するため、保護者からの欠席連絡を受ける際には可能な限り学級担任や学年主任につなぐ。
- 管理職と状況を共有し、必要に応じて家庭訪問をする。

家庭訪問 アセスメントシートの作成に着手

欠席3日目

- 連続欠席が3日となった際には、管理職に報告し、家庭訪問を実施する。
- アセスメントシートの作成を開始する。

その後

連続欠席7日目以降、援助チーム会議

- 児童生徒本人の希望や保護者の考え等を踏まえ、SCやSSWも含めた援助チームを構成し、組織的な援助ができるよう、方針を決定する。

家庭訪問のPoint

- ◆ 滞在時間よりも訪問回数を重ねる方が効果的な場合もある。
- ◆ 結果を出そうとせず、児童生徒本人の事を知るプロセスを大事にする。
- ◆ 児童生徒本人には、「クラスのみんなが待っているよ」という言葉よりも、教師自身がどのように思っているのか、「私はあなたがどうしているか知りたい」と思っているよ」等を伝える。
- ◆ 「時間」は子どもにとって重要。短く切り上げることも大切。

5 教育相談の充実

- 子どもとの日常的な触れ合いを通して、信頼関係を築き、個々の教員がカウンセリングマインドをもって相談に応じる。
- 教育相談コーディネーター等が中心になって、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を活用し、教員間の連携を深め、学校が一体となって個に応じた支援を行うことができるよう、チームでの対応力を高める。
- 子ども心のケアに留意し、教育相談の知識や技能を高めるために、関係機関やスクールカウンセラー等との連携を図りながら、研修の充実に努める。
- 「スクールカウンセラースーパーバイズ」の積極的な活用を努める。



このような時に、スーパーバイザーを派遣します！

- ・ 対応が困難なケース等についての、スクールカウンセラーや学校に対する助言及び指導
- ・ 校内研修会等における教職員に対する助言
- ・ 教育講演会や学校保健委員会等での講話及び助言

スペシャルサポートルームについて(特別な教室等)

※ 設置の目的は子どもたちの居場所づくり、自己実現及び子どもたちが抱える課題や多様なニーズへの援助のためです。

県北域内においてスペシャルサポートルーム(特別な教室等)のよさを取り入れ、子どもの社会的自立に向けた実践を行っている学校が増えてきました。自分で時間割を作り、学習するという自己決定を促すよい機会にしています。

家庭・学校・教室をつなぐ“特別な教室”のイメージ



“特別な教室”運営のPoint

- ◆ 全校児童生徒及び保護者に対し、“特別な教室”が設置されていることを周知する。(全校集会や学校便り等)
- ◆ 児童生徒用の玄関と特別な教室の玄関を可能な限り分ける。(例：保健室等からの入室も認める)
- ◆ “特別な教室”の環境は、児童生徒が落ち着いて生活できるようなレイアウトになるよう、工夫をする。(合理的配慮の検討) **③、④ページへ**
- ◆ 登校した児童生徒に、プリント学習をさせるだけといった対応はしない。
- ◆ 登校することに慣れてきたら、過ごし方や時間割を自己選択させる。
- ◆ 学級担任は必ず1日1度は顔を出し、児童生徒との信頼関係を構築する。
- ◆ “特別な教室”は複数の教員で担当する等の工夫が考えられる。
- ◆ 教室内は児童生徒のみで過ごす時間をつくらない。
- ◆ SCと連携したカウンセリングを意図的に計画する。

福島県教育庁事業「安心して学べる環境づくり事業」 スペシャルサポートルームより

キャリア教育

1 子ども、学校、家庭及び地域の実態把握と指導計画の作成・改善

- 各学校や子どもの実態に応じて、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の具体化、重点化等を行い、自校の目指す子どもの姿（目標）を明確にする。

* キャリア教育における基礎的・汎用的能力

- ・ 人間関係形成・社会形成能力
- ・ 自己理解・自己管理能力
- ・ 課題対応能力
- ・ キャリアプランニング能力

- 特別活動の学級活動をキャリア教育の要としながら、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科、各教科における学習など、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図る。
- キャリア教育全体計画の作成にあたっては、学校における全ての教育活動をキャリア教育の視点でつなぎ、教育課程に位置付ける。
- 「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、目標やビジョンを地域住民等と共有し、連携・協力していく。
- 家庭・保護者の役割やその影響の大きさを考慮し、家庭・保護者との共通理解を図りながら望ましい勤労観や職業観を育てる。

2 キャリア教育の推進組織・体制づくりと指導の充実

- 校内におけるキャリア教育担当者の役割を明確にするとともに、校内各委員会（校務分掌）相互の連携を強化し、学校全体でキャリア教育を推進する体制を整える。
- 学習指導要領において、小学校の学級活動の内容「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」では、子どもに共通した問題を取り上げ、意図的、計画的に指導し、話し合い等を通して一人一人の考えを深め、実践につなげることを重視する。

学級活動でいずれの学年においても扱うもの	
小 学 校	中 学 校
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	ウ 主体的な進路の選択と将来設計

- キャリア教育の要となる特別活動や各教科の特色に応じ、将来の生活や社会と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。
- 「キャリア・パスポート」（子どもが活動を記録し、累積する教材等）を作成及び活用することによって、子どもの発達段階を踏まえた系統的なキャリア教育を推進する。
- 学校と地域、産業界等との連携を深め、小学校からの起業体験や、中学校の職場体験活動を促進するなど、発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進する。

3 学校、家庭、地域社会や関係機関等との連携の強化

- 「将来の夢」などについての家庭での会話や、家事の手伝いなどを通して、将来の夢や希望を育むとともに、集団生活に参加しようとする意欲・態度を養う。（小）
- 家庭での役割の理解と遂行、保護者や身近な大人の職業についての理解を通して、社会の一員としての自覚を高め、将来の生き方や進路への希望を育む。（中）
- 地域の行事への参加や職場見学などを通して、自分と地域とのつながりについて体験的に理解させる。
- 地域社会における職場見学、職場体験や地域の行事への参加などを通して、地域の一員としての自覚をもたせ、将来の生き方、進路を考える契機となるよう工夫する。

図書館教育

※は参考文献等

1 学校図書館の活用を図った指導計画の作成・改善

- 各教科等の学習、読書活動、その他の教育活動と学校図書館との関連を踏まえ、教育活動の効果を高める指導計画を作成・改善する。
- 各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、子どもが主体的に学習活動や読書活動に取り組むことができるようにする。
- 図書の読み聞かせや子どもによる図書紹介をしたり、必読書や推薦図書を定めたりするなど、子ども及び学校の実態に応じた読書活動充実のための取組を推進する。



2 学校図書館の機能や役割を生かすための整備充実

- 子どもの学習活動や情報収集に役立つ図書館資料、新たなニーズに応えられる図書館資料の整備充実及び適切な廃棄・更新を進めるとともに、環境整備に努める。
- 読書センターや学習センター、情報センターとしての機能を備えた学校図書館の整備を進め、より一層の利活用が図られるようにする。司書教諭と学校司書の連携、公共図書館、地域ボランティアなどの関係機関や各種団体との連携を図る。

子どもの発達段階に応じた読書活動の主な取組

発達段階の特性		乳幼児期	小学校期	中学校期	高校期
読書推進の役割		・ 周りからの言葉かけや会話により言葉を獲得する。 ・ 読み聞かせなどにより絵本や物語に興味を持つ。	・ 一人で本を読むようになる。 ・ はやく読めるようになり、多くの本を読むようになる。 ・ 読書の幅が広がる。	・ 多読の傾向が減少する。 ・ 共感したり感動できたりする本を選んで読む。 ・ 読書を将来に役立てようとする。	・ 目的や資料の種類に応じて適切に読むことができるようになる。 ・ 知的興味に応じ、一層幅広く多様な読書ができるようになる。
読書推進の役割		楽しむ読書	調べる読書	考える読書	
保育所 幼稚園 認定こども園等	・ 遊びや読み聞かせなどを通して本に親しむ機会を提供し、子どもの本に親しむ習慣を形成する。	読み聞かせ 図書館環境の整備 保護者への啓発・家読			
小学校 中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校	・ 一斉読書や読み聞かせなどの取組と多様な読書経験などを通じ読書習慣を形成する。 ・ 公立図書館、ボランティア等との連携を図り、読書に親しむ機会を提供する。		読み聞かせ・一斉読書 友人同士の関わりを通じた読書への動機付け ブックトークなど ビブリオバトルなど	子ども司書など 読書コンシェルジュなど 図書館環境の整備 保護者への啓発・家読	
学校図書館	・ 必要な資料を収集・整理し、児童生徒及び教員の利用に供する。 ・ 児童生徒の自主的・自発的な読書活動を促す。		図書館環境の整備 読書相談・レファレンス 児童・生徒への啓発 授業サポート 公立図書館等との連携		
家庭	・ 子どもへの読み聞かせや本に親しむ環境を整え、読書習慣を形成する。	読み聞かせ 家読 図書館等の利用 読書関連事業への参加 ブックスタート どくしょスタート			

※「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年3月 福島県教育委員会）

<令和6年度までに到達したい数値目標>

本を1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合

小学校 → **100%** 中学校 → **100%**

県北地区ほとんどの小中学校では、全校一斉読書に取り組んでいます。1か月に1冊も読まない子どもの割合も（不読率）は年々減少しています。そして、平均読書冊数も伸びてきています。



本を読まない子がいない
県北を目指します！！
（R4年度読書に関する調査）

1 情報化に対応した教育の推進と指導体制の充実

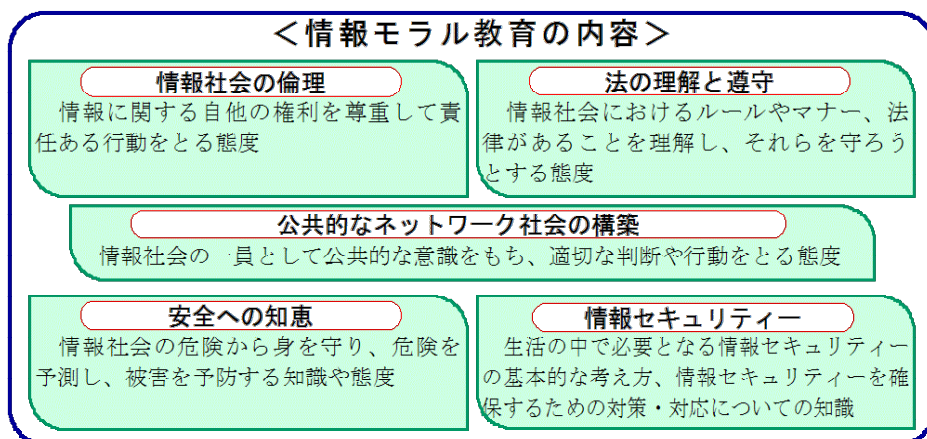
- 学校教育全体において情報教育を推進するために、教育の情報化を推進する組織を位置付け、計画的に研修を行うなど校内の指導体制の確立を図る。
- 情報活用能力を構成する資質・能力を育成するため、各学校において日常的に情報技術を活用できる環境を整え、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じ、情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図る。
- ICT機器等の基本的な操作の習得やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力を育むため、教科等横断的な教育課程を編成する。

2 主体的な学習活動を支援するコンピュータ等の活用

- 様々なメディアを活用した情報収集・発信のルールやマナーを身に付けさせるとともに、発信する情報や情報社会での行動に責任をもたせ、子どもが主体的に情報を選択・活用する能力の育成を図る。
- 各教科等においては、1人1台端末等のICT機器を適切な場面で活用するとともに、学習意欲や学習効果の向上を図る。

3 情報モラル教育の充実

- 情報モラルの指導においては、「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」「安全への知恵」「情報セキュリティー」「公共的なネットワーク社会の構築」を道徳科や総合的な学習の時間を中心として教科等横断的に指導するとともに、家庭との連携を図る。また、流行のアプリなど、最新の情報を把握しながら、様々なトラブルが自分にも起こり得ることを自覚できるよう工夫する。



※「情報モラル教育実践ガイド」(平成23年3月 国立教育政策研究所)

※「福島県SNSいじめ等研修会報告書」(平成27年6月 福島県教育庁義務教育課HP)

※「情報モラル実践事例集」(平成27年6月 文部科学省生涯学習政策局情報教育課)

※「情報モラル教育の充実 児童生徒向け啓発資料等」

情報モラルに関する指導の充実に資する〈児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き〉・〈保護者向けの動画教材・スライド資料〉等
(文部科学省 初等中等教育局情報教育・外国語教育課)

※「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」

(令和2年3月 文部科学省 初等中等教育局情報教育・外国語教育課)



1 体験活動を中心とした問題解決的な学習を位置付けた指導計画の作成

- 各教科等の目標やねらいを踏まえ、環境教育との関連を明確にしながら横断的な指導計画を作成する。
- 環境教育を通して「身に付けさせたい能力や態度」及び「環境をとらえる視点」を具体的に位置付ける。また、ESDやSDGsの視点との関連を明確にする。
- 地域の環境の特色を生かしたり、環境に関わる学習対象の重点化を図ったりすることで、発達や学年の段階を考慮した体験活動を中心に、問題解決的な学習を効果的に設定する。
- 家庭や地域と積極的に連携し、学校で学んだことを家庭や地域での生活に生かす場面を設定する。

2 子どもが主体的に考え判断し、行動できる資質・能力を高める指導方法の工夫・改善

- 問題の解決に向けて学習したり、行動したりできるようにするという視点で、指導方法を工夫改善する。
- 自分の言葉で聞き手に分かりやすく伝える力の育成を図るなど、言語活動の充実に努めたり、インターネットやメディア等の映像や記事などの資料を収集・活用したりする。
- 環境問題、環境保全に対する問題意識や認識をもたせるため、地球温暖化防止活動（福島議定書、エコチャレンジ等）や環境教育関連の各種コンクール等への参加の促進など、実践的な活動を推進する。
- 地域で活躍する人材やNPO法人等の専門家を、ゲスト・ティーチャーとして活用するなど、外部との連携を図り、学んだことが家庭や地域社会の中で積極的に活用されたり、学びが実感を伴ったものに深化したりするよう展開する。



※ 「先駆けの地における再生可能エネルギー教育推進事業推進校指導事例」（福島県教育庁高校教育課HP）



※ 環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】
（平成26年10月 国立教育政策研究所）



※ 環境教育指導資料【中学校編】
（平成28年12月 国立教育政策研究所）

1 子どもの実態、学校の特色及び地域の特性を生かした指導計画の作成

- 各教科等の指導において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るとともに、個々の子どもの興味・関心、学習実態を生かした自主的・自発的な学習に配慮した指導計画にする。
- 地域素材の教材化や地域人材の活用、他学年や他校との交流学习など体験的な学習を工夫し、家庭や地域社会と連携しつつ、少人数のよさを生かした弾力的な指導ができる指導計画にする。

2 子ども一人一人の特性を生かした授業の充実

- 情報機器を適切に活用することにより、集団思考の場や子ども主体の話し合い活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習活動を展開する。
- 少人数の特性を生かした体験的な学習や問題解決的な学習により、学ぶ楽しさや成就感などを体得させる中で、主体的に問題を解決していく力を育てるための学習過程を工夫する。
- 複式学級の学習指導においては、間接指導を個性や能力に応じて主体的に学習できる場として捉え、個に応じた補充・発展学習や課題別学習等を取り入れ、充実を図る。

※子ども一人一人が輝く 複式指導
(福島県教育センター)

～はじめての複式学級編～
(5分)



～授業づくりの基本編～
(7分)



～授業づくりワンランクアップ編～
(6分)



3 子どもの自己実現を図る評価の工夫

- 子ども一人一人の学習状況を的確に評価し、補充的な学習や発展的な学習、個別指導など個に応じたきめ細かな指導に生かすようにする。
- 観点別学習状況の評価等により、指導と評価の一体化を図る中で多様な活動を評価の対象とし、多面的・多角的な評価を行う。

国際理解教育

※は参考文献等

1 学校や地域の実態等に応じた指導計画の改善

- 学校や地域の実態に応じて、国際理解教育のねらいを踏まえ、学校や地域の実態等に応じて、各教科等との関連を図った全体計画、年間指導計画を作成する。
- JICA、国際交流協会などの関係機関及び人材を有効に活用する。
- 特別の教科 道徳や総合的な学習の時間で実施する場合は、学習指導要領に示す内容や目標を踏まえて指導計画を作成する。

※小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）

第4章 第1節「指導計画作成上の配慮事項」①

同 第2節「内容の取扱についての配慮事項」（8）

※小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳間編（平成29年7月）

第4章 第3節「指導の配慮事項」7

2 我が国の伝統と文化を踏まえ、異なる文化や価値観を理解し、尊重する態度の育成

- 教育活動全体を通して、我が国や郷土の伝統と文化を理解し、尊重する態度の育成に努める。
- 世界と我が国とのかかわりに対する関心を深め、異なる文化や価値観をもつ人々を理解し、尊重する態度の育成に努める。
- 世界の中の日本人であることの自覚を高め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性の育成に努める。
- 各教科等の授業において、相手の立場を尊重しながら自分の思いや考えを伝え合う活動を設定する。
- 帰国した子どもや外国人の子ども、外国につながる子どもについては、社会情勢を十分に考慮するとともに、外国における生活経験を生かすなど指導の充実を図る。

3 交流の場や機会の拡充による相互理解の深化

- 外国語指導助手や地域の外国につながる人々等との交流活動を通して、相互理解を深めようとする意欲と態度を育てる。会話演習等のみを目的とするのではなく、国際理解教育のねらいを踏まえて活動内容を工夫する。
- 自分の考えをしっかりと持ち、対話力を高めるための表現活動や場面を意図的に設けるとともに、インターネット、電子メールや文通等を通して海外の学校等の情報を得たり、発信したりすることにより、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。

健康教育

※は参考文献等

1 健康を保持増進するための実践力の育成【保健】

- 本県独自の「自分手帳」を活用し、生涯を通じて心身の健康を保持増進していくことができるよう、健康マネジメント力を育むとともに、教科等横断的に指導する。
- 「性に関する指導」については、県版「性に関する指導の手引」を活用し、子どもの発達の段階や実態に応じて、情報を正しく選択して適切に行動できるよう組織的、計画的に指導する。
- 「薬物乱用防止教室」については、関係機関の専門家や学校薬剤師との連携を図り、中学校においては学校保健計画に年1回以上開催するよう位置付ける。小学校においても、地域の実情に応じて開催に努める。
- 「がん教育」については、がんについて正しく理解し、自他の健康と命の大切さ等について主体的に考えることができるよう、健康教育の一環として学校教育活動全体で行うとともに、外部講師を効果的に活用した指導を工夫する。



※ 性に関する指導の手引（平成24年9月 福島県教育委員会）

2 健康相談・個別指導の充実【保健】

- 県の健康課題（「肥満」「う歯」「こころ・性」）及び自校や地域の健康課題については、家庭、関係機関及び学校医等の専門家、地域との連携を図り、学校保健委員会等の保健組織活動を活用して解決に努める。
- 肥満傾向の解消、う歯の予防に向けて教職員間の共通理解を図り、養護教諭、担任等が密に連携して、組織的に健康相談・個別指導を行い、個に応じたきめ細かな指導を進める。

3 危険を予測し、回避する能力の育成【安全】

- 学校事故対応に関する指針に基づき、学校安全計画及び危険等発生時対処要領の検証・見直しや周知徹底を図るとともに、緊急時に適切に対処できるよう安全教室や防災訓練の在り方を工夫する。
- 学校における事故の発生要因を分析し、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるよう、教科等横断的に具体的な安全対応策を計画に組み入れて指導する。
 - * 小学校においては、登下校防犯プランに基づく通学路の緊急合同点検の結果を地域や関係機関と共有するとともに、安全体制の強化に務める。

4 「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」の育成【食育・学校給食】

- 子どもの食に起因する健康課題を把握し、その解決を図るための取組を食に関する指導の手引にある「食に関する指導の全体計画①、②」に位置付け、チーム学校として確実に推進する。
- 栄養教諭・学校栄養職員等の専門性を生かし、実践事例集を活用した授業や体験活動、給食試食会、講演会等を行い、食に関する指導の充実を図る。給食の時間については、地場産物の活用など学校給食を生きた教材として活用し、教科等における指導内容との関連を図りながら年間を通じて計画的、継続的に食に関する指導を行う。
- 「学校給食衛生管理基準」を遵守し、異物混入の防止や食中毒の絶無、食物アレルギー対策の徹底に努め、食の安全の意識を高める。



※ ふくしまの食育—ふくしまっ子食育指針—（平成28年3月 福島県教育委員会）

防災教育

※は参考文献等



1 地域や子どもの実態に応じた指導計画等の作成・改善

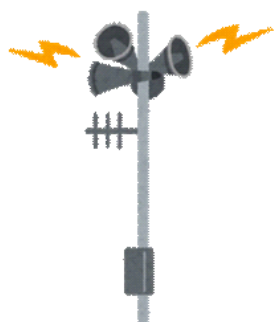
- 防災教育に関する事項を、各教科等との関連を図りながら学校安全計画や各種指導計画に確実に位置付け、教育活動全体を通じて防災教育に取り組めるようにする。
- 地域の地理的・歴史的背景を踏まえた実状や子どもの発達の段階に応じて、特に重点的に指導すべき災害に焦点を当て、指導計画を作成する。
- 関係機関等との連携を図った「学校安全計画」「危険等発生時対処要領」の改善に努める。

2 主体的に考え判断し行動する態度及び能力を高める指導の充実

- 「放射線・防災教育指導資料」や「実践事例集」等を活用し、特別活動や道徳科、総合的な学習の時間及び理科、社会科、技術・家庭科、保健体育科等の教科において、災害に関する基本的な知識と防災に対する意識を高めるための学習活動を工夫し実践する。
- 幼稚園・小学校・中学校等や、家庭・地域、関係機関等と連携しながら、時間や場所、状況等地域や学校の実状に応じた避難訓練を実施したり、地域防災マップづくりをしたりすることを通して、より実効的な防災教育を推進する。
- 地域のハザードマップ等、具体的な資料を活用して、登下校中や在宅時等、学校以外で災害に遭った場合の避難の仕方、家族との集合場所や連絡方法等、多様な場面を想定した防災教育を実践する。

3 安全で安心な社会づくりに貢献する態度を身に付ける指導の工夫

- 地域や自治体等と合同での避難訓練、避難所設営、防災学習等、実践的な場の設定を通し、発達の段階に応じて、自分の役割を理解した行動ができるようにする。
- 自助・共助・公助の視点から地域社会の安全・安心に視野を広げ、地域の人々との幅広い交流やボランティア活動など、社会貢献や社会参加に関する活動の場を工夫する。



【参考文献等】

- ※ 放射線教育・防災教育実践事例ホームページ（令和3年3月 福島県教育委員会）
- ※ 放射線教育・防災教育実践事例集（平成31年3月 福島県教育委員会）
- ※ ふくしま放射線教育・防災教育指導資料 **活用版**（平成29年3月 福島県教育委員会）
- ※ 防災教育指導資料第1版～第3版（福島県教育委員会）
- ※ 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち・ひろめるぼうさい」（平成27年 日本赤十字社）

放射線教育

※は参考文献等

1 学校や地域の実状及び子どもの実態に応じた指導計画及び指導内容の工夫と実践

- 本県における放射線教育の重要性を踏まえ、学校安全計画や学校保健計画及び各教科等の指導計画に指導内容を位置付けるとともに、放射線教育の全体計画を作成するなどして学校全体で組織的、計画的に取り組む。
- 子どもの発達段階を考慮し、学級活動や道徳、総合的な学習の時間、各教科等で放射線等に関する内容にふれるなど、教科等横断的な視点から、様々な機会を捉えて時間を確保し、繰り返し実践する。
- 各学校の取組を家庭や地域へ向け積極的に発信し、放射線教育の必要性について理解を広め、家庭や地域及び関係機関との連携を図った具体的で実効性のある指導を工夫する。

2 放射線等の基礎的な知識や身の回りで行われている復興への取組を基にした、自ら考え、判断し、行動する力を育む指導方法の工夫

- 県教育委員会発行の放射線等に関する指導資料及び国や県、市町村教育委員会作成の資料を効果的に活用して、客観的な立場から指導する。
- 放射線の利用や影響について、科学的な根拠を基に考えたり、判断したりする態度の育成に努める。中学校卒業時点で、他者に科学的な根拠を基に情報発信できる力を身に付けさせるよう努める。
- 放射線等の性質について理解を深め、身の回りで行われている食品の安全管理や健康調査、除染作業等の復興に向けた取組についての理解を深める学習の充実に努める。
- これまでの放射線教育実践協力校の取組事例及び研修の機会等を活用して、教師自身が放射線に関する基礎的な知識を獲得するよう努める。



- ※ 放射線教育用学習教材（動画教材）
（令和3年9月 福島県教育委員会）
- ※ 放射線教育・防災教育実践事例ホームページ
（令和2年3月 福島県教育委員会）
- ※ 「放射線教育・防災教育実践事例集」
（平成31年3月 福島県教育委員会）
- ※ 「ふくしま放射線・防災教育実践事例パンフレット」
（平成29年3月 福島県教育委員会）
- ※ 「ふくしま放射線教育・防災教育指導資料【活用版】」
（平成29年3月 福島県教育委員会）

3 放射線から身を守り、健康で安全な生活を送ろうとする意欲と態度の育成

- 放射性物質を体に取り込まないようにするための方法や、放射線から身を守る方法を確実に身に付けさせ、普段から実践できるようにする。
- 放射性物質を扱う施設等で事故が起きた場合の放射性物質に対する防護や避難の仕方について理解させる。

人権教育

※は参考文献等

1 人権を尊重する意識を高める教育の推進

- 人権教育の具体的な目標を設定するとともに、「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育や各教科等との関係を明確にした計画を作成し、教育活動全体を通じて人権意識を高める効果的な指導の充実を図る。
- 人権教育に関わる内容を明確にし、全ての教職員が計画的に、継続的に学校の教育活動全体を通じて働きかけるとともに、それぞれの教育活動の特質を生かした指導方法や内容を工夫する。
- 「性同一性障害、性的指向・性自認」「インターネットによる人権侵害」「いじめ」及び「新型コロナウイルス感染症にかかる差別」等の今日的な人権課題を含め、全ての教職員が人権尊重の理念を共有して指導できるよう、計画的な研修の実施に努める。

2 人権感覚を磨く教育活動の展開

- 教師自身が子ども一人一人のよさを認め、個に応じた学習活動を展開したり、自我の確立を支援したりする等の環境づくりに努めることで、子どもが自分及び他者が認められていると実感することができるようにする。
- 子ども同士が互いのよさや違いを認め合う場や機会を設定することで、思いやりに満ちた望ましい集団づくりに努める。
- いじめは人権に関わる重大な問題であり、人間として絶対に許されないという自覚を教職員自身がもつとともに、子ども一人一人の自覚を促す、心に響く指導を充実する。
- 教育環境としての教師の存在の重要性を踏まえ、教師の言動が子どもの人権感覚の醸成につながるものとなるようにする。

3 指導の効果を高める評価の工夫

- 人権尊重の視点から、学校教育における諸活動を評価する機会を設けるとともに、保護者や地域からの評価を取り入れる工夫をし、指導方法・内容や時期等の改善に生かす。

〔参考資料等〕

- ① 「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」（平成20年3月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm
- ② 「人権教育に関する特色ある実践事例」（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/jirei/1384040.htm
- ※ 「みんなで築こう男女共同参画社会公開授業実施報告書」（平成22年3月 福島県教育庁高校教育課）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/koukoukyoiku38.html>
- ※ 「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（平成27年4月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFiles/afieldfile/2016/04/01/1369211_01.pdf



①人権教育基礎資料



②人権教育に関する
特色ある実践事例



NITS動画研修「人権教育」
上越教育大学
梅野 正信



1 系統的・計画的な指導計画と校内指導体制の整備

- 教科等横断的な視点から、児童生徒の実態や発達段階に応じた年間指導計画を作成する。
特に、児童生徒にとって身近であり、学校生活の充実と向上を目指す児童会活動や生徒会活動、ボランティア活動の一層の充実を図る。
- 年間指導計画の作成に際しては、具体的な活用場面を想定し、学校の教育活動全体を通して、資質・能力を育成できるよう配慮する。
- 各教科等において、話し合いや討論などを行うことを通して、児童生徒が自らの考えをまとめていくような学習の充実を図る。

2 国家・社会の形成者として求められる力の育成

- 以下の力を身に付けられるようにする。
 - ・ 学校教育全体を通じて育むことが求められる論理的思考力
 - ・ 現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
 - ・ 現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決する力
 - ・ 公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

3 政治的中立性を確保した具体的で実践的な指導

- 学校の所在地や自分たちの住む市町村の政治、経済並びに地方自治など、地域の関係諸機関と連携した学習の充実を図る。
- 政治的、社会的事象を模擬的に取り上げたり、議論を通して多面的・多角的に考えさせたりするなど、児童生徒の発達段階に応じた取組の充実を図る。
- 児童会活動や生徒会活動、ボランティア活動などを通じて、児童生徒が、学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促す。

4 家庭や地域の関係団体などとの連携・協力

- 機会を捉えて、学校の方針を保護者やPTAなどに説明・共有することを通じ、家庭や地域の関係団体などとの連携・協力を図る。

主権者意識を育むために ～指導の手引き【改訂版】～

【学校の教育活動全体で】

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解

【家庭や地域での学習】

- 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解
- 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解
- 「政治や経済」に関する基礎的な知識・理解

【次のような学習方法を大切に！】

- 正確が一つに定まらない問いに取り組む学習
- 学習したことを活用して解決策を考へる学習
- 他者の意見や立場を尊重し、考えを深めていく学習

【家庭や地域での学習】

- 子供が家庭で基本的な生活習慣を身に付け、自ら心を使うことができるようにする。
- 選挙の一場面として手紙を渡すことにより選挙生活への参画を促す。
- 新聞やテレビのニュースを家族で見たり、話し合ったりする機会をつくる。
- 選挙の時に子供と一緒に投票所に行き、投票する姿を見せる。

【政治への関心を高めるために】

- 新聞やテレビのニュースを家族で見たり、話し合ったりする機会をつくる。
- 選挙の時に子供と一緒に投票所に行き、投票する姿を見せる。

【家庭で取り組む】

- 子供が家庭で基本的な生活習慣を身に付け、自ら心を使うことができるようにする。
- 選挙の一場面として手紙を渡すことにより選挙生活への参画を促す。
- 新聞やテレビのニュースを家族で見たり、話し合ったりする機会をつくる。
- 選挙の時に子供と一緒に投票所に行き、投票する姿を見せる。

【政治への関心を高めるために】

- 新聞やテレビのニュースを家族で見たり、話し合ったりする機会をつくる。
- 選挙の時に子供と一緒に投票所に行き、投票する姿を見せる。



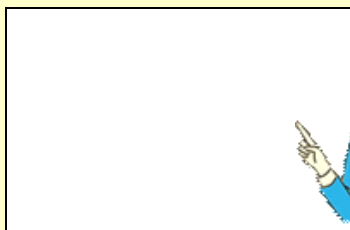
※ 「主権者教育を育むために
～指導の手引き【改訂版】～」
(義務教育課資料)

**主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～**

① 本時のねらい

【 科 第 学年 「 」 / 】

③ 学習課題・見通し



?

?

?

〔学習課題〕

④ 追究・解決



?

?

(ゆさぶり、切り返しの発問)

?

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

〔まとめ〕

振り返り



学びがい

?

?

教師の思い・願い



幼児教育と小学校教育の「育ち」と「学び」をつなぐために

育みたい資質・能力 3本の柱

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

中学校
小学校

育みたい能力・資質の3つの柱が、幼児教育と小学校教育でしっかりと接続されることが大切です。（実効性のある「スタートカリキュラム」の作成）「10の姿」を受けて、育った姿が発揮できるように工夫をし、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていきます。



育みたい資質・能力 3本の柱

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

幼稚園
保育園
こども園

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識
の芽生え

社会生活
との
関わり

思考力
の芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

数量や図
形、標識や
文字等への
関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感
性と表現

幼児教育において
小学校教育を前倒し
て行うことを意図した
ものではないことに注
意が必要です。



5領域

健康

人間関係

環境

言葉

表現

幼児教育では以下の
ような点を意識しながら
5領域を通して、10の姿
を目指し、資質・能力の
育成を進めています。

項 目	意識していること
保育の充実	健康
	「幼児期運動指針」を踏まえながら、体を十分に動かし、楽しめる遊びの内容・方法・場を工夫している。（毎日合計60分以上）
	教師、子ども同士と一緒に楽しく食べる雰囲気作りをしている。
	健康で安全に生活できる環境整備や施設・設備の工夫をしている。
	人間関係
	自分の力で行動することの充実感を味わわせる遊びを設定している。
	身近な人と親しみ、関わりを深める支援をしている。
	環境
	発見を楽しんだり、考えたりすることができる身近な環境に関わらせる機会を充実させている。
	物の性質や数量、文字などに対する興味・関心を引き出す場を設定している。
	言葉
	自分の気持ちを言葉で表現する機会を得るための関わりを工夫している。
	想像する楽しさを味わわせる絵本、紙芝居などによる読み聞かせ等を充実させている。
	表現
	豊かな感性を養う直接的な体験活動を充実させている。
	感じたことや考えたことを絵、音、動きなど様々な方法で表す遊びを設定している。
特別支援教育の充実	「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」等を作成・活用したり、関係機関との連携を図ったりしながら、教職員の共通理解の下、子どもの実態に応じた指導内容・方法を工夫している。

特別支援教育の充実のために ～Web コンテンツ等～

国立特別支援総合研究所、福島県特別支援教育センターの Web コンテンツ、
 県北教育事務所で実施している「切れ目のない支援体制整備事業」等を有効に
 活用し、特別支援教育の充実を図ってみませんか。



合理的配慮実践事例

インクルDB (インクルーシブ教育システム構築支援データベース)

表示色の変更 標準 1 2
 ・ アクセシビリティを配慮
 ・ ツールの使い方

トップページ 実践事例データベース 法令・通知等 Q&A 研究報告・リンク 教育相談情報

<実践事例データベース>

- ・ 障がい種別、校種、学級種ごとに、「合理的配慮」の実践事例が、約590件公開されている。
- ・ 「相談コーナー」が開設されており、都道府県、市町村、学校からの「インクルーシブ教育システム構築」に関する相談を受け付けている。
- ・ 「関連情報」には、「インクルーシブ教育システム構築」に関する様々な情報が掲載されている。

(リンク先 URL) <http://inclusive.nise.go.jp>

指導・支援 Q&A



<指導・支援>

- ・ 子どものつまづきを「学習面」「行動面」「社会性」の側面からQ&Aで説明している。
- ・ 発達障がい等の特性を踏まえ、子どもを理解して指導・支援する方法を紹介している。

<研修講義>

- ・ 発達障がいのある子どもの教育的支援に必要な基礎的な内容について、研修等で活用できる講義動画が配信されている。
- ・ 研修講義を活用して想定される校内研修のモデルと、実際の研修講義の活用事例について紹介している。

授業づくり・学級づくり 等



福島県
 特別支援教育センター

〒963-8041 福島県郡山市富田町字上ノ台4-1
 TEL 024-952-6497 FAX 024-952-6599
 教育相談専用TEL 024-951-5598



～「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します～

教材・支援機器ポータル コーディネートハンドブック 指導要領チェック (資料・資料シート) 実践研究通信 コーディネートハンドブック (2020年度)

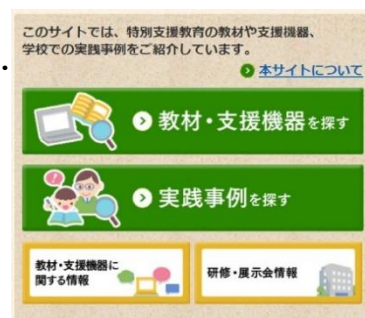
<コーディネートハンドブック>

インクルーシブ教育システムを推進するために必要な情報を、各学校の実状に向き合い、「読みやすい」「実施しやすい」をコンセプトに作成されている。

- ・ 多様な学びの場の理解を深めるコーディネートアイデア
- ・ 気付き、つながりを助けるコーディネートアイデア (ケース会議の進め方など)
- ・ 「障がいの児童生徒等への配慮」各教科等コーディネートアイデア等

教材の活用

特別支援教育センターの教材・支援機器ポータルサイト、さらに同サイトより国立特別支援教育総合研究所のサイトへリンクしている。



<特別支援教育教材ポータルサイト>

- ・ 障がい種別、ニーズ、教科等ごとに教材支援機器を検索することができ、同様に実践事例に関しても検索することができる。

相談・研修支援の申し込み

特別支援教育に関する相談・研修支援要請について

県北教育事務所

「切れ目のない支援体制整備事業」
 をご活用ください！



【まず電話でご相談ください】

県北教育事務所 024-521-2818
 学校教育課指導主事 特別支援教育担当 今野 義光

特別支援学校のセンターの機能を活用した相談支援・研修支援を行います

- ◎ 学校等からのニーズに応じて、地域支援センター（特別支援学校設置）担当教員等を派遣

<支援の内容について>

- ・ 発達、学習、行動面で気になる子どもへの対応に関する助言（ケース会議による支援策、合理的配慮の検討など）
- ・ 「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成と活用
- ・ 授業づくりに関する助言
- ・ 特別支援教育に関する教員の研修

特別な支援を必要とする子どもに関する進学時の引継について(例)

本例は、ある中学校区で行われている引継の実践、関係法令、文献等を基に作成しました。

1 引継のねらい

- (1) 中学校進学に際し、本人・保護者の理解と承諾の得られた特別な支援を必要とする児童について、小学校から中学校に必要な情報を引継ぐことにより、切れ目のない学びと支援を提供できるようにする。
- (2) 本人、保護者の中学校における生活に対しての不安等を丁寧に聞き取り、必要に応じて学校見学や中学校での教育相談を実施し、見通しをもち、安心して中学校進学を迎えられるようにする。

2 引継に関する留意点

- (1) 小学校及び中学校の校長は相互に連携を図り、特別な支援を必要とする児童に関する引継を確実、丁寧に行えるよう年間計画に位置付ける。
- (2) 校長の指示の下、小学校及び中学校の特別支援教育コーディネーター(Co)を中心に準備し、実施する。
- (3) 特別支援学級及び通級による指導教室に在籍する児童に関しては、本人、保護者の理解と承諾の下、引継を行う。引継には、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」、記録等を活用するよう努める。
- (4) 通常の学級に在籍する児童で、特別な支援を必要とする児童に関しては、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の有無に関わらず、本人、保護者の理解と承諾の下、引継を行う。
- (5) スクールカウンセラー(SC)を適宜活用する。
- (6) 引継に際して、保護者の同席などについても、臨機に対応する。

3 引継日程及び役割等について…別紙(次項)

<関係法令・通知等>

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について
(平成 30 年 8 月 27 日付け 30 文科第 756 号文部科学省初等中等教育局長通知)
- 教育と福祉の一層の連携等の推進について
(平成 30 年 5 月 24 日付け 30 文科初第 357 号・障発 0524 第 2 号文部科学省初等中等教育課長及び厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長連名通知)

<引用・参考文献等>

- ※ 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編
- ※ 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編
- ※ 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン
(平成 29 年 3 月 文部科学省)

引継日程及び役割等について

月・日程	○小学校が行うこと	■中学校が行うこと
1 学期初 夏季休業 2 学期初	<p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・承諾・評価・見直し</p> <p>○日程、内容等の打合わせ</p> <p>6年生ケース会議</p> <p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等を基に行う</p> <p>進学に向けての 教育相談</p> <p>○個別懇談週間、普段の懇談等を活用</p> <p>○本人・保護者の不安等の確認</p> <p>○中学校参観・中学校での教育相談希望確認</p> <p>本人・保護者</p> <p>○場合によっては担任等同行</p> <p>6年生ケース会議</p>	<p>■日程、内容等の打合わせ</p> <p>Co・SC等の参加</p> <p>■児童の実態を把握する</p> <p>■中学校での情報共有</p> <p>小学校での 授業参観</p> <p>■授業を参観しての児童の見取り</p> <p>■小学校との情報共有</p> <p>■Co・SC等による</p> <p>■中学校での情報共有</p> <p>学校見学 教育相談</p>
3 学期	<p>6年生ケース会議</p> <p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の評価・見直し</p> <p>※合理的配慮の確認を確実にを行う</p> <p>○引継ぎ資料の作成</p>	<p>引継会</p>
3 月	<p>担任・Co 参加</p>	<p>引継会</p>
4 月	<p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」、記録等による引継</p> <p>○中学校からの依頼を受け、ケース会議等に参加</p>	<p>※新しい学びの場で提供可能な合理的配慮の再検討・引継</p> <p>校内での情報共有</p> <p>■ケース会議等に参加を依頼するなど、必要に応じて小学校と連携</p>

これが今の私

今の自分を、見つめてみませんか。
令和4年度の自分が考えていたこと、感じていたこと…。

記入日：令和 年 月 日



[得意なこと・好きなこと]



[好きな言葉]

「最近心に残った本」

〔目標にしたい人〕

[今、夢中になっていること]

[私の夢]



「最近感動したこと」

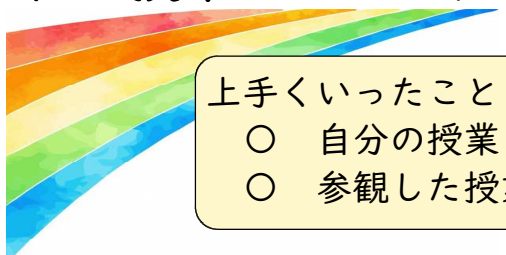
[大切にしていること]

「自分の「いいな」と思うところ」



[]

私の授業プラス日記 No. _____



上手くいったことを書き留めてみませんか。

- 自分の授業
- 参観した授業



	月 日 (曜)	教科等名	授業を振り返って (上手くいったこと等)	
1	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
2	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
3	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
4	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
5	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	

